

緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集

Vol. 10



森づくり県民大作戦支援事業（藤枝市）
静岡県グリーンバンク

はじめに

昭和 63 年に 3 月に「緑と水の森林基金」が創設されてから、33 年余の歳月が経過しました。平成 23 年 7 月には、機構の組織が社団法人から公益社団法人に変更となったことに伴い「緑と水の森林基金」は「緑と水の森林ファンド」に名称を変更し、ファンドの運用収入を活用して森林資源の整備や水源かん養等の課題を中心に、「国民参加の森林づくり運動」推進のため幅広い事業を展開してまいりました。

平成 24 年 12 月「国際森林デー」の制定、平成 25 年 11 月「国連持続可能な開発のための教育 10 年（E S D）」世界会議等の意義を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森の幼稚園など新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中で、当事業は、「国民参加の森林づくり」の一層の推進のための普及啓発、森林ボランティア活動への支援、森林環境教育を通じた次世代の育成などの課題を重点に、実施主体により中央事業、都道府県事業、公募事業の 3 つに区分し実施してまいりました。

本報告書は、このうち都道府県事業（令和 2 年度）（令和元年度・事業期間延長分）の成果を報告集として取りまとめたもので、事業内容は多種多様な課題にわたっております。ご高覧いただき皆様の活動の一助としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本冊子のとりまとめに当たりまして、ご協力いただきました皆様方に心から御礼申し上げます。

令和 4 年 3 月

公益社団法人 国土緑化推進機構

緑と水の森林基金・ファンド 刊行物一覧

- 「緑と水の森林基金」事業事例集 21世紀へ引き継ぐ森林づくり 平成2年版 (1992.4)
 「緑と水の森林基金」事業事例集 21世紀へ引き継ぐ森林づくり 平成3・4年版 (1994.8)
 「緑と水の森林基金」事業事例集 21世紀へ引き継ぐ森林づくり 平成5・6年版 (1996.3)

- 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL1 緑と水のサイエンス (1996.8)
 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL2 緑と水のサイエンス (2001.7)
 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL3 緑と水のサイエンス (2004.6)
 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL4 緑と水のサイエンス (2007.8)
 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL5 緑と水のサイエンス (2009.5)
 緑と水の森林基金 公募事業 調査研究成果選集 VOL6 緑と水のサイエンス (2010.4)

- 緑と水の森林基金 緑と水の森林基金公募事業報告集 VOL1 (2011. 3)
 緑と水の森林基金 緑と水の森林基金公募事業報告集 VOL2 (2012. 3)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL3 (2012.12)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL4 (2013.12)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL5 (2015. 3)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL6 (2016. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL7 (2017. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL8 (2018. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL9 (2019. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL10 (2020. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL11 (2021. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド公募事業報告集 VOL12 (2022. 3)

- 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL1 (2013. 3)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL2 (2013.12)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL3 (2014.12)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL4 (2016. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL5 (2017. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL6 (2018. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL7 (2019. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL8 (2020. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL9 (2021. 2)
 緑と水の森林ファンド 緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集 VOL10 (2022. 3)

目次

北海道森と緑の会

青少年育成事業 (A-1)	8
「美遊の森」体験学習事業 (A-2)	8
緑の少年団野幌森林公園道有林育樹事業 (A-4)	9
森林ボランティア活動推進事業 (A-5)	9
野幌自然休養林再生事業を中心とした普及啓発事業 (A-6)	10
次世代に引き継ぐ森林づくり事業 (A-7)	10
北海道指導林家社会貢献緑化推進事業 (A-8)	11
お魚を増やす植樹運動促進事業 (A-9)	11
森林公園観察会 (A-10)	12
林間学校 (A-11)	12
旭山希少種調査・保護、生物多様性保全事業 (A-12)	13
家族きこの観察会&野生きこの展示活動事業 (A-14)	13
町有林・げんきの森育樹事業 (A-15)	14
五稜郭保安林清掃事業 (A-18)	14
☆木育講座 (A-19)	15
ひやま木育フェスタ～全国育樹祭開催記念～ (A-20)	15
「望みの森」森林浴の集い (A-24)	16
森林及び木製遊具体験事業 (A-27)	16
生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業 (A-28)	17
津別「げんきの森」活用推進事業 (A-29)	17
緑の少年団なかしべつ冒険クラブ事業 (A-31)	18
木育ひろば in チ・カ・ホ (A-32)	18
道民森づくりの集い in 赤れんが (A-34)	19
馬追自然の森整備事業 (C-1)	19
台風被災森林の植栽後の保育活動 (C-3)	20
サミットの森プロジェクト (C-6)	20
地球を守る森林の整備事業 (C-7)	21
「ラブアースの森づくり」事業 (C-8)	21
☆里見緑地内植樹・環境整備事業 (C-9)	22
天売島における水源林整備と間伐材の有効利用 (C-10)	22
風倒被害を軽減し野幌の自然豊かな森づくり (C-11)	23
日高の森づくり事業 (C-13)	23
新ひだか町営林友の会森林づくり事業 (C-14)	24
「おさかなの森づくり運動」事業 (C-15)	24
市街地緑化事業 (C-16)	25
お魚を殖やす森づくり (C-18)	25
ユネスコの森づくり (C-19)	26
赤岩青巖峡環境整備事業 (C-20)	26
森と市民をつなぐプロジェクト (C-21)	27
「帯広の森」づくり事業 (C-22)	27
☆緑いっぱい事業 (C-23)	28

青森県緑化推進委員会

青森県森林づくり推進体験学習活動事業 (A-34)	29
木と人とのふれあい事業 (A-35)	29

岩手県緑化推進委員会

令和3年度遠野市緑化祭『里山フェスタ 2021』 (A-36)	30
---------------------------------------	----

ふるさとの巨樹・名木観察会 (A-39)	30
「どんぐり・花を育てよう事業」 (A-40)	31
宮城県緑化推進委員会	
宮城県みどりの少年団大会開催事業 (C-24)	32
秋田県緑化推進委員会	
緑と水のキャンペーン事業 (A-41)	33
市民グループ森林づくり事業 (A-42)	33
緑の少年団育成事業 (C-25)	34
森林活動指導者支援事業 (C-26)	34
山形県みどり推進機構	
緑の少年団活動のための機材等整備支援事業 (431)	35
緑化木贈呈事業 (441)	35
緑の募金普及啓発事業 (451)	36
福島県森林・林業・緑化協会	
緑化普及啓発事業 (第 29 回緑の提言・作文コンクール) (A-46)	37
森林・林業とのふれあい事業 (第 4 5 回福島県林業祭) (A-47)	38
ふくしま緑の醸成事業 (A-49)	38
茨城県緑化推進機構	
青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業 (A-50)	39
緑の体験教室開催事業 (A-51)	39
グリーンフェスティバル開催事業 (A-52)	40
森林ボランティア育成事業 (C-28)	40
山村地域づくり活動助成事業 (C-29)	41
緑化樹木等苗木無償配布事業 (C-30)	41
とちぎ環境・みどり推進機構	
森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業 (A-53)	42
青少年の教育の場としての森林の活用促進事業 (C-31)	42
群馬県緑化推進委員会	
巨樹・古木巡りツアー事業 (A-56)	43
緑の少年団活動活性化事業 (A-57)	43
埼玉県緑化推進委員会	
さいたま森林フォトコンテスト事業 (A-58)	44
緑の少年団活動支援事業 (A-59)	44
緑化普及啓発事業 (A-60)	45
千葉県緑化推進委員会	
木づかい推進・普及啓発事業 (A-61)	46
森林・林業技術講習会 (A-62)	46
九十九里海岸防災林再生植樹事業 (A-621)	47
東京都農林水産振興財団	
ふるさとの杜活力調査事業 (B-1)	48
にいがた緑の百年物語緑化推進委員会	
普及啓発情報誌「林業にいがた」発刊事業 (A-63)	49
「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業 (秋期) (A-64)	49
「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業 (春期) (A-65)	50
緑化団体活動周知・地理情報活用事業 (A-66)	50
とやま緑化推進機構	
森林・木材等普及啓発事業 (A-67)	51
花とみどりの少年団活動支援事業 (C-33)	52
森づくりグループ活動支援事業 (C-34)	52

石川県緑化推進委員会

緑化思想の普及啓発事業 (A-68)	53
県内産緑化苗木無償配布事業 (C-35)	53
森づくりボランティア・キャンペーン事業 (C-36)	54

福井県緑化推進委員会

もりとふれあい推進事業 (普及啓発事業) (A-69)	55
ふくいの森林づくり推進事業 (活動基盤の整備) (C-37)	55

山梨県緑化推進機構

普及啓発事業 緑の少年隊森林学習会 (A-70)	56
普及啓発事業 教職員森林・林業研修 (A-71)	56
普及啓発事業 子ども樹木博士認定事業 (A-72)	57
普及啓発事業 森の教材「くらしと森林」発刊事業 (A-73)	57
普及啓発事業 親子緑の集い (A-74)	58
普及啓発事業 緑化ポスター・標語コンクール開催 (A-75)	58
普及啓発事業 緑の活動発表会 (A-76)	59
普及啓発事業 (公財) 山梨県緑化推進機構設立 30 周年記念誌 (仮称) 作成費 (A-77)	59

長野県緑の基金

緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業 (A-78)	60
------------------------------------	----

岐阜県緑化推進委員会

緑化推進活動促進と活動資材提供事業 (A-79)	61
みどりの啓蒙推進事業 (A-80)	61
恵みの森づくり事業 (令和 2 年度分) (C-38)	62

静岡県グリーンバンク

森づくり県民大作戦支援事業 (A-81)	63
緑の少年団交流集会開催事業 (C-39)	63

愛知県緑化推進委員会

普及啓発 みどりに親しむ集い事業 (A-82)	64
みどりフェスティバル 2 1 春事業 (A-83)	64
苗木の育成と配布事業 (A-84)	65
記念誌発行配布事業 (A-841)	65
調査研究 ふるさと樹木診断事業 (B-2)	66
活動基盤整備 森林ボランティア養成事業 (C-40)	66

三重県緑化推進協会

県民参加の森林づくり運動推進 (巨樹・古木見学会、クマノザクラ観察会) (A-85)	67
森林イベント参加 (A-86)	67
森林ボランティア活動促進 (A-87)	68
緑の少年隊活動推進 (A-88)	68
森林教室開催 (A-89)	69
海・山連携植樹活動実施 (A-90)	69

滋賀県緑化推進会

緑の少年団育成事業 (C-41)	70
------------------------	----

大阪みどりのトラスト協会

自然環境保全団体ネットワーク事業 (A-92)	71
府民参加の森林づくりのための普及啓発 (A-93)	71

兵庫県緑化推進協会

森林整備・緑化活動支援事業 (C-42)	72
----------------------------	----

奈良県緑化推進協会

森の文化活動事業 (A-96)	73
ボランティア緑化活動事業 (C-43)	73

和歌山県緑化推進会

- 青少年を対象とする森林ESDの推進など森林環境教育の促進事業 (A-97)74
- 森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援事業 (C-44)74

鳥取県緑化推進委員会

- 活動基盤整備事業「樹名板設置事業」(A-98)75
- 活動基盤整備事業「木工工作キット配布事業」(A-99)75
- 活動基盤整備事業「青少年・民間活動グループ育成事業」(C-45)76

島根県緑化推進委員会

- 緑の少年団育成強化事業 (C-47)77

岡山県木材組合連合会

- 県産木材フェア開催事業 (A-102)78

もりもりクラブ

- もりもりクラブ普及活動事業 (A-103)78

くらしき都市緑化フェア実行委員会

- 第36回くらしき都市緑化フェア (A-104)79

岡山県緑化推進協会

- 緑化普及推進事業 (C-48)79

広島県木材組合連合会

- 「ひろもくデザインアワード」開催事業 (A-106)80

広島県みどり推進機構

- 緑の少年団交流集会開催事業 (C-49)80

やまぐち農林振興公社

- 森林体験学習支援事業 (A-107)81
- 都市と山村ふれあい交流促進事業 (C-50)81
- 記念の森造成事業 (C-51)82

徳島森林づくり推進機構

- 企業の森づくり普及啓発イベント事業 (C-52)83

かがわ水と緑の財団

- 緑化普及活動事業 (A-108)84

愛媛の森林基金

- 木工作品製作キット配布事業 (A-109)85

高知県森と緑の会

- 土佐の名所の樹木活性化事業 (A-111)86
- 森のようちえん推進事業 (A-112)86
- 高知県森林インストラクター養成講座 (A-114)87
- 活動基盤整備推進事業 (C-54)87

福岡県水原の森基金

- 森林ふれあい交流 (A-116)88
- 第30回世界子ども愛樹祭コンクール (A-118)89
- 第9回もりもり広がる森林づくり (A-120)89
- 「緑豊かな郷土づくりのための植栽整備」(A-120-1)90
- 「里まちプロジェクト」森林資源の整備と森林環境教育をもっと身近なものに！！ (C-55)90

さが緑の基金

- よかウッドフェスタ (A-121)91
- 緑の探検学習会 (C-56)91

長崎県緑化推進協会

- 森林のつどい事業 (A-122)92
- 緑の少年団活動活性化事業 (C-57)92

熊本県緑化推進委員会

くまもと森づくり普及・啓発事業 (A-123)	93
緑の少年団活動助成事業 (C-59)	93
シンボル森林の活用促進事業 (C-60)	94

森林ネットおおいた

ふれあい森林教室 (A-124)	95
名木保全事業 (B-3)	95
森林ボランティアリーダー養成研修 (C-61)	96

宮崎県緑化推進機構

緑と花のふれあい推進事業 (A-127)	97
森林浴癒しの集い事業 (A-128)	97

かごしまみどりの基金

かごしまの緑・元気な森林体験事業 (A-129)	98
かごしまの名木古木樹勢診断事業 (B-4)	99
活力のある緑の少年団活動促進事業 (C-62)	100
森林ボランティア活動促進事業 (C-63)	100

沖縄県緑化推進委員会

記念の森育樹活動事業 (A-131)	101
樹名板の作成、普及事業 (A-132)	101

令和元年度・事業期間延長分

北海道森と緑の会

「北海道木育フェスタ」春期推進事業 (A-32)	104
--------------------------------	-----

福島県森林・林業・緑化協会

第32回ふくしま緑の百景歩こう会 (C-23)	104
-------------------------------	-----

群馬県緑化推進委員会

群馬県植樹祭開催 (A-52)	105
巨樹・古木巡りツアー事業 (A-54)	105

長野県緑の基金

緑・森林の感謝祭等事業及び児童啓発事業 (A-75)	106
----------------------------------	-----

高知県森と緑の会

森の魅力普及啓発事業 (A-109)	106
--------------------------	-----

熊本県緑化推進委員会

緑の少年団活動助成事業 (C-57)	107
--------------------------	-----

青少年育成事業（A-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

（学校緑化）

地域の核ともいえる市内小・中学校の環境緑化を実施し、児童生徒が花壇等を作成し世話をする中で、緑への理解と愛情を深めたもの。

（青空園芸教室代替事業 寄せ植え体験）

新型コロナウイルス感染防止のため、人との接触や密を避け実施した。市内小学生を対象に、動画での予習、寄せ植えの実習を行うことで緑の大切さを学んだもの。

2. 活動の成果

（学校緑化）

校内の花壇等を自ら植えて育てることによって、身近な緑を慈しむ心と自然の恵みに感謝する心を育て、これからの街づくりを担う子供たちへの緑化思想の普及となり、花と緑あふれる美しい環境づくりを推進できた。

（青空園芸教室代替事業 寄せ植え体験）

今回の寄せ植え体験を通して、花や野菜、木についての知識を身につけ、自ら植えて育てることによって、身近な緑を慈しむ心と自然の恵みに感謝する心を育て、これからの街づくりを担う子供たちへの緑化思想の普及となり、花と緑あふれる美しい環境づくりの推進に貢献した。

3. 参加者の声

（学校緑化）

参加者は、緑の大切さを学び、緑への関心を高めたようであった。育てる喜びを知り、緑の街づくりへの意欲を感じられた。

（青空園芸教室代替事業 寄せ植え体験）

参加者は、より緑を身近に感じ、楽しんで学習している様子で、今回の体験のほかに別の植物も育てたいとの希望があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月19日～ 6月14日	6月22日	6月22日	6月23日	6月23日	計
事業量	8回	1回	1回	1回	1回	12回
参加者数	223人	15人	37人	53人	14人	342人
実施場所	市内小中学校（8校）	納内小学校	深川小学校	一巳小学校	音江小学校	

「美遊の森」体験学習事業（A-2）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

美唄市の国有防風林内において、子ども達に木や森との関りについて学習する体験学習会を実施した。

内容は、防風林の機能と役割についての講義と林内で木々の種類や昆虫などを題材にしたゲームや散策をしながら森と接する木育学習を行い、自然に触れる体験を通して、森林の大切さや自然への理解を深めてもらい、子どもたちの豊かな心を育むことを目的とした。

2. 活動の成果

今回の学習会では、子ども達が木育マイスターの講義を熱心に聞き入り、遊びを通して木や森の役割を学ぶ機会を提供することができた。

また、実際に林内に生息するカエルや昆虫に直に触れ、防風林内にて木育マイスターの話聞きながら自然に触れることができた。

子ども達にとって木育の専門家から話を聞くことで、新たな視点で木や森について学ぶことができたと思う。

3. 参加者の声

- ・防風林の一番大きい木が20mもあるので、驚きました。
- ・農作物を守るために防風林があるということが、よくわかりました。
- ・防風林は、木の高さの十倍の距離を風から守っている事を知って驚きました。
- ・ツタウルシという、触るとかぶれる危険な植物があるのを知りました。
- ・葉っぱで作ったしおりを大事にします。
- ・このような体験をさせて下さり、ありがとうございました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月2日	計
事業量	小学4年生課外授業	
参加者数	57人	57人
実施場所	国有防風林内 (美唄市開発町南)	

緑の少年団野幌森林公園道有林育樹事業（A-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林に親しみ、森林を守ろうとする意識を醸成することを目的として、うらうす緑の少年団員を対象に、野幌森林公園道有林等において枝打ち体験を行った。体験当日は枝打ち体験のほかに、植樹活動や森林散策を行った。

2. 活動の成果

活動を通して、団員は森林に親しみ、森林に対する知識を深めることができた。今後も森林に出向き、様々な体験活動ができればと考えている。

3. 参加者の声

団員は、枝打ち体験を楽しみながら行っていた。体験が終わった後「まだやりたい」との声も聞かれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月26日	計
事業量	枝打ち体験	
参加者数	7人	7人
実施場所	野幌森林公園 (道有林)	

森林ボランティア活動推進事業（A-5）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

令和2年度活動前期（5月から7月）は新型コロナウイルスの感染拡大により、活動拠点の道民の森が一時閉園となり、また再開後も植樹活動や団体による森の観察会が中止となるほか、感染防止のために春季と秋季の室内研修会は取り止め、活動員に限定した現地研修会だけを実施した。

活動自粛期間中は、後半の活動に備えて森林の姿や働きを紹介する冊子「森の観察ガイド」及び荒天時の室内用「解説画像（パワーポイント版）」の編集・作成作業を行なった。

なお、活動後期（8月から10月）には前期に未実施となった森林環境学習に想定以上の多くの小学校の参加があった。観察時には「森の観察ガイド」を参加者に配布し、北海道を代表する落葉広葉樹と針葉樹からなる天然林に生育する動植物の観察を通して、生存競争を生き抜く動植物の逞しさと共生する姿を体感してもらった。

2. 活動の成果

道民の森において「森の観察」及び小学校児童の森林環境学習時に森林の生き立ちとその大切さ、及び人と森との関わり合いについて解説し、理解を深めることができた。

また、水源の森ではトドマツ、ミズナラ等の郷土樹種の植樹指導を実施し、森林整備の大切さを実感していただいた。

さらに、道民の森の各種催事に参加し、森と触れ合うことによるやすらぎと楽しさ、森が人に与えてくれる役割の大切さを感じてもらったための支援活動を実施した。

このため活動全般としては、最盛期に活動が自粛されたことが大きく影響したが、対前年比65%の活動実績にとどめることができた。

3. 参加者の声

森の観察会の参加者からは森林に立ち入ることにより、何気ない森の中での生物の生きるための闘い、弱肉強食と食物連鎖、子孫を残すための知恵比べ、共存共栄の様子を観察し、森林の懐の深さと大きさを再認識していただいた。

また、植樹活動の参加者からは汗を流して木を植えることにより樹木への愛情が生まれ、地球温暖化防止に役立つ森林造成の役割を理解してもらうことができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R2.5.1～R2.10.31	計
事業量	218人	218人
参加者数	1959人	1959人
実施場所	北海道当別町、月形町	

野幌自然休養林再生事業を中心とした普及啓発事業（A-6）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

野幌自然休養林にある捕植地（団体内ではシーズネットの森と呼ばれている）は、平成17年（2005）から続けていた植樹、下草刈り、ツルきり等の活動ですが、新型コロナ流行に伴い中止しました。

創成川公園でのポット苗づくりも、計画団体（林野庁）の中止により活動中止。

唯一、道民の森での下草刈りと植樹及び森林観察会は計画通り実施し、森林の環境への影響、重要性を十分に体現しました。

新企画として、来年度の植樹苗を自分たちで育てようと、ドングリの採取、ベランダでのポット栽培を20名でチャレンジしています。森林教室は3密の理由で中止しました。

2. 活動の成果

200万人都市の近くに「道民の森」があり、市民の憩いの場となっている一部に、当会の活動の場があることが、参加会員の誇りになっています。

森林がレクリエーション機能だけでなく、地球温暖化防止や環境改善（大気浄化機能）に係わっていることを体験的に学習（植樹と現地での森林観察会）しました。

3. 参加者の声

- ・コロナ流行の中、計画通り実施して頂き、大変嬉しかった。
- ・ソーシャルディスタンス、3密、手指の消毒、マスク着用と色々の制約のある中、勇気ある企画に賛辞。
- ・広い大地で、コロナを忘れて楽しく労働、そしておしゃべり。何か月振りだったでしょう。明日以降に体が痛くなるかもしれませんが、今日はぐっすり寝れそうです。
- ・この弱弱しい一本の木が、20～50年後に大きく育ち、孫たちへの贈り物になるかと思うと、涙が出そう。
- ・来年も来て、下草刈りをきちっとしたいと思って居ます。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月16日	9月23日	10月13日	12月15日	計
事業量	活動事前調査	下草刈り 植樹 自然観察会	ドングリ拾い 苗木栽培	苗木栽培 追加	
参加者数	8人	22人	18人	2人	50人
実施場所	当別町 道民の森	当別町 道民の森	札幌市 (円山公園) 各自自宅	各自自宅	

次世代に引き継ぐ森林づくり事業（A-7）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・音更町において、地域住民（児童・生徒・親子）を対象に木工教室を開催し、森林・林業、木材利用に関する体験活動を実施した。
- ・置戸町において、地元中学生を対象とした植樹・枝打ち体験学習を開催し、森林づくり体験活動を実施した。
- ・足寄町において、地域住民を対象に林地残材を活用したイベント「ウッドキャンドルナイト」を開催し、林業や森林について広く紹介し、理解を深めるイベントを実施した。
- ・森町において、しいたけ種駒の植菌体験を開催し、植菌のほか「森林の役割」や「木の種類と特徴」等も解説し、森林・林業、木材の活用について普及啓発を行った。

2. 活動の成果

- ・木工教室を通じて、地域の木材に触れ親しむことで、森林・林業や木材利用について、理解促進を図ることができた。
- ・児童・生徒等が体験学習を通じて、森林の働きや森林づくりの方法等を学び、森林への関心を持つとともに森林の大切さや森林整備の重要性を理解してもらうことができた。
- ・きのこの植菌体験を通じて、森林の恵みに対する理解や林業・特用林産業への関心が高まると共に、林産物の供給など森林の公益的機能についての理解が深まった。

3. 参加者の声

- ・木工教室では、大人から子供まで楽しんで「釘を打つのが楽しかった」、「丸太が切れて楽しかった」などの意見が多く好評であった。
- ・植樹作業では、「作業は大変だが楽しかった」「森林整備の重要性が理解できた」等の意見が多く、森林づくりに対する理解を深めていた。
- ・ウッドキャンドルでは、「初めて見て、体験して新鮮だった」、きのこ植菌では「きのこの種類によって好きな木（樹種）が違うことがわかった」等の意見があり、森林・林業の普及PRができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月2日	10月30日	12月19日	4月18日	計
事業量	木工教室 薪割り体験等	林業体験活動 (植樹0.87ha外)	林地残材を活用したツリー やウッドキャンドル等の見 学。パンフレットの配布	しいたけ種駒の植菌体 験（ミズナラほだ木 200本）	4回
参加者数	児童・生徒等 52人	中校生・教諭等 36人	地域住民等 50人	児童・生徒等 23人	161名
実施場所	音更町 (十勝エコロジーパーク)	置戸町字豊住	足寄町 (あしよろ銀河ホール21)	森町 「直売所 北の森町噴火 湾」駐車場	

北海道指導林家社会貢献緑化推進事業（A-8）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・弟子屈町内の小学生を対象に「木とあれあい、木に学び、木と生きる」機会を設定し、「人と、木や森とのかかわり」を主体的に考える豊かな心を育むための活動を実施した。
- ・留萌管内の林業関係者との協同により、留萌振興局合同庁舎ホール及び天塩合同事務所に留萌産トドマツによるクリスマスツリーを設置。飾り付けに留萌市内の保育園児がトドマツ単板シートによるオーナメントと合わせ、松ぼっくり等を利用したミニツリーを制作。指導林家からは資材を提供するとともに独自の説明資料を配付しトドマツの理解を促した。制作したオーナメントはクリスマスツリーに飾り付けることにより、来庁者の見学に供した。

2. 活動の成果

- ・森林散策や木工作成において、「木とあれあい、木に学び、木と生きる」児童・生徒等の森林に対する親しみや林業・木材産業への関心が高まると共に、森林整備の必要性・木材の良さについて理解が深まった。
- ・保育園児（年長のみ）は、木の素材に直接触れながら制作することにより、木材利用への関心を高め、留萌管内に多いトドマツのことを知ってもらうことにより、緑化への関心を高めることができた。
- ・制作されたオーナメント等をクリスマスツリーに飾り付け展示することにより、来庁者に緑化思想の啓蒙を図ることができた。

3. 参加者の声

- ・指導林家とともに木とふれあう森林散策では、混み合っている山の手入れについての話や木の葉、木の枝、ドングリなどの木の実、山ぶどう、キノコなどの採取、観察するなど「森林は楽しい！」と声を上げていた。
- ・木工体験では、各ブースを交代で回り、木のスプーン作り、シマエナガさんバードコール作り、アカエソマツなどのアロマハンドクリーム作りを楽しそうな様子で木工品等を仕上げている。また、たき火屋さんでは、薪割り体験をするなど、木が道具やエネルギーとして役立つ（木は2度生きる）ことを理解する子供達もいた。最後にふりかえりを行い、「木と遊ぶと楽しい」、「木は人の暮らしに役立つことがわかった」と感想を述べていた。
- ・園児達はオーナメントに思い思いの色を塗り、ミニツリー制作でも小さなビーズの接着に苦労しながらも諦めずに完成させ、「きれいにできた」、「木のいいにおいがする」と好評であった。
- ・子供達の制作したオーナメント等をクリスマスツリーに飾り付け展示し、来庁者からは「木に親しみを持った」、「地元の木を使ったツリーは素晴らしい」との好評を得た。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月10日	12月8日～25日	12月9日	12月10日	12月11日	計
事業量	林業体験教室	クリスマスツリー設置	オーナメント等制作	オーナメント等制作	オーナメント等制作	5回
参加者数	小学生18人、関係者5人、計23人	関係者26人	保育園児13人、保育士1人、関係者4人、計18人	保育園児26人、保育士3人、関係者4人、計33人	保育園児22人、保育士3人、関係者4人、計29人	129人
実施場所	弟子屈町：RACAMP摩周（桜ヶ丘森林公園オートキャンプ場）	留萌市：留萌合同庁舎道民ホール 天塩町：天塩合同庁舎ロビー	留萌市：沖見保育園	留萌市：みどり保育園	留萌市：留萌保育園	

お魚を増やす植樹運動促進事業（A-9）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

当別町「道民の森」において、水産関係者や農業・林業関係者9名が参加し、ミズナラ・イタヤカエデ・ニレ計500本を植樹した。新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、例年よりも規模を縮小して30名程での実施を計画したが、非常事態宣言の延長を受け、やむなく事務局他ごく少数の関係者にて植樹を実施した。

2. 活動の成果

植樹を通じ、植樹の大切さや森-川-海の繋がりについての理解を深め、海洋環境の保護について様々な分野において認識を広めてきた本事業は、前年度、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、やむなく中止とせざるを得なかった。一度停滞してしまった植樹の取組であるが、これまで継続した歴史、これから継続する未来のため、本年度新たな土地での植樹を成功させることによって、森づくり活動の継続と植樹活動士気高揚を実行でき、次年度以降の活動へとつなげることができた。

3. 参加者の声

晴天の中、汗を流しながら苦労して苗木を植えた参加者からは、植樹作業の大変さとこれまで積み上げた漁業関係者による植樹の歴史の重みを感じられた、といった声が聞こえた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月27日	6月1日	7月16日	計
事業量	地拵え	植樹	下草刈	12回
参加者数		9人		9人
実施場所	道民の森 神居尻地区「水源の森」			

森林公園観察会（A-10）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

札幌市近郊の一般市民を対象に参加者を募集し、札幌テレビ塔下から借上げバスで「野幌森林公園観察会」と題して野幌森林公園カラマツコース及び樹木園において一般市民26名、当会ガイド11名、計37名で観察会を開催した。なお、参加者に対しては観察ポイントの樹木の特徴、森林の沿革を事前に調査し、これに基づいた資料を配布して実行した。

2. 活動の成果

今回の観察会を通して一般市民に対して森林林業の重要性、自然のたくましさ、美しさ、多様性について関心を持っていただけたのではないかと考えている。

3. 参加者の声

- コロナ禍の中で自然にふれる機会がなかった中での観察会の開催は嬉しかった。
- 原の池付近の樹齢100年の樹高35mのドイツウヒの人工林に感銘を受けた。
- 野幌樹木園の100年以上経った多種多様な人工林は素晴らしく特に一本のトチノキが残した小中径木（天然更新）の林に感銘を受けた。
- 配布された資料は、分かりやすくとても良く出来ている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月26日	10月2日	計
事業量	植物調査	自然観察会	
参加者数	11人	37人	48人
実施場所	・野幌森林公園・野幌樹木園（江別市）		

林間学校（A-11）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ①ねらい
 - ・縦割り班活動の一環として位置づけ、協力しながら集団生活を創造し、集団生活の仕方を学ぶとともに楽しさを実感する。
 - ・自然とふれあい、自然のすばらしさや不思議さ、人と自然とのかかわりに気づく。
- ②日時 令和2年9月11日（金）9：00～18：30
- ③林間学校活動
 - オリエンテーリング（えこりん村）午前
 - アクティビティタイム（松恵小学校）午後
 - キャンドルサービス（松恵小学校）夕方

2. 活動の成果

えこりん村でのオリエンテーリングでは、えこりん村の銀河庭園内を散策し、きれいな花々に囲まれた庭園を歩くことで、自然のすばらしさや不思議さなどを感じることができた。

午後は「アクティビティタイム」として、学校で「クイズビンゴゲーム」「紙飛行機飛ばし大会」「障害物リレー&しっぽとり」「紙コースターゲーム」の4つの遊びに取り組み、特に「クイズビンゴゲーム」は、学校農園で行い、野菜等に関するクイズに取り組み、自然に親しみながら楽しく活動できた。

夕方は、雨のため、体育館での「キャンドルサービス」に変更し、体育館を明るく照らして、その火の周りで集会係が考えた遊びとして、体育館には集会係だけが集まり、他の児童は、各教室で体育館の映像を見ながら遊びを行った。

今回の全ての活動を1～6年生の全児童を8つの縦割り班に分けて行い、高学年児童がリーダーシップを発揮する姿が多く見られたとともに、今回の林間学校を通して、子どもたちは自然に親しみながら、本当に楽しそうに活動することができた。

3. 参加者の声

- ・えこりん村のオリエンテーリングで楽しかったことは、洞窟で声を出しながら走ったことです。冒険みたいで楽しかったです。途中で色々な先生にクイズを出されて楽しかったです。
- ・学校農園で野菜のなぞなぞビンゴゲームをしたことが楽しかったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月11日	計
事業量	オリエンテーリング アクティビティ	
参加者数	113人	113人
実施場所	恵庭市えこりん村 恵庭市立松恵小学校	

旭山希少種調査・保護、生物多様性保全事業（A-12）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「令和の樹林作り」では、「巨木の谷」において、外来種を除去し在来の樹木を植えた場所に、子供たちの手作りによる啓発看板と各自が森の守り神をイメージした木工によるアイキャッチを作り、文字看板とともに設置した。また、保全活動として、伐根してもまた芽吹くニセアカシアをはじめとした外来種を取り除く作業を定期的に行った。

「蝶の回廊作り」では、「学びの森」に植えたエゾエノキの木が大きくなったので、子どもたちが、生き物の冬越しを助けるため設置した木枠を大きなものへと作り直した。また、生き物のエサとなる木を植え、幼虫の冬越しを助け、繁殖地を守る活動をより多くの人に知ってもらうため、毎月一回11月まで自然観察会を開催、更には、近隣小学校へ講演のための講師派遣や、現地学習への支援もおこなった。

2. 活動の成果

自然の保全活動や生き物の繁殖地を守る活動により、発足時の小学生メンバーの卒業生がその意義を理解し、中学生になって引き続き活動を続けてくれることになった。また、近隣小学校への学習支援や地道な取り組みが実を結び、新たなメンバーの加入もあった。このような中、コロナ禍にも負けず活動を続けた結果、小中学生が環境のための取組を発表する「札幌こども環境コンテスト」動画の部で最優秀賞を受賞し、メンバーのモチベーションを高めるとともに、広く活動の普及・啓発を行うことができた。

3. 参加者の声

- ・子供たちが自ら活動する、楽しそうに土を掘り、いつまでもやり続ける姿が印象的です。
- ・やりたいことや知りたいこと、失敗してもやってみる姿が素敵です。
- ・毎年、どんどん道具を使うのがうまくなって、成長を感じます。
- ・よちよち歩きだった下の子が、もう隊員です。
- ・生き物が好きだという気持ちに留まらず、環境保全まで行なうなんてすごい！
- ・生き物の多様性を考え、同時に子供の個性も考えました。色々肯定できる気がします。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～11月 (5回)	9月8日	9月29日 10月18日	計
事業量	自然観察会	学校後援会	現地学習	8回
参加者数	82人	150人	300人	532人
実施場所	旭山記念公園	緑丘小学校	旭山記念公園	

家族きのご観察会&野生きのご展示活動事業（A-14）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林を大切にすることを心を持っていただくため、ゴミ拾いをしながらのきのこ観察会を実施。

秋の実りであるキノコを安全に食していただくため、毒キノコによる食中毒防止の目的でもある。

札幌市近郊の一般市民を対象に、旭山記念公園と旭山都市環境林において開催。

参加者を3班に分け、各班ごとに森林に入り、発生しているキノコを手に採り、それぞれ説明し、林内の観察終了後は、採集キノコを分類し、星野先生（農学博士）と小林先生（理化学博士）にキノコの食毒などを含めた生態説明を行っていただいた。

当初は、採集キノコで「きのこ汁」を行う予定だったが、コロナ禍で中止した。

2. 活動の成果

今回の観察会を通して、キノコを取り巻く自然環境とキノコの生態、食・毒の見分け方などを学んだので、食中毒の防止につながった。また、料理方法などの意見交換もあり、美味しく食べていただけることも学んだ。

森林を育て、守ることの大切さを知り、森づくりに参加していただくきっかけとなり、森づくりへの波及効果が考えられる。

3. 参加者の声

- ・一般市民の参加者は、身近な旭山記念公園に食・毒含めて多くのキノコが発生していることに驚いていた。
- ・イタリアで重宝されているボルチーニの発生に興味津々。
- ・食せるキノコが意外と多いことを知る。
- ・橙色の美しいタマゴタケが沢山採れ、鑑定会場の大量の展示に目を見張り、食べてみたいとの声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月27日	計
事業量	家族きのご観察会 (キノコ採集 68種類)	
参加者数	53人	53人
実施場所	札幌市旭山記念公園& 旭山都市環境林	

町有林・げんきの森育樹事業（A-15）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

京極町字川西、町有林「げんきの森」で、樹齢14年のミズナラの通直な育成を目指すため、枝打ちを実施。

会員である町内会長、みどりの少年団、林友会等により行われた。

「げんきの森」は、カラマツ林伐採跡地2.22haに平成19年度町有林整備事業によりha当たり2000本のミズナラを植林しており、現在まで様々な団体の助成事業により、保育がなされてきた。

2. 活動の成果

今回の育樹会は、新型コロナウイルス感染症予防のため、例年よりも人数を縮小し、マスクを着用するなど感染対策を取り入れながらの開催となったため、一人一人が枝打ちを行う回数も増え、十分に作業を行うことができた。

また、森林室や林友会の指導・補助により、みどりの少年団などの参加者も、枝打ちについて学ぶ事が出来た。

3. 参加者の声

例年参加している人が多かったが、みどりの少年団の子供達からは、最近は外に出て遊ぶ機会が少なくなっていたため、良い機会になったなどの声があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月30日	10月25日	計
事業量	会場設営準備	育樹会	
参加者数	-	14人	14人
実施場所	町有林 「げんきの森」		

五稜郭保安林清掃事業（A-18）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

五稜郭風致・保健保安林の塀の修理や草刈り、植木の選定、巣箱の清掃・付け替え、ゴミ拾いなどの清掃を行うことによる緑化思想の普及啓発及び美化意識の向上。

2. 活動の成果

貴重な風致・保健保安林の保護意識の向上と緑化思想の普及啓発及び美化意識の向上が図られた。

3. 参加者の声

市街地にある貴重な五稜郭風致保安林を、今後とも守り育てていこうと確認しあった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月17日	計
事業量	塀の補修、草刈り、剪定、清掃活動	
参加者数	43人	43人
実施場所	函館市柳町 〃 本通り 五稜郭風致保健保安林	

☆ 木育講座 (A-19)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

函館市の神山児童館にて、児童館へ通う児童(小学1年から中学1年生)を対象に「緑と茶色、森と生活をつなぐ木育ワークショップ(道南スギのツール作り)」を実施しました。

内容は、まず木育「木にふれ・木に学び・木と生きる」について、ツールの材料「道南スギ」についての説明をしてから、作業に入りました。作業では、ノコギリでカット、ヤスリ掛け、ボンド・電動ドライバーによる組立を行いました。作業中、木は環境に優しい、加工性に優れている、木材の良さを説明しながら進め、怪我等無く、全員完成させました。自分の手で作ったツールは、地元の木で出来ている、この木は森から出てきたものと想像を深めることができました。

2. 活動の成果

木製品は木から出来ている、そして木は森へ繋がっていることを理解してもらった。また、難易度の高いツール作りでしたが、指導を受けながら最後まで完成させる事で、人生で困難にぶつかっても、ひとつひとつ丁寧に理解しながら進めれば、解決できることを学んでもらえました。今回行った児童館の運営母体が、他に2つの児童館を有しており、そこでも同様のワークショップを開催したいとのことで、渡島総合振興局東部森林室の協力にて7月31日(金)8月28日(金)に開催することになった。

3. 参加者の声

参加者から、「木と森が繋がっていることを初めて知った」「最初は難しそうだったけど、指導を受けながら完成できて嬉しかった」「ノコギリが難しかったけど、楽しかった」との意見が聞かれた、また、参加者の保護者から、「こんな素晴らしいツールを作らせていただき、ありがとうございます」と感謝の言葉も多く聞かれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月19日	計
事業量	ツール 11脚	1回
参加者数	11人	11人
実施場所	神山児童館	

ひやま木育フェスタ～全国育樹祭開催記念～ (A-20)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

厚沢部町が所有する土橋自然観察教育林は、過去に大規模な山火事によって大きな被害を受けた結果、当時の松前藩がヒバの伐採を禁止し植生の保護に努めてきた歴史があり、現在は町有林として保護管理されている。

このような歴史的背景と豊かな自然を合わせ持つ山林の活用と保全を目的として、檜山管内木育マイスターや檜山振興局森林室の協力のもと、木育フェスタを実施した。

2. 活動の成果

レクの森の散策では、林内で見られるヒバやホオノキといった植物の解説に加え、木の見分け方や紅葉の仕組みといった学術的な解説も行われ、参加者の森林に対する関心が高まった。

木育ワークショップでは、身近な植物を使った木染め体験や、木の実や枝を使った木工クラフト体験、森の役割や機能の説明を通して、森林や樹木の恵みを体験してもらうことができた。

今回の木育フェスタを通して一般市民に対する森林・樹木の重要性についての普及啓発の一翼を担うことができた。

今後も、更に多くの方に土橋自然観察教育林を知ってもらうために、今回のような木育フェスタを継続していきたいと考えている。

3. 参加者の声

- ・小さい頃は気にならなかった落ち葉や植物を、よく観察することができて良かった。
- ・厚沢部町に残っている貴重な自然を、これからも大切にしていきたい。
- ・植物から採った色を使う木染めや、たくさん木工ができて楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月31日	計
事業量	森林散策、 木育ワークショップ等	
参加者数	39人	39人
実施場所	厚沢部町 土橋自然観察教育林	

「望みの森」森林浴の集い（A-24）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林内での新型コロナウイルス感染症に関するガイドラインを踏まえ、予定していた小学生参加による植樹活動を役員のみでの参加とし、更には、森林浴などのイベント行事はすべて中止せざるを得なかったが、地域住民が集う「望みの森」のシンボルとなる大苗のエゾヤマサクラの植樹活動を行った。

2. 活動の成果

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定していた事業（行事）は役員5名によるエゾヤマサクラの植樹のみとなったが、今後の植樹の大切さの理解を深めてもらうことや森林利用を進めていくためのシンボルとなる大苗による植樹を行うことにより、未来に向かって着実に取組を進めるための基礎ができた。

3. 参加者の声

- ・コロナ過により役人のみによる植樹活動になったが、この取り組みを絶やすことなく継続することができた。
- ・地域住民の視界に入りやすい大苗サクラの植樹ができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R2.10.8	計
事業量	植樹活動	1回
参加者数	5人	5人
実施場所	上川北部森林室管理区内1林班「望みの森」	

森林及び木製遊具体験事業（A-27）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林を散策することで、森林の役割・大切さを知ってもらい、参加者の木への関心を高めるとともに、木製遊具を外で遊ぶ体験をしてもらうことにより、木材の利用拡大を身近なところから推進していく。

- ・森林散策（森林のお話と森の端材集め）
- ・育樹活動
- ・木工体験事業
- ・木製パットパットゴルフ
- ・サクランボ狩り

2. 活動の成果

日時 令和3年7月11日（日）美幌みどりの村・美幌町

参加人数 18名、森林散策、森林の説明、クイズ等を行い森の仕組みを理解することができた。また、専門家からの育樹体験を行い樹木の役割を理解することができた。地域材で製作した「木製パットパットゴルフ」により木材の利用拡大を理解することができた。小物入れ体験も行い木工体験もできた。最後にサクランボ狩りを行った。

3. 参加者の声

- とても楽しく森の仕組みがわかることができた。
- パットパットゴルフが面白かった。さくらんぼが美味しかった

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月11日	計
事業量		
参加者数	18人（親子）	18人（親子）
実施場所	美幌町	

生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業（A-28）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

ボランティア活動による森林づくりを通じて、森林に対する理解を深め、その仲間の輪を広げることを目的として活動しています。

具体的には、森林管理署との「ふれあいの森」協定に基づく活動、遊歩道等の整備、森林散策会、写真展などを行っています。

また、常呂川森林ふれあい推進センター等が行っている針広混交林をめざす自然再生事業等への参加・森林教室等での協力活動を行っています。（今年度はコロナ感染予防の観点からイベント等はほぼ中止）

2. 活動の成果

ボランティアの活動を通じて、森林・林業、自然、環境等に対する関心が高まり、知識が深まるとともに積極的な一般市民への働きかけ（啓蒙・普及）が行われるようになっていきます。

今年度は、「私が見つけた自然 4 コマで感じる写真展」を企画・実施できました。

3. 参加者の声

- ・写真展はすばらしい企画、今後も続けてほしい。
- ・コロナ自粛疲れを癒やしてくれた。（秋の森林散策会）
- ・自然にふれ、心も身体も満たされた。（炭焼き体験）

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～10月	10月5～8日	10月	11月	2月	7月～2月	計
事業量	森林づくり活動（3回）	森林散策会	炭焼き体験	活動写真展	自然観察会	勉強会等（5回）	
参加者数	30人	41人	23人	約200人	20人	40人	154人
実施場所	北見市、網走市（オホーツクの森）	北見市（森林公園）	北見市	北見市	佐呂間町	北見市	

津別「げんきの森」活用推進事業（A-29）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「げんきの森」を活用し町内の子どもたちへの森林体験活動の機会提供に取り組む。

(1) ツリーイング

ツリーイング体験を通じて木と直接触れあい、木と人の関わりなどの学習を行う。

(2) 林業体験学習（ヤキイモ作り・枝打ち・ネイチャーゲーム・のこぎり体験）

森を育む心と森林の機能や役割について学習するとともに、地球温暖化防止に森林・林業が果たす役割の理解を深めるため枝打ちを実施する。

2. 活動の成果

(1) ツリーイング

普段体験しない高さから森林を観察し、森林を構成する樹種の違いなどを認識する機会を設けることができた。

(2) 林業体験学習

アカエゾマツ人工林における枝打ちの体験を通して人工林を育成する過程を学ぶことができた。また、ネイチャーゲームを通じ、樹木への興味や関心を高める場を提供することができた。

(1)(2)を通して、子どもたちは森林での活動の楽しさや森林の大切さを感じることができ、森林・林業への理解も深まった。

3. 参加者の声

(1) ツリーイング

最初は戸惑いを見せる児童も見られたが、徐々にコツをつかみクライミングを楽しむようになった。空中にいる感覚や普段見られない樹の上から見る景色に歓声が上がった。

(2) 林業体験学習

ヤキイモ作りでは、落ち葉を夢中になって被せ、できあがった焼き芋はおいしそうに食べていた。枝打ちは、子どもたちは集中して楽しく取り組んでいた。ネイチャーゲームでは、いろいろなところに目を向けるなど、木や森に興味を持って活動していた。子どもたちは心もおなかも満たされ笑顔で帰っていった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R2.10.24	R3.5.8	計
事業量	林業体験学習	ツリーイング体験	2回
参加者数	10人	20人	30人
実施場所	津別「げんきの森」（津別21世紀の森）等		

緑の少年団なかしべつ冒険クラブ事業（A-31）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

なかしべつ冒険クラブは、豊かな自然環境を活用した自然体験活動を主として、自然を愛し、ふるさとを愛す心を育てるとともに、集団活動を通じて相互に協力し合い、友情を深め、心身ともに健全で豊かな人間性を培い、また緑の募金活動や植樹活動等の奉仕活動、地域の行事等にも積極的に参加し、地域社会の一員としての自覚を高めることを目的に、年間を通じて様々な自然体験プログラムを実践しています。地元の講師に支えられながら実施した野鳥観察や乗馬体験など専門的な分野にも触れながら、今年も楽しく活動できたと感じております。そのフィールドがあるのは緑を守る活動があつてこそということをつとめを団員たちは理解しており、森林愛護の精神も活動の中で養うことができています。

2. 活動の成果

今年度はコロナ禍の影響により、団員の募集や指導が3ヶ月遅れるなど、団員の減少にもつながり、大変厳しい年となりました。また、緑の少年団の柱となる「緑の募金」や「植樹祭」が中止になってしまったこともとても残念でした。7月以降は、感染対策を万全に、育成会や中学・高校生の力強いサポートにより、無事に活動を行うことができました。また、今年度は冒険的な要素を多く取り入れ、団員同士が話し合い、自ら計画することに重点をおいて活動してきたことで、団員の達成感が増し、より充実した活動になったと感じております。さらに、育成会との連携により、安全面でのサポート体制が充実したことも大きな成果であったと感じております。団員数が大幅に減ってしまいましたが、心機一転、今後も団員にとって心に残る活動を展開していきたいと考えております。

3. 参加者の声

団員の父母からは、年々たくましく成長する子どもたちの姿にたくさんの感謝の言葉をいただきました。今後も地域の子どもたちとともに地域に根ざした活発な事業展開をしてまいります。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月6日	7月19日	8月22日	10月3日	10月10日	10月24日
事業量	新しい出発 (開始式)	オリエンテーリング	サイクリング	野鳥観察会	登山	林業体験
参加者数	20人	16人	16人	15人	21人	20人
実施場所	中標津町 (緑のふるさと 研修舎)	中標津町 森林公園	標津町 海の公園	中標津町 森林公園	標茶町 西別岳	中標津町
実施時期	11月14日	12月19日	1月17日	2月13日	3月14日	計
事業量	乗馬	団員企画 バスボム作り	わかさぎ釣り	雪遊び	一年間のまとめ	
参加者数	18人	16人	14人	17人	24人	197人
実施場所	中標津町	中標津町 (緑のふるさと 研修舎)	標茶町 塘路湖	中標津町 ゆめの森公園	中標津町 モアン山 緑の研修舎	

木育ひろばinチ・カ・ホ（A-32）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

冬季間の人通りが多い札幌駅前通りの地下歩行空間において、北海道発祥の「木育」の普及啓発を目的に、「木育ひろば」を開催したが、コロナ禍により当初予定していた木工作等の体験は実施せず、コロナ感染防止対策として、入場口を限定し、人と人がなるべく密接とならないよう入場制限しながら、パネル展示・クイズ、森づくりに関する映像等により、「木育」、「第44回全国育樹祭」、「北海道植樹の日・育樹の日条例」などの普及啓発を行った。

2. 活動の成果

コロナ禍における道の集中対策期間（R2.12.26～R3.3.7）中だったことから、当初予定していた木工作等の体験メニューから、パネル展示やビデオ映像による普及啓発へと変更せざるを得なく、かつ、不要不急の外出自粛もあって、人通りが極端に少なく、十分な普及啓発活動とはならなかったが、入場者が少なかったのでゆっくり楽しめたという参加者もあり、参加していただいた方には「木育」の意義などを十分理解していただいた。

3. 参加者の声

- ・入場にあたって「消毒→検温→受付」を行ったが、気楽に入りづらいとの声。
- ・本来、自由に往来できる空間だが、イベントスペースを区切ったことにより、外から眺める方は結構いた。
- ・外出自粛の期間中なのでそもそもその人出が少なく、特に、対象としたい親子連れがいなかった。
- ・一方、入場者が少ないので「ゆっくり時間をかけて見られて良かった。」という参加者もいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	1月23日	1月24日	計
事業量	木育ひろば	木育ひろば	
参加者数	108人	120人	228人
実施場所	札幌市 地下歩行空間	札幌市 地下歩行空間	

道民森づくりの集いin赤れんが (A-34)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

コロナ禍での閉塞感を脱却し、第44回全国育樹祭の開催機運の醸成や北海道発祥の「木育」の普及啓発を図るため、森づくりボランティア団体や道産木材を活用する団体等の出展参加を得て、「道民森づくりの集いin赤れんが」を開催し、一般住民に森林や木に係わる体験や紹介を行うことにより、北海道の森林や林業・木材産業を守り支えることの大切さを伝える。

[開催概要]

日 時：令和2年10月17日（土）※北海道の条例で定める「育樹の日」10:00～15:30

場 所：北海道庁赤れんが庁舎前庭（札幌市中央区北3条西6丁目）

主 催：北海道、林野庁北海道森林管理局、道民森づくりの集い実行委員会（事務局：北海道森と緑の会）

参加者：763名（一般参加者 657名、出展者及びスタッフ 106名）

内 容：出展16団体（森林ボランティア団体や木育活動団体、行政や研究機関等）による活動PRや木工品等展示販売、木工体験などのワークショップ等

コロナ禍の現状を踏まえ、新北海道スタイルに基づく感染症対策を徹底して開催

2. 活動の成果

コロナ禍において、森づくりボランティアや木育等の活動団体は、活動自粛を余儀なくされ、団体の目的である森林や林業の大切さの普及が思うように出来ない閉塞感を脱却する一助となった。

また、出展団体は、一般参加者と相對することにより、どのような取組であれば安心して参加いただけるかを考える参考となったほか、今後の新たな活動に向けた意欲の向上につながった。

3. 参加者の声

[出展団体]

- ・コロナ禍でも感染対策をとって実施できたことは、参加者数は多くなかったが、実績を残せ、大変良かった。
- ・参加いただいた子ども達と接し、子ども達もこのようなイベントを欲していることが解って良かった。

[一般参加者]

- ・しっかりコロナ対策を行っているこのようなイベントを毎週開いてほしい。
- ・のこぎりや木工などをやる機会がなかったので、親切に教えてもらい楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月17日	計
事業量	道民森づくりの集い in赤れんが	
参加者数	763人	763人
実施場所	札幌市 道庁赤れんが庁舎前庭	

馬追自然の森整備事業 (C-1)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

長沼馬追山自然の森環境保護整備と自然愛護精神の高揚が目的です。

自然の森遊歩道の笹や草刈り作業や、清掃作業と風倒木の処理及び登山口（7か所）の粗大ゴミ清掃処理など、年数回実行して環境保護と整備に努めていますが、今年はコロナ禍のため、研修会が開けず事業の参加人数も少数となりがちでありました。

2. 活動の成果

遊歩道の整備をする事で、山野草が増え季節ごとに可憐な花を咲かせてくれ、登山者が和やかな気持ちにさせて頂いたと喜んでおりました。

毎年実施している登山口の清掃も、2か所が道々に接しているため、モラルの無い人が捨てる粗大ごみは、減少はしているものの、けっして無くなることはなく油断成りません。

引き続き、看板などにより不法投棄を呼びかけるなどが必要であり、今後の課題であります。

3. 参加者の声

会員達は、自然の森を守って行きたいと言う気持ちで、心強く取組んで活動している。

滞台（山頂）の記録帳の記載内容を見ると、町内外から大勢の登山者の方々に来て頂いたとともに、整備された遊歩道に称賛する声が多数ありました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R2.9.12 R3.6.12	R3.4.10	R3.4.24	R3.5.5	R3.6.19	計
事業量	遊歩道草刈り	木道設置	登山口道清掃	清掃登山	倒木処理	6回
参加者数	13人、14人	12人	15人	16人	2人	72人
実施場所	北海道夕張郡長沼町馬追自然の森遊歩道一体					

台風被災森林の植栽後の保育活動（C-3）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

○札幌市澄川都市環境林（札幌市56林班65.14ha）

台風や地震で被害を受けた枯損木、傾斜木、中折れ木等の整理伐を冬期間に継続的に行っている。2004年と2018年の台風で被害を受けた風倒木の処理で生じたギャップ地への植栽は終了し、今年度は補植、下草刈り、ツル切り、食害防止対策等を行いました。また、整理伐材を活用したキノコ植菌のホダ木200本は、澄川南小児童の教材や親子森林教室の植菌体験に活用した。

○国有林野幌森林公園（42林班か小班1.1ha）

2006年に植栽した標準列の生長調査を7月30日に行ないました。ハルニレ、ヤチダモ等は順調に生育したがトドマツ、ミズナラ、カツラ等は枯死した苗が多く見られた。これは当該地区の地下水位が高いためと考える。

○道有林野幌森林公園（169林班54、57小班1.33ha）

2020年から始まった2018年台風被害地の復興事業は2020、2021年と0.5haの植栽・保育を計画し、自生稚樹の優先保育とギャップ地の植栽を行いました。また、シカ、ウサギ、ネズミなどによる食害が見られたので対策として食害防止網、ハイトシェルターなどを設置しました。将来の下草刈り作業の軽減を図るために防草シート、ウッドチップを敷設して経過を観察しています。

2. 活動の成果

国有林野幌森林公園：植栽後15年を経て、自生種と植栽木の区別がつかないほどに生長しています。ここでの生育が順調な樹種を、2020年から始まった野幌道有林の主要な植栽樹種に選定した。

3. 参加者の声

澄川環境林では、整理伐が行われた森林を見て、「爽やかな空気と緑の森で癒される」との声を多く聞きました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R2.7.30～R2.10.20	R3.2.8～R3.4.5	R3.5.30～ R3.6.29	計
事業量	生長調査200本、自生稚樹205本、作業道整備300m、植樹184本、清掃活動640kg、植栽48本（6回）	整理伐26本、整理伐15本、整理伐18本（3回）	植栽51本、下草刈り0.2ha（2回）	11回
参加者数	82人	51人	16人	163人
実施場所	・野幌国有林 ・野幌道有林 ・澄川環境林	・澄川環境林	・野幌道有林	

サミットの森プロジェクト（C-6）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

カーボンオフセットを目的とした植林体験や、下草刈りを通して森林保全の重要性を広く普及・啓発させる。

美幌町にて下草刈り体験（2020年7月実施予定を新型コロナの影響により中止）や約200本のカラマツ植林体験（2020年10月）と森林の現状視察

2. 活動の成果

実際の森林整備を体験することによって保全の重要性やCO₂削減の大切さが理解されてきた。

今後も出来るだけ多くの方に参加できる機会を増やし整備された森林を増やすことの一助になりたい。

3. 参加者の声

- ・初めて参加された方は施業の重要性と大変さを感じ、毎回参加している方はかかわった森林の成長を見るのを楽しみにしているようです。
- ・カーボンオフセットの意味や仕組みが少しわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月	10月20日	計
事業量	下草刈り・視察（中止）	植林体験・視察	
参加者数		8人	8人
実施場所	北海道美幌町	北海道美幌町	

地球を守る森林の整備事業（C-7）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

札幌市、当別町、小樽市、千歳市、恵庭市、苫小牧市など、8カ所の森林フィールドにおいて下草刈り、間伐等の作業を行った。特に、今年度は江別市の防風林に加え、新篠津村の防風林の風倒木処理も行い、広い畑の生産活動の一助となるべく防風林の健全性に一役を担った。また、コロナにより、2回の活動中止を余儀なくされたことは、この活動の環境上、果たして妥当であったかどうか役員会で協議を行った。4月からの活動については、感染症対策を十二分に行った上で、会としてはできるだけ活動を行うが、会員の参加については個人の意思と対策を最大限尊重する、という方向で行うことを決めた。

2. 活動の成果

いずれのフィールドにおいても、下草を刈り、間伐をし、枝払いなどを行うことにより、森には光や風が入り、森が再生していくようその作業を進めた。防風林などは、風倒木が多く、外観も良くなり、また、その役目を果たせなくなることもあるため、処理作業をして、樹木の健康を取り戻し、防風林の役割を順当に果たせるようにした。

また、広報については、ホームページにおいて活動の都度、その様子をブログアップしているせいか、はたまた、コロナ禍のせいなのか、年の後半から15名ほどの体験者が入会してくれた。おおよそ多く入会者は初めてのことであり、また、活動参加者も、このような取組みもあってか、30パーセントほどアップしており、当会の活動が少しずつ知られるようになり、理解されてきたものと考えられる。

3. 参加者の声

上記の通り、新たな会員15名強の方が入会してくださった。皆さん、作業が楽しく、また、森林の再生・保護に役立つことをい知って積極的な参加につながっている。

また、薪ストーブ利用者も多くなっているのか、間伐材の薪利用とりサイクルにもつながっている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R3.7.11、7.19、8.8、8.23	R3.9.12、9.27、10.10、10.25	R4.4.10、5.8、5.23	R4.6.12、6.27	計
事業量	4回	4回	3回	2回	13回
参加者数	47人	51人	61人	36人	195人
実施場所	当別22世紀の森、柴原山林、恵庭市防風林、北山山林	北山山林、新篠津防風林、苫東	高川山林、新篠津防風林、北山山林	高川山林	

「ラブアースの森づくり」事業（C-8）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本事業は、北海道の自然環境保全の啓発から広い視野の環境活動につなげ、森づくり活動を通して、CO2削減・温暖化防止、生物多様性の保全を学び、よりよい北海道の自然環境を次世代に残すことを目的としています。

白老町の「ラブアースの森」は、2012年までに植樹をしてきた場所ですが、現在は周辺からカラマツ、シラカバ、ハンノキなどの種が飛んできて育ち、大変混みあい、手入れが必要な状態です。

2020年度は11月5日（木）に、一般参加者20名と関係者15名により、NPO法人ウヨロ環境トラストの指導のもと、森を育てるための育樹作業（除間伐、枝打ち）と植樹作業を行い、活動後、ウヨロ川フットパスウォーキングで、サケの遡上や自然の観察を行いました。

2. 活動の成果

樹木が育ちやすい環境に整える育樹作業を行い、樹木や環境（バランス）を観察するポイントや、森全体の将来を想像する視点を学び、森林が果たす役割と育樹の重要性を知ってもらう場を提供できました。

フットパスウォーキングでは、サケの遡上や周辺の生物を観察し、多様性の保護の重要性を学びました。

3. 参加者の声

植樹と育樹を通して、森への関心をより深めてもらうことができました。普段から森で作業をしている人も、今後の活動の参考になったと喜んでいただけました。自然観察では、サケが産卵のために連なる姿に、生命力を感じてもらいました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月5日	計
事業量	自然観察会	
参加者数	35人	35人
実施場所	白老町石山	

☆ 里見緑地内植樹・環境整備事業（C-9）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

北広島市里見町の里見緑地（第3周辺緑地）において、平成30年の台風21号による風倒木処理を行い、跡地への植樹や展望棚を設置することで、地域住民が散策する祭の憩いの場を設置し、森林を慈しむ心を育む。

2. 活動の成果

①風倒木の処理

ニセアカシア25本、カラマツ10本の風倒木の伐木、玉切り、集積、皮むき、防腐処理を実施した。

②バックホーによる風倒木処理跡地の整地や植樹

過去に風倒木処理をし堆積していた雑木等をバックホーにより撤去し、跡地を整地して、購入したニオイヒバのほか、トドマツ、ドイトウトウヒ、アカエゾマツ、ヤチダモの合計44本を植樹した。

③遊歩道脇に展望棚の設置

遊歩道からの眺望が良い場所2箇所に展望棚と柵・丸太ベンチ等を設置した。

3. 参加者の声

（参加者）

- ・バックホーを借りられて、予定以上に整備がはかどり、人力作業も楽しくできた。
 - ・展望台などは思い描いたとおりに設置でき、満足感で一杯だ。
 - ・地域住民の方に、早く遊歩道を散策してほしい。
- など、つらい作業も多かったが、完成後は、みんな達成感を得ているようだった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月1日～9月30日	計
事業量	風倒木の処理 風倒木跡地の整地・植樹 展望棚の設置	
参加者数	実人員 5人	5人
実施場所	北広島市里見町6丁目・7丁目地先の里見緑地	

天売島における水源林整備と間伐材の有効利用（C-10）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

北海道の日本海側に位置する天売島は、第二次世界大戦前のニシン漁、その後の食糧難とエネルギー不足のための伐採で裸の島になり、水不足が慢性化した。このため水源林整備事業等でトドマツ等の人工林が造成されたが、これらの人工林の手入れが遅れ、風倒により再び裸の島になり、水不足が再度懸念される。また、観光施設の老朽化が進み、観光の島としての街並みも劣化しつつある。

そこで、トドマツ人工林の間伐（育成木施業）を行い、混交林化を行う。林床の保全のため、間伐で伐倒した木材を馬で搬出し、現地で製材し、製材した木材でシーカヤック艇庫を建設し、島の観光に役立てる。また、木の生えていない町有地に防草シートを用いて多種の広葉樹を植栽し、生物多様性の高い混交林を造成する。

2. 活動の成果

水源林としてのトドマツ人工林の育成木施業による手入れが進み、風倒や病虫害に強い水源林となった。また、林床が明るくなり天然更新も進んでおり、生物多様性の高い森になりつつある。

また、手入れで伐採した木を馬で搬出することにより、育成木や林床を傷付けることなく丸太を林外に出し、簡易製材機で製材した。これらの用材は、市街地に運び、シーカヤック艇庫の建設を開始した。完成すれば、島の2大産業の一つである観光産業に良い影響を与えられられる。

さらに、かつて食糧難の時代に畑にされ、その後放置されて無立木地になっている草生地を生態学的混播・混植法で混交林の再生に着手した。混交林の再生が進めば、水源林としても、野鳥にとつても好ましい樹林となり、島の存続に有益な存在になると考えられる。

3. 参加者の声

本活動には、森林科学を学ぶ大学生を5名同行した。コロナ禍の中で現場実習等ができない中で、単純林の多様化を図る選木、伐倒、馬搬、製材、建設という一連の作業を経験できたことは、彼らの今後の森と関わる人生に大きな影響があるとの感想が聞かれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8/4～8/5	9/19～9/22	計
事業量	現地打合せ 2日	下刈 1,000㎡、間伐 1ha、馬搬 18㎡、 製材 10㎡ シーカヤック艇庫の建設 1棟	
参加者数	4人	20人	24人
実施場所	天売島		

風倒被害を軽減し野幌の自然豊かな森づくり (C-11)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

目的 平成16年9月の台風で被害を受けた野幌森林公園の再生を検討する「野幌森林再生検討会」(座長：五十嵐恒夫北大名誉教授、主催：北海道森林管理局)の自然豊かな森林の再生に取り組む。

内容 ・自生種の苗木による風倒被害地の再生を目的とした植樹。
 ・植樹した苗木の育成のための下刈作業。
 ・生育状況調査及び樹種選定の検討。

2. 活動の成果

成果 ・昨年整理したコクワ等のつる類が再び発生し、複数の植栽木に巻き付いていたため手鋸及び剪定ばさみにより切断、除去し植栽木の保全に努めた。
 ・保育作業(下刈、つる切り)を通じて森林育成の手順や大変さを学ぶとともに、子供たちは森林に興味を持つきっかけとなった。
 ・植樹と下刈を始めて16年が経過し、樹木もかなり成長し、植生も徐々に変化してきた。

これからの取組

・植樹や保育作業(下刈)などの森林育成活動の継続実施。
 ・生育状況調査及び樹種選定の再検証。
 ・女性や子供を対象とした森林学習会の実施。

3. 参加者の声

・初めて参加し大鎌で笹を刈ったが、作業は苦勞した。下刈り後は林内がすっきりして気持ち良かった。
 ・作業の合間にヤマゲラのつがい近く近くの広葉樹に来てくれて、近くで見ることができ感動した。
 ・鎌を使って草を刈ったのは初めてだったけど、たくさん刈れて楽しかった。森の中には色々な生き物もいるし大好き。(小学生)
 ・虫が大好きなので森に来る前日からすごく楽しみだった、虫網で蝶をつかまえて観察したり、落ち葉をめくって虫を探したりできて楽しかった。(小学生)

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年6月26日	計
事業量	植樹・下刈り 0.62ha	1回
参加者数	9人	9人
実施場所	野幌国有林42林班に小班(0.24ha)、54林班2小班	

日高の森づくり事業 (C-13)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

日高地域の森林の近郊に居住する地元小中学生などを対象として、子供たちに自然の仕組みや森林を大切にする気持ちを育む教育を行うことを目的に、植樹活動や森の観察などの体験を通じて森林の働き・役割を学ぶ環境教育事業を行う。

新冠町立朝日小学校では、今年度も「総合的な学習の時間」を活用して、毎年継続的に森林の働きをはじめとした樹木に関する座学のほか、学校林「朝日の森」や学校施設を活用した「木工教室」・「木の種子を植えよう」などの体験学習を実施した。

また、日高管内の小中学生を対象にロープを付けて木に登る「ツリークライミング」を実施した。

2. 活動の成果

当会は、身近にある森林の環境を活用した「森林教室」の開催などを確実に継続的に行ってきたことにより、朝日小学校では、樹木や森林生体等の知識や関心を持つ児童が増加し、様々な体験学習を生き生きと楽しむ姿が見られた。

また、ツリークライミングの体験では、多くの子どもたちが、木と触れ合いながら山で遊ぶことで森林をより身近に感じるようになった。

3. 参加者の声

・活動に参加する前は、全部の木が同じように見えていたが、森の学校で木のことを学んだので、一本一本が葉っぱや木のはだなどが違うことがわかった。
 ・以前上級生が当該の活動により作ったシイタケを使った学校給食が出され、嫌いなシイタケを無理に食べたことがあったが、今回、自分でシイタケの植菌活動を体験したので、愛着がわいてきて食べれるようになった。
 ・ツリークライミングは、ロープを使って木に登り高い所からの眺めは言葉にならないくらいすごかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R2.07.24 R2.08.28 R2.09.03 R2.10.01 R2.10.07 R2.10.12	R2.11.06 R2.12.03	R3.04.28	R3.05.09 R3.05.11	計
事業量	ツリークライミング	森林教室	シイタケ植菌	植樹祭	17回
参加者数	79人	12人	7人	9人	107人
実施場所	新冠町森林公園				

新ひだか町営林友の会森林づくり事業（C-14）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

新ひだか町在住の会員を対象に、新ひだか町有林（二十間道路付近）において森林整備等を実施した。

森林整備の内容は、新ひだか町有林（二十間道路付近）で、エゾヤマザクラ（成木）3本の植樹及び記念碑（30周年記念）設置を行った。

植樹したエゾヤマザクラ3本を新ひだか町へ寄贈した。

2. 活動の成果

森林整備等の活動を毎年実行することで、会員相互の親睦が深まったこと、森林の大切さや次世代へ引き継ぐための啓発活動になった。

今後とも、地域に根ざした活動をしていきたいと考えている。

3. 参加者の声

参加者からは、30年という月日をかけ、地域の森林を守り育てるため活動してきたが、今後も地域等の森林を守り育てるために貢献したいとの声が聞かれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月15日	計
事業量	2.00ha エゾヤマザクラ3本	
参加者数	25人	25人
実施場所	新ひだか町 町有林 (二十間道路付近)	

「おさかなの森づくり運動」事業（C-15）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

八雲町遊楽部川は、全国でも有数の清流としてサケ・マスの遡上河川であり、また、アユ等多数の魚類が生息している。近年、遊楽部川を含む管内河川の自然災害等により、河川の底棲動物並びに水資源に対する影響が危惧される中、海を育む森づくり計画を策定し、海と河川に係る森林整備を図るため、一般町民等の参加を募り緑の豊かな自然環境の普及啓発を図ることを目的として、地域の関係者と連携のもとに植樹（クリ苗木200本）を実施した。

2. 活動の成果

毎年実施している本事業については、植樹による森づくりの効果のみならず、本事業を今後も継続していくことにより、漁業者のみならず関係者間や一般住民に対して、森林整備が海と河川を育むという意識の維持・向上につながる。

3. 参加者の声

- ・毎年植樹に参加することで、本事業の海への好影響を感じられる。
- ・森林整備を継続していくことで河川からの流木や濁水の流出が抑制されることを願う。
- ・さけ資源の維持・保護のため欠かせない事業である。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月7日	計
事業量	0.2ha クリ200本植樹	
参加者数	20人	20人
実施場所	八雲町富咲 (町有林)	

市街地緑化事業 (C-16)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

南かやべ森と海の会は、森林が持っている多様な機能が地域住民に理解されていることに基づき、函館市内の川汲川・大舟川流域の森林の整備及び河川環境の保全を目的に活動しており、活動の一環として環境美化の推進を図るため、今年度は、令和元年12月に世界遺産推薦が決定された史跡大船遺跡内にヤマグリ40本の植栽を実施した。

2. 活動の成果

ヤマグリの植栽により、環境美化の推進および環境保全に対する普及啓発が図られたほか、史跡大船遺跡に植栽したことにより、縄文文化の景観形成が図られた。

3. 参加者の声

植樹活動による森林等の整備などが、環境美化、河川環境の保全を図るうえで、重要なものであると再認識していたほか、史跡大船遺跡内での植樹活動による景観形成により、世界遺産登録に向けた機運が高まった様子であった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月24日	計
事業量	植樹 ヤマグリ40本	
参加者数	37人	37人
実施場所	函館市大船町 (史跡大船遺跡内)	

お魚を殖やす森づくり (C-18)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

占冠村森林人林業グループは17名で「森・川・海はひとつ」を合言葉にもりの自然について学び、実践活動を通じて理解を深めています。

今年はコロナ過のこともあり植樹が出来ませんでしたが、木の植えたあとの下草刈りや枝切などの活動。
また、アオダモの鹿食害から守るため、防護柵の補修などの活動を実施しました。

2. 活動の成果

上トマムの森林で保育作業を行うことにより緑化事業の困難さと他人に共感する心、仲間と親睦を図るとともにいかに森の生活を楽しむかを目的に活動しました。

3. 参加者の声

- ・今年も安全第一で作業を行いました。
- ・保育作業を行うことを通じ大切な自然を守るため、「皆で汗だくの作業」に喜びを得ることが出来ました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月3日	8月24日	10月1日	計
事業量	下刈1回 2HA	下刈2回 2HA	枝切 0.5HA	
参加者数	7人	5人	8人	20人
実施場所	占冠村 上トマム	占冠村 上トマム	占冠村 村有林	

ユネスコの森づくり (C-19)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

コロナ禍のため、当初予定していた大雪山での植樹は叶わなかったが、代替え事業として市内台場地区「小鳥の村」において、小鳥の喜ぶ実のなる木を植樹した。

当地区は台場小学校校林を中心に緑化活動に努力しており、過去に文部大臣賞や農林大臣賞を受賞している。

2. 活動の成果

本年度は、台場小学校開校100周年に加え、「小鳥の村」開村60周年であったため、地区住民や小学生が緑化活動に積極的に参加し、環境保護の啓発に効果をあげた。

3. 参加者の声

○本活動により、「森林保護でも小鳥も住みやすい台場」のキャッチフレーズを再燃させることが出来た。(地域住民)

○緑化活動により、地球環境保護の教育をさらに推し進めたい。(学校教職員)

○小鳥さんの喜ぶ森を作れてうれしい。(小学生)

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月15日	6月26日	7月27日	9月21日	計
事業量	植樹場所測量	下草狩り	植樹	保護・観察	
参加者数	7人	5人	20人	70人	97人
実施場所	旭川市台場小学校学校林「旭川市台場小鳥の村」				

赤岩青巖峡環境整備事業 (C-20)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

占冠村にある赤岩青巖峡を活性化すべく、損傷の激しい遊歩道の修繕を行うとともに、北海道の山岳会員と占冠村内のボランティアを中心に、清掃活動と遊歩道に自生している植物や巨石について学ぶ機会を作り、赤岩青巖峡の成り立ちなどを資料配布して説明した。

活動終了後に、短時間ではあるが現地にて赤岩青巖峡の今後の方向性や保全活動と利用方法について、各回、意見交換を行った。

2. 活動の成果

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、予定していた活動を大々的に行えず、限定的な開催となったが、毎年行っている清掃登山に関して、感染予防対策を徹底し開催することができた。

今年度からの試みとして、占冠村在住の人を対象に活動を行うことができた。

今回は、占冠村の中学性を対象に炊事遠足を行い、占冠村の赤岩青巖峡について意見交換を行うことで、大人の目線とは違った視点での考え方や意見を聞くことができ大変参考になった。

来年度もこういった取り組みを行い、意見交換の場を作り、赤岩青巖峡の新たな魅力など発信していければと思う。

3. 参加者の声

- ・占冠村内で場所は知っていたが、初めて赤岩青巖峡を散策した。短い時間ではあったが大変魅力ある場所だと思った。
- ・毎年、清掃活動を行っていて今年の開催は断念せざるを得ないかと思ったが、こんな状況だからこそ、みな一丸となって活動できる素晴らしい活動で遊歩道も年々綺麗になって利用しやすくなっている。
- ・気軽に自然を散策できる場所は貴重なので今後も維持し続けてほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月11～12日	8月28日	8月29日	10月17日	計
事業量	遊歩道等修繕工事	赤岩遠足	赤岩清掃登山	赤岩清掃ボランティア	
参加者数	-	11人	28人	7人	46人
実施場所	占冠村 赤岩青巖峡	占冠村 赤岩青巖峡	占冠村 赤岩青巖峡	占冠村 赤岩青巖峡	

森と市民をつなぐプロジェクト (C-21)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

目的：森林資源の有効活用や地域材利用の普及啓発

概要：森の楽しさと恵みを体感してもらうイベントの実施

イベントではチェーンソー体験、様々な形の斧を使った薪割り体験、ロープで木登りをするツリーイング、端材で作るクラフト体験、いろいろな道具で火起こし体験、焚き火料理などを行った。

2. 活動の成果

去年は140名ほどの来場者があったが、今年はコロナ対策として地域情報誌への広告掲載とチラシの配布をやめ、NPOの会員や過去にイベントに参加していただいた方々への案内のみとし、規模を縮小して実施した。

また、入場口での手指消毒、検温、マスク配布を行った。

イベントの内容も一部変更し密にならないよう配慮した。

今年の参加者は去年の4分の1ほどだったが、その分、各体験をゆっくり楽しんでいただけたようだった。

参加者の数が減ったことで一人一人に丁寧な対応をすることができた。このイベントでの体験を通して、より深く、この活動の目的である森林資源の有効活用や地域材利用について理解していただくことができた。

3. 参加者の声

- ・チェーンソー体験や薪割り体験を通し、憧れだった薪ストーブの導入を真剣に考えたい。今まで薪は購入していたが自分でも薪づくりをしてみたい。将来的には山林の購入も検討したい。などの感想があった。
- ・クラフトや火起こし体験では子供が生き生きと楽しそうに遊んでいた。子供と一緒に楽しめた。などの感想があった。
- ・ツリーイング体験では、初めてだったが、かなり高いところまで登れて楽しかった。などの感想があった。
- ・その他、コロナ禍で行くところがなかったが楽しめました。せっかくなので来年はもっとたくさんの人に楽しんで欲しい。などの感想があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月27日	計
事業量	イベント実施	
参加者数	35人	35人
実施場所	もりねっと 8線ヤード	

「帯広の森」づくり事業 (C-22)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

帯広の森を拠点とした植樹・育樹における帯広の森ガイドラインに相応しい自然と環境保全に寄与することを目的に、市所有「帯広の森」の主にかシワ・ミスナラ林を対象に、森の育成管理で重要となる間伐作業について、知識・技術の向上を図るため、研修会を開催。

1日目に、カラマツ林内の実生苗の確定と選定方法のほか、樹種の多様性を確保しながら園路づくりに伴う抜き切りの選木などについて、現地で指導を受けながら学び、2日目は、荒天のため座学として「森のでき方・つくり方」を学んだ。

2. 活動の成果

研修会では、1日目に、現地で「カラマツ林内の実生苗の確定と選定方法」や「樹種の多様性を確保した選木」について学び、2日目は荒天のため急遽、管理施設「はぐく〜む」で実施した座学で森づくりの基本的な知識を学んだ。

(資料) 1. 森のでき方・つくり方

2. 落葉広葉樹類における実生起源木と萌芽起源木の初期成長量の違い

学んだ内容として、間引きは6～7月に地上高1mの伐倒カ所とし、翌年その小口からの新芽が伸び切った8～9月の段階で地際を切り取るといった手順だったので、間引き作業の時期を徹底するべきことに気づかされた。

3. 参加者の声

- ・現地での丁寧な説明で分かりやすかった。
- ・総体的にバランスの取れた森づくりを進めることを皆で確認できた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月25日	9月26日	計
事業量	森づくり研修会 カラマツ林内の実生苗樹種調査と 選木指導	森づくり研修会 森づくりの基本的な知識 (座学)	
参加者数	7人	20人	27人
実施場所	「帯広の森」 第八ブロック	「帯広の森」 管理施設「はぐく〜む」	

☆ 緑いっぱい事業 (C-23)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

釧路大規模運動公園のアカエゾマツ再生地において堆肥30トンを攪拌盛土し、シカ対策用ネットを設営。新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、市民・緑化団体・釧路市職員含め18名でアカエゾマツ17本を補植した。

また、柳町公園において桜の若木50本を植樹、桜の剪定、施肥、コスカシバ対策等の活動を支援した。

緊急事態宣言のため、5月18日に予定していた講座は8月31日に延期となった。

2. 活動の成果

アカエゾマツの良好な成育環境を整え補植したことにより、市民の森の再生を図ることが出来た。

実践研修を通しての技術や知識の習得、育樹に取り組む自主的活動に対して、資材の提供など活動をサポートすることが出来た。

3. 参加者の声

・ 昨年は新型コロナウイルス感染症のため釧路大規模運動公園の再生事業、柳町公園の桜育樹の活動が出来なかったが、今年度は感染症対策を図りながら植樹の習得が出来て楽しかった。

・ 散策の際は生育状況を確認していきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R3.05.14	R3.05.19	R3.06.08	R3.06.15、22	計
事業量	オオヤマザクラ 50本補植	アカエゾマツ 17本補植	スカシバコン 250本取付け	施肥	5回
参加者数	12人	18人	6人	12人	48人
実施場所	柳町公園	釧路大規模 運動公園	柳町公園	柳町公園	

青森県森林づくり推進体験学習活動事業（A-34）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

開会式、オリエンテーション、森林浴体験活動、体験教室、チェーンソーアート制作実演及び作品のオークションの実施。オークションで落札された落札金は緑の募金に寄付。体験教室は森林・緑に関する①県産材を使用した木工教室、②ドライフラワーアレンジメント教室、③蜜ろうを使用したキャンドル教室の3教室を実施した。午前と午後で森林浴体験活動と体験教室の参加者を入れ替え、密にならないように工夫し参加して頂いた。県民に公益的機能や多様な生態系など森林の重要性を認識して頂くために、「県民の森」で森林の性能や生態を学習することを目的に体験会を実施した。

2. 活動の成果

森林を散策し、森林インストラクターから森林機能などについて説明を受け、参加者に森林や水の重要性等について普及啓発することが出来た。マスクの着用や3密の回避、検温、消毒の徹底など新型コロナウイルス感染拡大を防止しながらイベントを無事開催することが出来た。

3. 参加者の声

- ・森林浴体験活動で草木の名前を覚えてもらい勉強になった。
- ・森林インストラクターの話聞いて自然の大切さを改めて感じた。
- ・チェーンソーアートの制作実演を見て感動した。
- ・木に触れる貴重な体験でした。
- ・きちんと新型コロナウイルス感染症拡大防止策を行っていて安心して参加できた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月12日	計
事業量	青森県フォレストフェスタ2020in 梵珠山	
参加者数	約130人	約130人
実施場所	青森県青森市	

木と人とのふれあい事業（A-35）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内4地区9箇所木工教室と森林教室を開催し、森林の持つ多面的機能の重要性を学習した。協力団体や企業等に県産スギ材を使った卓上カレンダーを製作・配布し、木材利用の普及啓発を図った。

また、幼少期の子供たちに県産材の積み木を贈呈し、木とふれあい、木に学び、木と生きることを通して豊かな心を育む木育を推進した。

2. 活動の成果

木工教室や森林教室の中で、森林の持つ多面的機能の重要性や木材利用の必要性について理解を深めてもらう事ができた。

幼少期の子供たちが、日頃から木に接し木を使うことを通し、豊かな心を育む木育を推進し、木材の利用拡大を図った。

また、協力団体や企業等に県産スギ材卓上カレンダーを使用することにより、森林・林業の普及啓発を図ることができた。

3. 参加者の声

- ・枝払いや間伐体験をして林業の大変さを知った。
- ・木をどのようにして手入れしているのかわかった。
- ・土砂崩れを防いでいることなど森林の重要性がわかった。
- ・親子で楽しく本棚を作ることができた。
- ・身近に木を使っている物が多いことがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月23日～11月15日	計	備考
事業量	森林環境教室 4地区9箇所		
参加者数	県内 259人	259人	
実施場所	青森市、弘前市、むつ市、今別町、三戸町、新郷村、東通村		

令和3年度遠野市緑化祭『里山フェスタ2021』（A-36）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

私達の生活に重要な役割を果たしている森林の多面的な機能とその大切さについて、森林整備の体験を通じて理解を深めることを目的とする。

2. 活動の成果

今年度は、遠野市上郷町細越にある初山私有林において開催した。

新型コロナウイルスの影響により、例年のように森林愛護少年団や市内企業、一般市民の参加を見合わせるようになったが、林業・木材産業関係事業体から参加を頂き、関係者によりカラマツの植栽を行った。

また、地元の上郷小学校がシラカバから樹液採取を行っていることから、緑化祭会場の初山市有林でも樹液採取ができるようにと、記念植樹としてシラカバを植えた。

その他、高性能林業機械による伐採及び造材の実演やドローンによる作業効率の向上を説明し作業の様子を撮影した。

3. 参加者の声

参加した林業・木材産業事業体からは、「汗をかきながら植えたカラマツが無事に育ってほしい。」等の声が聞かれ、森林整備への理解が深められたと感じた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月12日	計	備考
事業量	・カラマツの植栽 ・高性能林業機械の見学等		
参加者数	48人	48人	
実施場所	岩手県遠野市地内		

ふるさとの巨樹・名木観察会（A-39）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域における巨樹・名木を観察するとともに、居住地における歴史や自然環境を理解することにより、自然の恩恵に感謝する心を育むことを目的に紫波・矢巾地区で観察会を開催した。

2. 活動の成果

参加者は、定員20名に対し、19名の応募があり、観察地は、紫波・矢巾地内の6ヶ所、7種類の巨樹・名木を講師の岩手大学名誉教授橋本良二氏の解説により観察会を行った。

講師の巨樹・名木に係る幅広い知識と経験を交えて、現地の観察樹木を見ながら樹木の優環境、生態、病害虫の分野まで具体的に分かりやすい説明と歴史にも造詣が深く、巨樹から歴史を学び伝える言葉は意味が深く、講師の解説は参加者からも分かり易くとても良かったと好評であった。

毎年、県内各地で実施しているが、参加人数もほぼ募集定員どおりとなっており、今後も継続して実施することとしている。

3. 参加者の声

- ・是非また参加したいので、開催願います。開催に向けての段取り、事前調査、準備大変だったと思います。イヤホンが説明聞き取りやすくとっても良かった。
- ・橋本先生のお話し全てが体に心地よくしました。また参加したいと思います。
- ・大変楽しく有意義でした。また機会があれば是非参加したいと思います。次回は違う種類の木を見たいです。
- ・また観察会に参加したいと思います。ホームページをこれからはチェックします。
- ・今まで、巨樹名木観察をすることなく、ただただ見るだけでしたが、改めて先生の説明を聞きながら、全てに感激しました。志和稲荷神社には10回以上来ましたが、奥の方まで見たことはありませんでした。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年6月19日（土）
事業量	巨樹・名木7種類 紫波町役場駐車場⇒紫波・矢巾地内（6ヶ所）⇒紫波町役場駐車場
参加者数	19名
実施場所	紫波・矢巾地内

「どんぐり・花を育てよう事業」(A-40)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

第52回岩手県緑の少年団大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により「1年後に延期」することとなった。

このことから、今年の緑の少年団大会への支援活動は、来年度の大会に向けた準備の年とし、少年団単位で来年度の大会等に活用できる様々な体験活動を行った。

具体的には、県内緑の少年団を対象に、「県内産どんぐりの種子から苗木を育てる活動」や「花の苗を育てる活動」及び「木製プランターカバーを作る活動」を行う「どんぐり・花を育てよう事業」を実施した。

このことを通じて、木育や緑を育てる楽しさを体験する機会を与え、緑を愛し育てる豊かな心を持った健康で明るい子供達の育成に努めた。

2. 活動の成果

今年度は、少年団大会の代替事業として、「どんぐり・花を育てよう事業」を実施したところ、どんぐりを育てる体験、チューリップを育てる体験、木製プランターを工作する体験を通じて、人や動植物は豊かな自然環境によって生かされていることや、生活に欠かせない木材の利用など、森林や自然を守る重要性の理解と緑化意識の醸成が図られた。

3. 参加者の声

- ・「どんぐり・花を育てよう事業」の全ての体験が面白かったので、もう一回やってみたい。
- ・どんぐりが小さくて、土に埋めるところが、難しかった。
- ・チューリップの球根を初めて見て、初めて植えたのが楽しかった。
- ・木製プランターカバーを作る体験では、班のみんなと協力してできたので楽しかった。
- ・プランターカバー作りの金槌で釘を打つところが、難しかった。
- ・プランターカバー作りで、釘を打って上手くできたのが楽しかった。
- ・講演会を聞いて、木が洪水を防いでいることを始めて聞いて、森の大切さを知りびっくりした。

実績報告とりまとめ表

実施期間	令和2年秋～令和3年夏（大会開催まで）
事業量	1 どんぐり苗木の育成、花の育成及び木製プランターカバー作り 2 植樹活動⇒岩手県民の森（令和3年7月開催予定第52回緑の少年団大会） 3 記念行事（遠野市立青笹小学校）
参加者数	419人（緑の少年団17団366名、育成会53名）
実施場所	各緑の少年団活動場所

宮城県みどりの少年団大会開催事業 (C-24)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

各みどりの少年団が共通の認識と連携を深め、少年団活動の一層の発展と健全な育成を図るため、第45回(令和2年)宮城県みどりの少年団大会を宮城県東松島市矢本板取地内の大曲浜海岸及び東松島市大曲市民センターにて開催。

コロナ禍で開催を秋以降に延期、参加の意思を改めて確認、参加者数を抑えて感染対策を講じながら、県やボランティア団体の協力により、少年団11団、総勢190名が参加し、開催に至った。

当日は好天に恵まれ、東日本大震災により消失した海岸防災林の再生に向け、ボランティア団体から植栽方法の指導を受けながら、抵抗性クロマツ苗1,005本、アオダモ40本の記念植樹を行ったほか、自然観察会に興じた。その後、大曲市民センターに移動し、大会式典(新規少年団の入団紹介、表彰)やネイチャークラフト等のレクリエーション活動に興じた。

2. 活動の成果

参加者たちは、海岸林植樹活動や自然観察会などの各イベントへの参加を通じて、みどりや自然の大切さ及び海岸林の重要性を再認識するとともに、各団との相互の交流により、共通認識を図り連携を深めることが出来た。

来年度以降も本県のみどりの少年団の健全な育成を図るために継続して開催する。

3. 参加者の声

コロナ禍で野外活動が儘ならない中、大会当日は晴天の中、育成会やボランティアの方々と一緒に海岸林での植樹や自然観察会などに参加し、団員たちは笑顔がこぼれ元気に充実した一日を過ごすことが出来た。

団員及び引率者からは、「野外で体を動かす良い機会となった」「仲間づくりができた」「海岸防災林の重要性を認識できた」「復興の状況を実際に見ることができた」など多くの声が寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年10月4日(日)	備考
事業量	記念植樹 1,045本 式典、ネイチャークラフト等	
参加者数	190人	
実施場所	宮城県東松島市矢本板取地内(大曲浜海岸)及び東松島市大曲市民センター	

緑と水のキャンペーン事業（A-41）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県土の豊かな水と緑を育み、県民の緑に対する関心をなお一層向上させるため、県内各地で緑の募金街頭キャンペーンを予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中央会場等が中止となった。しかし、みどりの月間である4月15日～5月14日に秋田市の秋田駅東西連絡自由通路へ普及啓発プランターを設置し、緑の募金の普及宣伝を強化させたほか、一部の地域では街頭募金のイベントが開催された。

2. 活動の成果

県内の街頭募金イベントの多くが中止となったが、みどりの月間に普及宣伝を行うことにより、厳しい状況の中でも緑の大切さを県民に呼びかける良い機会となった。

3. 参加者の声

- ・季節の花々や樹木があると通路の雰囲気が明るくなり大変良い。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年4月15日～5月14日	令和3年4月25日	令和3年4月25日
事業量	緑の募金街頭キャンペーン 木製プランター 11基設置 材質：木製 寸法：L=120cm W=55cm H=150cm (植栽された花、樹木の高さを含む)	緑の募金 街頭キャンペーン 街頭募金 苗木プレゼント 150本	緑の募金 街頭キャンペーン 街頭募金 球根プレゼント 500個
実施場所	秋田市 秋田駅東西連絡自由通路	五城目町	大館市

市民グループ森林づくり事業（A-42）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくりや環境緑化に対する県民参加の促進と緑化思想の普及啓発を図るため、市民グループ等が行う植樹、育樹及び環境緑化活動に助成する。

2. 活動の成果

植樹をすることで地域住民の憩いの場として蘇るとともに、緑豊かな郷土づくりを推進することができる。

3. 参加者の声

- ・地域の方々や子供たちが憩いを楽しめる森として大切にしていきたい。
- ・安全面が確保されたほか、植樹により今後の維持管理が継続可能になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業内容	参加者数	実施場所
11月1日	老木の伐採と植樹（防風林の再生）	32人	由利本荘市鳥海町上笹子地内 新町町内会
11月3日	サクラの植樹と追肥（環境林の造成）	50人	仙北市角館町 株式会社花葉館・植栽グループ
11月8日	サクラの植樹（並木の造成）	38人	湯沢市稲庭町下川原地内 令和共生の里プロジェクト
11月9日	陽光サクラの植樹（環境林の造成）	26人	大仙市飯田字家の前地内 上飯田町内会
11月15日	サクラの植樹（環境林の造成）	16人	大仙市内小友余目地内 内小友地域森林愛護推進協議会

緑の少年団育成事業（C-25）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

次代を担う児童生徒の組織基盤の強化と地域における少年団活動の一層の活性化を図るための緑の少年団交流集会を毎年開催しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。学校における植樹体験などを通じて、児童生徒の緑化への関心を高めるため、児童生徒が行う植樹活動に対する助成を拡充させた。

2. 活動の成果

部活動や学校行事などに様々な制限がある中で、児童生徒にとっても有意義な取り組みとなった。植樹体験や校庭を生徒の手で整備し完成させるなど、将来に繋がる環境教育となった。

3. 参加者の声

- ・自分たちで作った校庭を後輩にもしっかり受け継いでいきたい。
- ・学校の記念植樹が思い出に残る体験となりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業内容	参加者数	実施場所
7月7日	樹実の苗木植栽 (ブルーベリー6種類)	30人	秋田県立秋田中央高等学校
7月10日	花壇づくり	40人	秋田市立勝平中学校
10月6日	樹木の整枝・剪定体験活動	30人	大仙市立中仙中学校
10月19日	オオヤマザクラの植樹	70人	大仙市立豊成中学校
11月10日	サクラの植樹	40人	鹿角市立十和田中学校

森林活動指導者支援事業（C-26）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民が森林、林業体験活動や森林をフィールドとした保健休養、文化教育等の多様な活動を行う際に支援する指導的人材を育成するため、森林ボランティアを各種研修に派遣した。(新型コロナウイルス感染拡大防止の観点によりリモート開催)
また、森林ボランティア個人登録者650名への情報提供や、新規登録者へはヘルメットの贈呈を行った。

2. 活動の成果

各種研修に森林ボランティアを派遣することにより、森林ボランティアの資質の底上げ、向上を図った。また、他県や他団体の取り組みに触れることにより、新たなボランティア活動への刺激となった。

3. 参加者の声

- ・子どもたちが元気に安心して活動出来るよう、今後もお手伝いしていきたい。

緑の少年団活動のための機材等整備支援事業（431）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

新型コロナウイルス感染症の影響で緑の少年団の交流研修等の実施が困難な中で、各団での活動の充実を目的とし、緑の少年団活動のための機材等を整備して希望する少年団への配布および貸出を行う山形県緑の少年団連盟の事業を支援した。

2. 活動の成果

防水ハンズフリー拡声器スピーカーを52個購入し、希望する緑の少年団（22市町村の39の緑の少年団）に配布した。
また、貸出用として、以下の機材等を整備し、各緑の少年団（29市町村の62の緑の少年団）に貸出・周知した。

- ・剪定ばさみ 25個
- ・双眼鏡 5個
- ・図鑑『五感で調べる木の葉っぱ図鑑』 20冊
- ・防水ハンズフリー拡声器スピーカー 2個

3. 参加者の声

- ・防水ハンズフリー拡声器スピーカーは、コロナ禍での野外活動等に活用したい。
- ・整備された機材等は、いずれも緑の少年団活動に適しており、活用していきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月10日	計	備考
事業量	機材の配布・貸出用機材等の周知		
参加者数	人	人	
実施場所	山形県内29市町村、緑の少年団62団		

緑化木贈呈事業（441）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

令和2年7月末に山形県内の各地で発生した豪雨災害で被災した子育て施設（幼稚園、保育園、子育て支援施設等）や、被災地に居住している園児が通う子育て施設にクリスマスツリー（ウラジロモミ、高さ約1.5m）の生立木と飾り物等を寄贈した。また、緑化の普及啓発を図るため、県内で開催される森の感謝祭への緑化木寄贈を行った。

2. 活動の成果

森の感謝祭ではオープニングセレモニーの中で、緑のプレゼントとして、桜苗木（ソメイヨシノ25本、オオヤマザクラ25本）を寄贈した。

クリスマスツリー贈呈事業では、クリスマスツリー（ウラジロモミ、高さ約1.5m）の生立木と飾り物等（県産木材を使用したオーナメント、プランターカバーを含む）を寄贈した。

- ・9/29 むらやま地域森の感謝祭オープニングセレモニー（村山市甌葉プラザ） 17名参加
- ・12/2 河北町かほくあいこども園49名参加、上山市総合子どもセンターめんごりあ10名参加、村山市西郷認定こども園16名参加
- ・12/3 中山町なごみ保育園17名参加、中山町ながさき保育園52名参加、山辺町認定こども園ゆりかご幼稚園164名参加
- ・12/4 大江町大江幼稚園58名参加、大石田町ふたば横山保育園55名参加、大石田町ふたば保育園101名参加
- ・12/9 大蔵村大蔵村保育所24名参加

3. 参加者の声

- ・山に木を植えることなど、森の大切さが分かった。
- ・本物のモミの木をクリスマスツリーとして使うことができることがよかった。
- ・木の実のオーナメントがよかった。
- ・松ぼっくりでできたタヌキのオーナメントを飾れてよかった。
- ・クリスマスツリーがあると子供たちが笑顔になる。大変ありがたい。
- ・オリジナル作品を作ることができてよかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月29日	12月2日～9日	計	備考
事業量	むらやま地域森の感謝祭2020	クリスマスツリー贈呈事業		
参加者数	17人	546人	563人	
実施場所	山形県上山市、山辺町、中山町、村山市、河北町、大江町、大石田町、大蔵村			

緑の募金普及啓発事業（451）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の募金の普及啓発のために緑の募金のシンボルマーク入りマスクを製作して、関係機関等に無償配布した。

2. 活動の成果

緑の募金のシンボルマーク入りマスクを600枚製作した。配布先は、山形県、市町村、県内の森林組合などに配布した。

3. 参加者の声

- ・緑の募金シンボルマーク入りマスクを付ければ、感染対策をしながら新しい生活様式に即した形で緑の募金の啓発ができた。
- ・シンボルマークが入っているマスクは、中々見ないので面白い取り組みだと思った。
- ・春の街頭募金時に是非活用したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月11日	計	備考
事業量	緑の募金普及啓発事業		
参加者数			以下の関係機関等に配布した
実施場所	山形県、各市町村、各森林組合、山形森林管理署、東北・北海道地区緑化推進協議会等		

緑化普及啓発事業（第29回緑の提言・作文コンクール）（A-46）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本県は多くの湖沼や温泉資源、すぐれた景観・自然環境に恵まれ、人情味あふれる県民性ともあいまって全国の人々から愛され、親しまれてきました。

緑は本県のかげがえのない財産であり、これを守り育て次の世代に引き継ぐことが私たち県民に課せられた大きな使命です。森林資源をとりまく諸情勢は厳しく全地球的な問題を抱えている現在、「緑の大切さ」「森林と自然の保全」を啓発することが急務となっています。このため、県民の「緑」に対する関心と意識を高めることを目的に、広く県内の児童・生徒から提言と作文を募集し、優れた作品を表彰・発表するものです。

2. 活動の成果

2020年11月から作品の募集を始め、小中学校の冬休み終了後から作品が届き始めました。

小学校から38点、中学校から133点の合計171点の応募がありました。

2月16日に福島民友新聞社で審査会を開き、全部門合わせ、43名の入賞者を選びました。

翌日17日付けの福島民友本紙で結果を発表し、3月上旬に賞状・副賞を学校宛に発送しました。

5月4日付け「みどりの日特集」で金賞・銀賞入賞作品を掲載し、その栄誉をたたえとともに、自然の大切さ・身近な環境問題意識の啓発をしました。

応募作品の内容は、自分自身の体験に基づいたものが多く、自然環境や森林保全に対する課題、提言などが幅広い視点で分かりやすくつづられていました。

参加賞は、机の上で育てられる「花の球根と4寸鉢のセット」、副賞は学用品を用意しました。

今後も、福島県の未来をどのように考えていくか、未来を担う小中学生の考え方を同コンクールを通して、紙面で伝えていきたいと考えます。

3. 参加者の声

「作品に対する審査員の感想」

- ・低学年

通学路や公園など自分がいつも目に見ている場所で発見したことが、しっかりと書かれていた。

- ・中学年

自分が体験したことで「緑の大切さ」に気づくことができた過程が、生き生きと書かれていた。

- ・高学年

社会科や総合的な学習の時間で学んだことを生かしながら、自分が日頃目に見ている身近な「緑」・「自然」について考えたことが書かれていた。

- ・中学校

・本審査にかけられた作品には、「提言」の体をなすものも、作文の体をなすものも見られ、中学生としての表現力や構成力で書かれた作品が見られた。

・内容について、「ふるさとの緑」というテーマに即し、現状をよく調べ上げ書かれている作品が多かった。

・緑や自然、ふるさとの森林保全についての関心が低い傾向にある中学生が、このコンクールに参加することで関心をもったり、森林保全の現状について考えたりすることができていると感じた。中学生の立場で提案を発信したり、現状について捉え、改善への意欲や意識を高めたりすることができている作品もあり、今後の森林保全や環境保全の担い手としての自覚を感じた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年11月1日	令和3年1月14日	令和3年2月16日	備考
事業量	作品募集開始	作品締め切り 作品整理	本審査会	
参加者数		171人	7人	
実施場所	本審査会は、福島民友新聞社で実施（事前審査は、附属小・中で実施）			

森林・林業とのふれあい事業（第45回福島県林業祭）（A-47）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

10月に開催を計画していた福島県林業祭を、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、令和2年11月15日（日）に第45回福島県林業祭（パネルディスカッション）として開催した。

「集え、若き拙人！（そまびと）～林業担い手討論会～」と題し、本県の林業に関する取組の一つである「林業アカデミーふくしま」の来年度開講に向け、充実した研修制度等について説明するとともに、パネルディスカッションにおいて本県の林業の現場で活躍する若手を登壇者に招き、「林業の魅力と展望」をテーマに、仕事の実態や、やりがい、担い手確保に向けた取組や戦略などについて発信した。

2. 活動の成果

パネルディスカッションにおいて、林業という職業の魅力や、やりがいについて多くの参加者の理解を得ることができた。

高校生や大学生、林業従事者、林業に興味・関心がある方など100名の方が熱心に聴講するとともに、学生などからは登壇者へ多くの質問が寄せられていたことから、林業に対する意識の醸成、担い手確保の推進につながる。

3. 参加者の声

参加者の学生からは、「林業で働く現場の人や林業事業者がどのような仕事に取り組んでいるのか等わかりやすく教えてもらって良かった」、林業従事者からは「パネラーの皆さんが林業の魅力を語ってくれて、聞き手側も理解してくれたと思う。そこが良かった。」との声が聞かれた。登壇者からは「林業について、環境教育なども通して周知していきたい」との意気込みが語られた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月15日	計	備考
事業量	第45回福島県林業祭の開催		
参加者数	100人	100人	
実施場所	福島県二本松市郭内		

ふくしま緑の醸成事業（A-49）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「緑の募金」における新型コロナウイルスの影響低減に向け、10月1日から運用を開始したキャッシュレス決済によるカード利用者等へ、領収書発行時に「ふくしま緑の写真コンクール」優秀作品のポストカードを作製配布し、緑の醸成の拡大を図るものです。

2. 活動の成果

「第35回ふくしま緑の写真コンクール（令和2年度）」の特選1点、金賞5点、銀賞6点、計12枚のポストカードを作製しました。パッケージデザインは2種類用意し、ポストカードには、緑の香りや緑の募金キャッシュレス決済のQRコードをつけました。

作製したポストカードは、キャッシュレス決済による緑の募金寄付協力者へ領収書と併せて配布しました。

また、県内幼稚園・保育園・こども園、小学校、企業等へも配布し、緑の醸成の拡大を図るためPRを行いました。

ポストカードの配布をとおして、県内の緑への親しみやすさやばらさが再認識されるとともに、ポストカードの性格上その波及効果が期待される。

3. 参加者の声

ポストカードのデザインは、写真コンクールの入賞作品を使用していることから、福島県内の美しい緑の風景や自然の力強さを感じさせる作品が多く、受けとった方々からは、綺麗な写真だという意見や緑の香りがして面白いと大変喜ばれました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年11月～令和3年1月	計	備考
事業量	ポストカード1,000組	1,000組	
参加者数	—	—	
実施場所	福島県全域		

青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業（A-50）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林・林業に対する理解を深めるため、県内の小中高等学校等を対象として、本県の林業普及誌である「林業いばらき」に緑化だより欄を設け、教材として配布する。

2. 活動の成果

林業体験学習の募集、実施状況、緑の少年団の指導者に対する情報提供活動などの広まりに効果があった。

3. 参加者の声

緑化だよりで森林や自然に関わる文化について学ぶことが出来て良かった。

緑化関係イベント等の開催情報が良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	毎月	計	備考
事業量	902部/月	902部/月	
参加者数	教育関係者	人	
実施場所	茨城県一円		

緑の体験教室開催事業（A-51）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

子どもたちが森林・緑への理解を深め、自然に親しみ、豊かな自然環境を守る心を育成するため、緑の体験教室を開催した。

2. 活動の成果

緑の体験教室の開催を通して、子どもたちが森林・緑への理解を深め、豊かな自然環境を守る心を育成することが出来た。

3. 参加者の声

児童の皆さんも丸太切りや茨城県の自然の話など、とても有意義な体験になったと振り返っていた。機会があれば、次年度も参加したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月20日～3月20日	7月20日～3月20日	計	備考
事業量	昆虫標本づくり、夏の昆虫観察会、秋の昆虫観察会（計3回）	県内の森林や自然の観察、木工工作（プランター作り等）、丸太切り体験等（計15回）		
参加者数	58人	946人	1,004人	
実施場所	茨城県民の森、潮来市 水郷県民の森			

グリーンフェスティバル開催事業（A-52）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

適正な森林管理の重要性をはじめ、利用期を迎えた人工林を有効に活用することが、森林の整備にもつながることなど、広く県民に森林や木材利用の大切さについて理解と関心を深めるため、「グリーンフェスティバル2021」を開催する。

2. 活動の成果

広く県民に、地球温暖化防止等の様々な機能を発揮している森林の重要性を啓発することができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月18日（筑西）、 10月5日～11日（水戸市）	3月6日	計	備考
事業量	いばらき森林づくり・木づかい キャンペーン2020	ボランティア養成講座		
参加者数	延べ2,200人	40人	延べ2,240人	
実施場所	道の駅グランデス筑西、水戸駅	水戸市森林公園		

森林ボランティア育成事業（C-28）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林ボランティア団体のスキルアップを図るため、指導者養成が急務になっているので、ボランティア活動の意義と技術の取得を目的に公募による指導者育成・確保及び交流を図るための宿泊合宿を行う。

2. 活動の成果

当初、例年どおり森林ボランティアの宿泊合宿を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とし、代替えとして「茨城県森林ボランティア団体活動事例集」を作成し、各団体の活動内容を今後自身の団体の活動に取り入れるなど、大いに参考にすることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年3月作成	計	備考
事業量	活動事例集冊子作成		
参加者数	28団体	28団体	
実施場所	県内一円		

山村地域づくり活動助成事業（C-29）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山村地域の活性化をはかるため、地域づくりを実践する森林整備グループ活動に対して支援を行うことを目的として、公募により助成金を交付する。

2. 活動の成果

地域コミュニティの構成者を会員にする森林整備グループ、団体を活動支援することにより、地域環境整備に貢献した。また、他地域のグループ結成の動機づけになった。

3. 参加者の声

活動を通じて地元の自然環境の理解と自然環境部員の情報交流を図ることができ、部会員の日頃の活動等に役立っていると期待される。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～3月	計	備考
事業量	森林整備・環境整備・間伐実施・竹林整備・松林再生等		
参加者数	10団体/約500人	500人	
実施場所	茨城県水戸市等10か所		

緑化樹木等苗木無償配布事業（C-30）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民の緑化意識の向上を目的に県内均等に普及啓発する目的で緑化推進協議会が関係するイベント等の参加者に対し、苗木の無償配布を行い、緑化思想の普及啓発を図った。

2. 活動の成果

緑化樹木の配布により、各地域での緑化意識の啓発を図ることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月10日	計	備考
事業量	苗木の配布及び緑の募金PR		
参加者数	330人	330人	
実施場所	桜川市他		

森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業（A-53）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

みどり豊かな環境を次の世代へ引継いでいくため、幅広い緑化運動を実施し、秋季緑化期間中に、11市町13会場において苗木の配布会を行った。

また、苗木配布会には県土緑化メッセージの幟旗等を多数配置し、参加者への緑化の一層の推進を図った。

なお、当機構の情報・活動内容を掲載した、広報誌「とちぎの緑化」を発行し、県内一円に配布するとともに、緑化をPRするCMを県域ラジオ・テレビで放送して緑化の推進を図った。さらに、国土緑化推進機構作成の国土緑化運動ポスターを、学校等へ配布し、緑化の重要性について普及啓発を行った。

2. 活動の成果

苗木配布会やみどりの月間にCM放映をするなど、県土緑化の推進及び県民の緑化意識の醸成に資した。また、苗木配布会場においては、募金箱や募金チラシ等で募金活動を実施し、県民の多くの方が緑化募金に協力した。

なお、当機構の機関誌「とちぎの緑化」には、機構の組織・事業内容、事業実施者の感想等を掲載し県民の皆様へ配布し、当機構の事業や緑の募金についてご理解をいただいた。今後より一層緑化の推進に努めていきたい。

3. 参加者の声

- ①苗木配布を楽しみにしています。
- ②大切に育てます。
- ③苗木配布会を引き続き実施して欲しい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日～ 3月30日	4月1日～ 6月30日	計	備考
事業量	苗木 1,910本 ポスター配布 1,030枚	広報誌配布600冊 県域ラジオ放送28回 テレビCM10回		
参加者数	2,000人	550人 放送回数計 38回	2,550人	
実施場所	苗木配布会：11市町13会場 ポスター・機関誌：各学校・各市町等			

青少年の教育の場としての森林の活用促進事業（C-31）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

目的：木工体験や自然観察会で木と自然に親しむ中で、子ども達に自然や森林環境に興味、関心をもってもらい、森林の多面的機能についても、パネルや観察会で説明し学びにつなげる。

内容：令和2年10月18日（日）、とちぎわんぱく公園（壬生町）にて、来訪者親子に、家族単位で木工体験（県産材木製プランター製作）と自然観察会（公園内自然林をグリーンアドバイザーの説明を聞きながら観察会）への参加を呼びかけ、110名の参加を得た。

森林環境教育資料をパネル展示及び配付し、治山や森林の機能についての普及啓発に努めた。

2. 活動の成果

コロナ禍で、例年実施のバスツアーは三密となるため中止し屋外で実施できる事業を計画した。当日受付としたため参加目的で会場を訪れた方が少なかったが、親子での木とのふれあいに多くの参加があり、パネル展示にも興味を示し、木の香りやぬくもり、森林の役割を感じてもらうことで森林の大切さを身近なことから捉える機会をつくれた。

コロナ感染症流行により密を避ける初めての試みとして実施したが、ソーシャルディスタンスを確保できる会場の選定や来場者への感染防止措置、資機材の使用の都度の消毒等でスタッフが対応に苦慮する点が多く、屋外実施を絶対条件としたため雨天で3度延期となるなどスタッフ不足で十分な説明ができない部分もあった。今後、様々な状況下での実施を想定した柔軟な対応ができるよう事業を検討する必要性を感じた。

3. 参加者の声

思いがけず、貴重な体験ができて、楽しい1日だった。

機会があればまたは是非参加したい。

（森林の機能など）知らないことが説明で理解できて楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月18日	計	備考
参加者数	110人	110人	
実施場所	栃木県壬生町		

巨樹・古木巡りツアー事業（A-56）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内各地に点在する巨樹・古木の現状と治療状況を樹木医の解説を交えながら観察し、保全の必要性や重要性等の認識と理解を深め、緑化思想の高揚と啓発を図る事を目的として、毎年年2回春、秋に県内4コースにわかれて巡る日帰りバスツアー。

2. 活動の成果

新型コロナウイルスの感染拡大のため、参加人数を例年40名のところ、20名で実施した。県内各地の代表的な巨樹・古木を樹木医の解説を交えながら観察し、直接木々に触れ、歴史を学び、自然を思いやる心、森林の重要性を伝えることが出来た。

毎回抽選するほどで、4月10日実施の応募状況は、定員80名のところ226名の応募があり、利根沼田コースが93名と一番人気であった。

一度参加された方は、4コース巡りたいと、毎回楽しみにしている。

3. 参加者の声

- ・巨樹があることは知っていても、説明を聞くことで歴史的背景を知り、貴重な存在であることを認識できた。
- ・この歴史的な古木を後世に伝えなければいけないと痛感しました。そして群馬のすばらしい山林を保護していかなければならないと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月1日	4月10日	計	備考
事業量	巨樹・古木巡りツアー	巨樹・古木巡りツアー		
参加者数	76人	79人	155人	
実施場所	群馬県一円			

緑の少年団活動活性化事業（A-57）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本県の緑の少年団は県内すべての小学校等に結団され約5万6千人の団員が活動しており、全国的にも有数の規模を誇っている。しかしながら、全少年団を対象として交流集会の開催等が困難であることから、意欲ある少年団の活動を支援し、その少年団の模範的活動を冊子等で紹介することとした。

県内各少年団に対して、緑の少年団として、森林の役割や森林との関わり方を考えるきっかけとなるよう働きかけ、また指導する小学校教員に対し森林環境学習の重要性を認識してもらい、今後の少年団活動の活性化に資することを目的とし、各緑の少年団の活動内容を紹介する冊子「緑の少年団活動の記録」を作成した。

2. 活動の成果

活動事例冊子の配布は、他団の特色ある活動や優れた活動を知ることによって、緑の少年団活動がより一層活発化することが期待される。

3. 参加者の声

- ・毎年開催していた「夏の森林教室」が新型コロナウイルスの影響で中止になりとても残念。自然観察会やツリーイングを行い子どもたちに森林の働きや森林遊びの楽しさを体験できる重要なイベントであり、来年度は開催出来るよう期待する。
- ・他団の活動がわかる。来年の計画の参考とした。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月	計	備考
事業量	緑の少年団活動の記録		
参加人数	県内全315団ほかに配布	550部	
実施場所	県内緑の少年団、市町村等へ配布		

さいたま森林フォトコンテスト事業（A-58）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林と緑と水の豊かさを再認識すると同時に、林業及び環境保全への理解を深めてもらうため、県内の森林と緑の再発見を目的に、第30回さいたま森林フォトコンテストを開催した。

作品テーマは「森林や緑などの自然風景、またそれらと人間との結びつきを感じさせるもの、または林業への理解を深めるもの。」として募集した。

2. 活動の成果

応募期間は令和3年3月から令和3年5月14日までとして実施し、応募作品は488点であった。同年5月に審査会を行い、特選（知事賞）1点、準特選（緑化推進委員会賞、埼玉新聞社賞）2点、優秀賞（埼玉りそな銀行賞、埼玉県治山林道協会賞、ガイドードリンコ賞、日本製紙賞、AGS賞）5点、佳作12点を選定し、6月24日に表彰式を行った。

表彰式会場での展示のほか、今後埼玉県庁3階渡り廊下で展示を行う予定である。また、6月18日の埼玉新聞紙上で全入選作品が紹介された。併せて、埼玉新聞社のホームページでも紹介されている。

3. 審査総評

30回目を迎えたさいたま森林フォトコンテストは、応募点数488点と昨年を上回り、過去10年間で最多となった。また、入選者の平均年齢が昨年の70歳に対し59歳と若返った上、初入選者も昨年3名だったのが10名に増加するなど「新たな時代を迎えた」という印象が強く感じられた。

今年の作品傾向は、外出の自粛要請に伴って、人の集まる祭りや行事、イベント風景などをテーマにした作品は例年よりかなり少ない傾向であった。しかし、季節ごとの美しい森林風景や、森の中で市民が「自然」と親しんでいるようなシーンが活写されており、地味ではあるが「森（みどり）と人との関わり」の大切さを改めて感じさせる作品が多く寄せられていた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月4日～ 5月14日	5月17日	6月24日	6月24日
事業量	作品募集	審査会	授賞式	展示
参加者数	488人			
実施場所	埼玉県内			

緑の少年団活動支援事業（A-59）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団活動実施のための基礎となる森の恵みや森とのかかわり方を学ぶための図書を少年団に配付するとともに、指導者には安全な活動実施のための図書を配布し、森林への理解を深めてもらう。

2. 活動の成果

次代の緑化運動の担い手である「緑の少年団」活動の基礎となる図書を配布し、活動が従来通りできない中、学習活動に活用された。

3. 参加者の声

- ・今年活動がほとんどできなかったが、今後の活動に図書を活かしたい。
- ・安全編をよく読んで、今後の活動に活用できるようにしたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月～10月
事業量	少年団 279冊 指導者 36冊配布
参加者数	26団
実施場所	埼玉県内

緑化普及啓発事業（A-60）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民に対し緑化活動への参加促進を図るため、森林ボランティア団体の活動を情報提供した。

活動情報は、8月から4月の地元新聞に森林イベント情報を掲載し、緑の募金とともに森林ボランティア活動への参加を呼びかけた。

2. 活動の成果

新聞の情報を見て、毎月2から3人が新たに森林ボランティア活動に参加した。

3. 参加者の声

- ・森林ボランティア活動をやってみたかったが、どこに問い合わせようかわからなかった。新聞を見て、参加のきっかけとなった。
- ・緑の募金が緑化に役立っていることがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R2.8.～R3.4.	計	備考
事業量	1月を除き、毎月1日にイベント情報掲載		
参加者数			
実施場所			

木づかい推進・普及啓発事業（A-61）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

二酸化炭素吸収機能など、森林の公益的機能を十分に引き出すためには森林の若返りが求められている。

そのためには豊富な森林資源を上手に活用し（木づかい）、木材製品の良さを社会全体に普及啓発する必要があることから、本事業においてモデル的な取り組みとして間伐材を利用したベンチ及び樹木名ラベル等を製作し、会員市町村の施設及び東葛飾教育事務所管内の小中学校（37）に設置した。併せて地域材、間伐材の活用の目的を広く周知等行った。

2. 活動の成果

市町村の庁舎だけでなく、学校や図書館などの施設に設置することにより、多くの県民が木製品に実際に触れることができるとともに、豊富な森林資源を上手に活用し循環させることの重要性について理解を広めた。

3. 参加者の声

木の自然な色合いが良い・木の暖かみがあってよい・学校も喜んでいて（学校設置分）

子どもたちが樹木名を学び、みどりにふれあった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月13～12月5日	9月15～12月15日	計	備考
事業	ベンチ、プランター、飛沫防止パーテーション・スタンド	樹木ラベル		
設置数	10市町村	37小中学校	10市町村、37小中学校	
実施場所				

森林・林業技術講習会（A-62）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

健全な森づくり、災害に強い森づくり、森の生物多様性など、現代の森づくりはテーマが多様化、高度化しており、専門的な知識や技術を求めるニーズが出てきていることから、森林に携わる県民のスキルアップを図るため森林林業技術講習会を実施した。

会員や森林・林業に関心のある県民等を対象に、「千葉県の地質と災害」と題して千葉県の地形・地質の特徴による斜面災害等についての説明や地質調査手法等についての講義。南房総市白浜町の大規模海底地すべり地層見学、館山市平砂浦海岸の防災林造成事業の視察をおこない森林の持つ様々な防災機能や災害防止の施工方法等について知識・技術の習得を図った。

2. 活動の成果

千葉県の地形・地質の特徴による斜面災害などの被害が発生している。そこで地質・土質について学ぶことで、自然環境や森林の機能・緑の大切さを再認識することができた。また、参加者がそれぞれの職場、地域等で本講習会の内容を周知することが期待される。

3. 参加者の声

千葉の地質に伴う注意事項を知ることができ、今後の業務に生かしたい。山腹崩壊の被災例が具体的に示されて分かりやすかった。実際に現地を視察することができて有意義でした等の感想があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月16日	計	備考
事業量			
参加者数	28人	28人	
実施場所	白浜コミュニティセンター大会議室（講義）、南房総市白浜町（大規模海底改定地すべり地層）・館山市平砂浦海岸（防災林造成事業） （現地視察）		

九十九里海岸防災林再生植樹事業（A-621）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

東日本大震災による津波の浸水被害や松くい虫等の被害により荒廃した九十九里海岸の防災林の機能を取り戻すため、千葉県の協力のもと、森林ボランティアをはじめとする県民の参加を得て、抵抗性クロマツ等の植樹を行った。

2. 活動の成果

森林ボランティアや県民の参加を得て、抵抗性クロマツ等の苗木の植樹を行うことにより、海岸防災林の早期再生に寄与するとともに、県民の森林への理解を広めた。

3. 参加者の声

大震災から10年となるこの時期に植樹行事に参加し、改めて森林の防災機能に目を向ける良い機会となった。（森林ボランティア）

サーファーにとって海岸保安林は重要なもの。こうした行事にもっと参加し、盛り上げ、千葉から、一宮から、こうしたことを発信できたらと感じた。（地元サーファー）

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月16日	計	備考
事業量	植樹 760本 面積 0.21ha	760本 0.21ha	
参加者数	28人	28人	
実施場所	千葉県長生郡一宮町東浪見		

ふるさとの杜活力調査事業（B-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

都内には小さな公園や寺社など、多くの「杜」が点在する。これらは、市街地における美観風致の維持に加え、地域住民の憩いの場や災害時の避難場所としても、古くから重要な役割を果たしてきた。

こうした公共的評価の高い「杜」のうち、区市町村が指定する保存樹や保存林などを中心とした樹林を対象に、樹勢診断と健全度評価等を実施し、その成果を樹林の整備に還元した。

また、本事業を通じて過去に調査を行った「杜」についても、その後の保全や活用の状況を追跡調査して再評価し、地域の取組みの中で「杜」を有効に活用する方策等をまとめた。

2. 活動の成果

今回は、計4か所で調査を実施し、それぞれの報告書を作成した。

杜の活力調査では、石神井川河川管理通路樹木（北区）、墨田公園サクラ（台東区）、目白台運動公園（文京区）にて、樹木や植生の現況、活力度等の調査・評価を行い、今後の管理方法について提言等を行った。

追跡調査では、丸池雑木林公園（三鷹市）の樹木・植生について、前回調査後の変化等を再調査し、持続可能な「杜」として管理するための提言等を行った。

上記4箇所の「杜」における樹木の腐朽や枯損等の問題点と課題を明らかにし、具体的な対策を提言としてまとめ、地元自治体へ還元した。今後、利用しやすい「杜」の環境整備と安全確保がいっそう進み、景観の維持や生物多様性の保全等が図られることが期待でき、都市緑化の推進に寄与した。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月16日～2月26日
事業量 ・参加人数	<ul style="list-style-type: none"> ・事前調査 4か所×5人 ・個別調査 新規3か所×16人×2日 再調査1か所×16人×2日 ・報告書作成 4か所×5人×5日 ・成果報告 4か所×3人 延べ260日（人）
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ・活力調査：石神井川河川管理通路樹木（北区）、墨田公園サクラ（台東区）、目白台運動公園（文京区） ・追跡調査：丸池雑木林公園（三鷹市）

普及啓発情報誌「林業にいがた」発刊事業（A-63）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑豊かな潤いのある県土づくりを目指し、「森林の世紀」といわれる今世紀に、森林・緑に対する「国民参加の森林づくり」運動の一層の推進を図るため、普及啓発情報誌を発刊し、普及啓発に努めた。

2. 活動の成果

「森林と人間との共生」を基本理念とし、県内における唯一の林業月刊誌「林業にいがた」に、当委員会の事業内容や活動状況を掲載することによって、県民に広く普及啓発を図り、「森林・緑・水」に対する認識を深め、森林づくりの重要性をアピールすることができた。

3. 参加者の声

- ・林業関係者の方に、当委員会の事業内容や各地域の活動状況を伝え、理解してもらうことができるので、今後も有効に活用し継続していきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R2年7月～ R3年6月	計	備考
事業量	「林業新潟」内 特別コーナー 2P×12ヶ月	2P×12ヶ月	
参加者数			
実施場所	新潟県全域		

「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業（秋期）（A-64）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続的可能な社会の実現に向け、当委員会では、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語一木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、FM放送での周知、森づくり活動情報パンフレット、会報誌の作成を行った。

2. 活動の成果

ふるさとの環境について理解を促進するため、新潟放送（BSN）が企画した「近藤丈靖の独占ごきげんアワー」内「ごきげんガーデニング」では、県民一人ひとりが身近な森林について考え、保護し活動を促すことを発信した。新潟の森林について考え、森林への理解を深めること、「緑の募金」協力を広く県民に呼びかけることができた。

また、にいがた「緑」の百年物語県民運動及び国民参加の森づくりへの一層の参加の促進を図るには森づくりや緑化の活動情報を県民に提供する必要がある。会報誌では、植樹した樹木の成長した姿、森からの恵み、活動するボランティア団体の紹介等を広く周知することができた。

そのほか県内で実施される森づくりの活動情報が記載されたパンフレット（秋期版）等を作成して広く県民に配布し、ホームページにも掲載したことで、活動の参加促進を図ることができた。

どちらも新潟においては少しずつ浸透してきており、今後も春期と秋期の2回に分けて継続していく。

3. 参加者の声

- ・「ごきげんガーデニング」の放送を聞いて緑の募金への意識が高まった。
- ・自分たちだけで広報するには限界があるので、パンフレット等での広告はとてもありがたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～12月	7月～9月	7月～9月	備考
事業量	FM放送	パンフレット	会報誌	
参加者数				
実施場所	新潟県全域			

「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業（春期）（A-65）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続的可能な社会の実現に向け、当委員会では、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語一木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、会報誌、事務局だより、森づくり活動情報パンフレットの作成を行った。

2. 活動の成果

にいがた「緑」の百年物語県民運動及び国民参加の森づくりへの一層の参加の促進を図るには森づくりや緑化の活動情報を県民に提供する必要がある。会報誌では、植樹した樹木の成長した姿、森からの恵み、活動するボランティア団体の紹介等を広く周知することができた。

また、事務局だよりでは、当委員会の運営を深く理解し、「緑の募金」を促すため、当年度の事業計画のほか、国土緑化運動・育樹運動のポスターや標語の入賞作品、褒賞の受賞者を広く周知することができた。

そのほか県内で実施される森づくりの活動情報が記載されたパンフレット（春期版）を作成し、広く県民に配布することにより、活動の参加促進を図ることができた。

会報誌と活動情報パンフレットにおいては少しずつ浸透してきており、今後も春期と秋期の2回に分けて継続していく。

3. 参加者の声

- ・自分たちだけで広報をするには限界があるので、パンフレット等での広告はととてもありがたい。
- ・イベント情報の掲載期間の範囲が広まったため、年間を通した活動が周知できるようになって良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月～4月	4月～5月	10月～6月	1月～6月	備考
事業量	会報誌	事務局だより	パンフレット	新潟放送	
参加者数					
実施場所	新潟県全域				

緑化団体活動周知・地理情報活用事業（A-66）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続的可能な社会の実現に向け、当委員会では、2001年にスタートした、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語一木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、地理情報システムを活用して、県内で展開する緑化団体の活動を周知し、身近な森づくりの推進を図る。

2. 活動の成果

第65回全国植樹祭の開催を契機として、県民参加の森づくりの推進が一層求められている。当委員会が中心的役割を担う、2001年にスタートした「にいがた緑の百年物語県民運動」の、これまで積み上げた県内各地の森づくり活動を集約・発信し、森林・緑の対する意識を深める機会を提供した。同時に、身近な森づくりへの参加を促した。また、環境保全への関心を深め、ボランティアによる森林整備や緑化活動を活発にした。そして、当委員会との連携や緑化活動団体相互のつながりを密にし、県民一人ひとりが思いを抱く緑化活動の展開につなげた。

3. 参加者の声

- ・これまでの森づくり活動が簡単に検索でき、他団体の情報も知ることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R2年7月～R3年6月	備考
事業量	地理情報システム	
参加者数		
実施場所	新潟県全域	

森林・木材等普及啓発事業（A-67）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

①木工教室の開催

富山県木材組合連合会と共催で、令和2年10月10日、県木材研究所において「とやま木と住まいフェア2020」を開催した。木工教室（椅子、バードコール、キーホルダーづくり）、公開実演（木の強さを測ろう、ヒノキ丸太のかつらむき）を体験し、木のもつ柔らかさや温かさ、加工の容易さなど木の特徴を伝えることができた。

②緑に親しむ集い

令和3年5月4日（みどりの日）、県民公園頼成の森において「緑に親しむ集い」を開催した。シイタケの植菌体験（98本）、管理方法や森からの恩恵について普及啓発を行った。

③花とみどりの少年団支援

森林環境教育を促進するため少年団に運営費を助成した。

④森林・緑普及広報

ホームページで事業活動を紹介し、県民に森林・緑の大切さを普及啓発した。また、学校への苗木配布や各種コンクールの募集、審査や表彰を行い、県民の緑化思想の醸成を図った。

2. 活動の成果

木工教室やシイタケの植菌体験を通して、森の恵みの活用や作る楽しさ、木のもつ柔らかさや温かさを知ってもらえた。

森林環境教育や苗木の植樹を通して、未来を担う青少年に森林のはたらきについて理解を深める機会となった。

ホームページで情報の発信することにより、身近な緑化の推進に繋がることが期待できた。

3. 参加者の声

（木工教室で）素敵な椅子ができて嬉しい。日常生活でも木製品の活用をしたい。

（シイタケ植菌体験で）収穫が楽しみ。親子で貴重な体験ができた。

（花とみどりの少年団活動で）森林のはたらきについて知識を深めることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月10日	5月4日	通年	計
事業量	木工教室の開催（とやま木と住まいフェア2020）	緑に親しむ集い	花とみどりの少年団支援	
参加者数	300人	80人	32団	380人／32団
実施場所	射水市	砺波市	県内一円	

花とみどりの少年団活動支援事業（C-33）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

次代を担う子供たちが、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間に育っていく一助となるよう、県内の各少年団のうち、今後リーダーとなる小学校5年生（社会科で森林との関わりを学ぶ）を対象に、講師派遣及び副読本を配布し、森林に関する一層の理解を深めた。

また、「少年団のあらまし」を作成し、配布した。

2. 活動の成果

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、少年団活動のうち、夏季に予定していた「体験学習」及び「リーダー研修」を中止とした。

しかしながら、団員の学びの機会を確保する必要があると考え、各少年団単位で副読本（みどりのおもしろ発見ノート）の配布をした。また、希望の少年団へは講師の派遣をした。

「森林のはたらきについて」一定の理解を深めることができた。

3. 参加者の声

講師の先生の話聞いてわかったこと

①「森林があると環境がよくなるということ」

森林があると二酸化炭素が減り、環境もよくなっていくと聞いて、すごいなあと思いました。

②「森林の手入れをすること」

木の手入れをすると、災害に強く、価値の高い森林になることと、手入れをしないまま放っておくと、災害にあいやすいということが分かりました。

これからは森林を大事にして、いかしていきたいと思いました。

実績報告とりまとめ表

①副読本（みどりのおもしろ発見ノート）の配布

実施時期	9月23日	計
事業量	副読本（みどりのおもしろ発見ノート）の配布	
参加者数	981人	981人
実施場所	県内の小学5年生の団員及び指導者、その他関係者	

②講師派遣

実施時期	11月26日	12月11日	1月19日	2月3日	3月8日	計
事業量	講師派遣					
参加者数	14人	143人	12人	16人	14人	199人
実施場所	南砺市 井波小	射水市 大門小	射水市 金山小	立山町 立山小	南砺市 井口小	

森づくりグループ活動支援事業（C-34）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林整備を行う森づくりグループの活動を支援し、森づくりグループの自発的な活動を促進した。

2. 活動の成果

植樹活動等による健全な森林育成を通じて、地球温暖化防止や環境保全、水源の確保、潤いと安らぎの提供など多様な効果が期待できる。

また、第68回全国植樹祭（平成29年5月28日）で高まった緑化の機運が継続された。

3. 参加者の声

- ・マツクイムシに強い松があることを知り、植樹でき、このマツが海岸を守ることに期待している。
- ・大島海岸の歴史を知ることができ、海岸林に愛着が持てた。
- ・今後の成長が楽しみ。成長した様子を見に訪れたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月6日	計	備考
事業量	植栽 0.05ha ・ヤブツバキ 3本 ・スダジイ 2本 ・マテバシイ 2本 ・抵抗性クロマツ 100本	植栽 0.05ha ・ヤブツバキ 3本 ・スダジイ 2本 ・マテバシイ 2本 ・抵抗性クロマツ 100本	
参加者数	54人	54人	
実施場所	富山県 黒部市 石田 地内		

緑化思想の普及啓発事業（A-68）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

幅広い県民の緑化意識の高揚を図るため、緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクールの県審査における入選作品の表彰を行った。

また、金沢市の石川農林会館において、入選優秀作品の掲示を行った。

2. 活動の成果

表彰により応募者のインセンティブが高まるとともに、緑化ポスターに対する関係者の関心が高まった。

また、入選優秀作品の掲示を通して、広く県民の皆さんに対する緑化思想の普及啓発に役立った。

3. 参加者の声

森や緑の大切さについて、子供たちの視点で絵に表現されている。

表彰や作品展示は、児童・生徒のインセンティブの向上になる。

作品を鑑賞して、子供たちの自然に対する想いの一部が伝わってきた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和3年4月～5月	計	備考
事業量	緑化運動・育樹運動ポスター原画 コンクール優秀作品 掲示、表彰		
参加者数	27人	27人	表彰者数
実施場所	金沢市古府 石川農林会館		

県内産緑化苗木無償配布事業（C-35）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

幅広い県民の緑化意識の高揚を図るため、緑の募金や緑化の普及啓発活動とセットで県内産緑化苗木の無償配布を実施した。

2. 活動の成果

緑化苗木の無償配布を通じて、広く緑の募金運動や緑化の大切さに対する意識の高揚が図られ、新たに募金に協力する動機付けにつながった。

また、県内における緑化苗木生産部門の振興に寄与した。

3. 参加者の声

森や緑の大切さについて、改めて感謝したい。

今後、緑を守り育てるための協力をしていきたい。

無償配布で頂いた緑化苗木は大切に育てていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年11月	計	備考
事業量	88本	88本	
参加者数	51人	51人	
実施場所	県内一円		

森づくりボランティア・キャンペーン事業（C-36）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林に対する国民の期待が多様化、高度化する中、国民参加の森づくり運動推進の中核的役割を担う森づくりボランティアのリーダー養成を目的に、県内各地で森づくりボランティア・キャンペーンを展開し、活動基盤の整備及び森林ボランティアリーダーの養成、資質の向上を図った。

ボランティアについては、一般県民を対象に広く募集し、地元の住民との交流、連携に努めながら、各フィールドの森林の現況に応じて、植栽、下刈、施肥、除間伐、歩道開設、竹林伐採等の作業を実施した。

また、現地での作業のほか、セミナー形式で森づくりに関する基礎的知識や、安全のポイント、森林整備の道具・機械類の扱い等の研修を開催し、人材の育成に努めた。

2. 活動の成果

各フィールドの整備が促進されたことに加え、計画的に県内の森づくりボランティア活動を担う人材の育成が図られた。また、地元住民等との交流を通じて、農山村の活性化に役立った。

3. 参加者の声

森林の大切さや森林整備における各種作業の適期、必要性が理解できた。

森づくり活動は、一定期間継続しなければいけないことがわかった。

事前準備の重要性や作業が重労働であることがわかった。

実績報告とりまとめ表

①森づくり活動

実施時期	9月26日	10月24日	10月31日	11月7日	11月14日	計
事業量	里山林植樹、 施肥 0.3ha	竹林伐倒整理 0.3ha	下刈、除伐、 植樹 0.4ha	竹林伐倒整理、 植樹 0.3ha	竹林伐倒整理、 植樹 0.2ha	1.5ha
参加者数	53人	35人	45人	35人	35人	203人
実施場所	能美市	金沢市	輪島市	津幡町	金沢市	

②研修講座

実施時期	8月～11月
事業量	講義6回
参加者数	67人
実施場所	金沢市他2市町

もりとふれあい推進事業（普及啓発事業）（A-69）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくりを通じて次世代の育成を目指した森林教育の推進と山村地域の活性化・地域づくりの推進を図る。

- ①里山登山体験、秋の自然観察②いろんなキノコにあえるかな③樹木から秋の香りきのご探し④自然素材でクラフト体験⑤秋の香りってどんな香り⑥林内散策と落ち葉・木の枝拾い、リース作り⑦杉丸太で何が分かるかな⑧学校内の除草作業活動

2. 活動の成果

木や花、きのここと接し名前が覚えられたこと、親と子が楽しく自然体験ができたこと、木のぬくもりを感じながら木工体験ができたこと、秋の森の紅葉、自然のきのこや昆虫を採り名前を覚えることができたこと、植樹や下刈の体験ができたことなど、森づくり活動等を通じて広く県民に森林づくり運動の大切さや、森と緑・水・きれいな空気などの認識が深められた。

これからも、大人から子供まで県民が森の中で森の恵みを体験できるイベントを行う。

3. 参加者の声

- ・森の中の散策やいろんな植物などの名前を覚えてもらった事がうれしかった。
- ・森の中で、普段できない遊びがたくさんできた。
- ・子どもと森の中で自然に触れ合えると思って参加した。
- ・景色がきれいだった。リース作りも楽しかった。また参加したい。
- ・子どもに自然を学ばせたかった。森を歩いていて色々な発見に興味があった。
- ・いろいろな木やきのこが見れて楽しかった。
- ・落葉遊びや岩登り、森の散歩等、自然の中で楽しく遊べた。
- ・森にはいろんな植物や虫などがたくさんいることがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月26日 10月18日 10月25日	11月1日 11月21日 11月22日	11月27日 12月6日	計
事業内容	里山探検 秋の自然観察 里山登とキノコ探し 樹木観察 木工クラフト 落ち葉の森の散策	林内散策 落葉、枝拾い 杉丸太工作 下刈り活動 側溝周辺の草刈や折れた枝の除去	木を使おう リース体験 杉丸太で何が分かるかな 自然素材でクラフト体験	
参加者数	253人			
実施場所	福井市城山、福井市下市山、福井市朝谷町、福井市清水町、越前市別印、福井市小羽町、越前町江波			

ふくい森林づくり推進事業（活動基盤の整備）（C-37）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくり活動の実践と森林整備の担い手、森林ボランティアリーダーの養成を図る。

- ・ふくいの森づくり間伐研修会
- ・森を元気に育てる体験会

2. 活動の成果

植樹の大切さの体験、施業の集約化による低コスト化利用間伐材搬出方法の講習で、森林と水の大切さ、地域材・山村資源の活用等が一般県民に啓発ができた。また、これからも植樹体験会や効率的な間伐研修会を実施し、森林所有者、一般県民やボランティア団体に積極的に森林づくりに参加して貰えるよう努めたい。

3. 参加者の声

- ・自分の植えた木が大きくなるのが楽しみ。また見に来たい。
- ・木を植えることは、簡単に出来るんだと思った。
- ・機械で木を伐るところを初めて見たが、こんな機械もあるのかと思った。
- ・機械はすごく早く木を伐るのですごいが、機械の値段が気になった。
- ・倒した木の枝を取ったり決められた長さ通りに切ったりが機械でできるとは思わなかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月30日	10月24日	計
事業内容	間伐講習	植樹体験	
参加者数	16人	16人	32人
実施場所	坂井市小黒、福井市脇三ヶ町		

普及啓発事業 緑の少年隊森林学習会 (A-70)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年隊を含む県内の小中学生を対象に、森林学習・自然体験などの活動を通じて、森林についての興味や関心を深め、自然に親しむことを目的とする。

2. 活動の成果

森の中での野生動物や草木の観察、森の素材を使った染物など、五感を使って体験することにより、緑豊かな自然のすばらしさ、大切さを学ぶことができ、森林や自然に対する興味や関心を深める森林環境教育となった。

3. 参加者の声

- ・森の中でたくさんのフィールドサインを見つけられて楽しかった。
- ・シカが木の皮をむく理由がわかった。
- ・自分で染めたハンカチを学校に持っていきたい。
- ・しぼったりなべでにたりする染め方が面白かった。
- ・布をつくる綿やおかいこさんのまゆの中が見られてよかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年11月28日	計	備考
事業量	・自然観察ウォーク ・草木染め		
参加者数	5人	5人	
実施場所	山梨県南アルプス市上市之瀬 エコバ伊奈ヶ湖		

普及啓発事業 教職員森林・林業研修 (A-71)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

学校周辺の自然を観察する方法や、木工の指導方法等について、実習を通じた体験的な研修を行うことにより、理科、総合的な学習の時間、生活科、環境教育等における指導方法の向上を図る。

(新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、実施施設の利用可能人数等から募集人数を絞って開催。森林・林業研修会は、出席予定者全員から欠席の連絡があったことから中止とした。)

2. 活動の成果

教職員の木材への理解や工作スキルが高まるとともに、児童生徒に対して教育する際のポイントが身につくなど、実践力アップが図れた。

3. 参加者の声

- ・職人の知恵をダイレクトに聞くことができ良かった。
- ・森林・林業の入門としても分かりやすかった。
- ・折にふれて木の良さを話すことができるようになりたい。
- ・木の見方をもっと勉強したい。
- ・ものづくりの大変さと楽しさを実感できたので、生徒に話したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年8月3日	令和2年8月6日	計	備考
事業量	・森林・林業・木材の基礎知識講義 ・木工入門講義および実技	※ 計画した森林・林業研修は、出席予定者全員(3名)が欠席のため中止		
参加者数	4名	-	4名	
実施場所	山梨南巨摩郡富士川町最勝寺 山梨県森林総合研究所			

普及啓発事業 子ども樹木博士認定事業（A-72）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

夏休み期間中に県内の2箇所の森林で、小学生とその保護者を対象として、林内を歩きながら講師から樹木の解説を受けた後、樹木の名前テストを実施し、成績に応じて樹木博士の認定書を授与した。
 （新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、実施施設の利用可能人数等から募集人数を絞って開催）

2. 活動の成果

森林の中で、親子が共にふれあひながら樹木の名前を識別できるようになり、自然に親しんでもらうきっかけになった。

3. 参加者の声

- ・いつも通りすぎる木も説明していただいたので、これからは何の木か考えてみたい。
- ・来年もやろうと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年7月24日	令和2年8月2日	計	備考
事業量	6名の小学生に認定書を授与	6名の小学生に認定書を授与		
参加者数	14名（保護者を含む）	11名（保護者を含む）	25名（保護者を含む）	
実施場所	山梨県甲府市山宮町片山 武田の杜 山梨県南都留郡富士河口湖町船津 河口湖フィールドセンター			

普及啓発事業 森の教材「くらしと森林」発刊事業（A-73）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森の重要性、特に森林資源の循環利用や地球温暖化防止に果たす機能等について児童の関心を喚起するとともに、教科書を補てんする観点から林業や木材及び森林と人々の生活の関わり等を理解する冊子を作成配付し、緑化思想の高揚を図る。

2. 活動の成果

多くの学校で社会科の副読本として活用されており、森林・林業についての理解が確実に広まるとともに、平易な解説なため、社会人向けの森林・林業に関する学習用としても好評なことから、あらゆる世代への効果が期待できる。

3. 参加者の声

- ・森林は、いろいろな働きを持っていることがよく理解できた。
- ・森林を守るためにももっと木を使いたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	森の教材「くらしと森林」発行・配布 （4月～8月）	計	備考
事業量	9,600部印刷		
参加者数	県下小学5年生全員に配布	人	
実施場所	県下全域の小学校、図書館等に配布		

普及啓発事業 親子緑の集い (A-74)

ファン事業の概要

1. 活動の概要

加工を伴う木工作や、枝・木の実・樹皮等を組み合わせたクラフト、ロープを使い高木へ登るツリークライミングなど、森林の恵みの豊かさや楽しみ方を体験をとおり、親子でのふれあいながら森林や緑の重要性の理解を深める。

2. 活動の成果

日常生活では味わうことのできない森林や木工体験の場を親子に提供することにより、森林や緑への幅広い意識の醸成が図れた。違う季節に異なるプログラムを行うなど、森林の持つ多彩な魅力を伝える工夫を続けていきたい。

3. 参加者の声

- ・木がすごかった。
- ・やりきったかんがでて楽しかった!最高だった!
- ・上から下を見たらこわかった。木からのけ色がきれいだった。
- ・思った以上にすてきな作品ができて良かった。
- ・子どもも大人も楽しめてうれしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年7月26日	令和2年10月24日 令和2年10月25日	令和2年11月23日	計	備考
事業量	森の散歩と山梨県の木を使った木工	親子でツリークライミング	クリスマスアレンジ作り		
参加者数	親子15組 46人	親子16組 49人	親子17組 45人	親子48組 140人	
実施場所	山梨県甲府市山宮町 武田の杜サービスセンター				

普及啓発事業 緑化ポスター・標語コンクール開催 (A-75)

ファン事業の概要

1. 活動の概要

県土緑化運動の一環として、植樹及び森林・樹木の保護・保育の助長並びに県民の緑化思想の高揚を図るため、青少年等を対象に、緑化ポスター・標語のコンクールを開催し、優秀作品を選定後、秋に開催した山梨県林業まつり記念式典で表彰を行った。

2. 活動の成果

ポスター、標語の応募を通じて、森林や自然に対する関心を深めてもらい、森林環境教育の充実が図られた。

3. 参加者の声

- ・木の大切さを考えながら書いた。
- ・入賞してとてもうれしかった。これからもがんばって書きたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年6月 ～10月	令和2年6月 ～10月	計	備考
事業量	緑化・育樹ポスターコンクール	国土緑化運動・育樹運動標語コンクール		
応募者数	863作品	208作品	1,071作品	
実施場所	山梨県内全小中学校 (標語は、高等学校・一般も含む)			

普及啓発事業 緑の活動発表会（A-76）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内各団体の情報を共有する中で、各団体における今後の緑化活動が発展することを目的として、緑化活動を積極的に行っている団体として各地区から推薦された4団体が、日ごろの緑の少年隊や学校林活動等の状況を発表した。

2. 活動の成果

県内の緑の少年隊など関係団体に記録したDVDを配布したことにより、参加した団体ばかりでなく、特色ある活動内容や実施方法について、広く共有できたことで、今後の団体活動の広がりや充実が期待できる。

3. 参加者の声

- ・緊張したが、日頃の活動内容を多くの人に紹介できてよかった。
- ・他の学校の活動が参考になった。
- ・配布されたDVDは、発表内容がよくわかる内容だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年11月7日	計	備考
事業量	4団体による活動発表		
参加者数	22名（指導者を含む）	22名（指導者を含む）	
実施場所	山梨県甲府市丸の内 恩賜林記念館 大会議室		

普及啓発事業（公財）山梨県緑化推進機構設立30周年記念誌（仮称）作成費（A-77）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

令和2年1月31日、当財団は設立30周年を迎えたことから、これまでの県土緑化推進の歩み等を取りまとめ普及、啓発することで、森林や緑の保全、活用の取り組みなどに対する理解を深めるとともに、こうした取り組みの趣旨や成果を次の世代に繋げる。

2. 活動の成果

作成した記念誌を関係機関や団体、図書館等に配付することにより、これまでの当機構や県、様々な民間団体が実施してきた緑化活動に対する理解が深まるとともに、森・緑・水を守り育てるための今後の活動のさらなる展開が期待できる。

3. 参加者の声

- ・本県の緑化の歩みが興味深い。
- ・今後のどのように緑化を進めていくか参考になる。

実績報告とりまとめ表

実施時期	「(公財) 山梨県緑化推進機構設立30周年記念誌」	計	備考
事業量	400部発行（6月）		
参加者数	関係団体等に配付	人	
実施場所	県、市町村、図書館、関係団体、森林組合等に配付		

緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業（A-78）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑豊かな住み良い郷土づくりを進めるため、森林の重要性等について県民の一層の理解と関心を深めるべく、県内各地区での植・育樹祭、講演会、緑化推進等を実施するとともに、地元林業関係への就業につながるよう高校生向けの体験学習を行った。

また、青少年の森林環境教育を促進するため、郷土の森林と川を題材にした絵本の制作に向け現地を取材調査したほか、みどりの少年団の指導者を対象にしたスキルアップ研修会を開催した。

2. 活動の成果

コロナ禍で当初企画した催しの中止を余儀なくされる中、事業規模の縮小や他事業への変更等により創意工夫して事業を実施し、さらなる健全な森林づくりの機運が高まるとともに、緑豊かな住み良い郷土づくりの推進が図れた。

姫川流域を舞台とした森林と川の絵本の制作に向け、絵本作家とともに現地の取材・調査を重ね、制作に必要な情報収集を行った。令和4年度中の発刊を目指す。幼児・児童の森林環境教育をさらに促進するため、県内全小学校・特別支援学校への寄贈を予定している。

3. 参加者の声

みどりの少年団指導者スキルアップ研修会は、コロナ感染症予防対策を講じた上で開催したが、参加者を少人数にしほり、屋外の高原でグループ討議を行うなど、コロナ禍での野外活動をどのように行うかの実践的研修にもなったとの声をいただいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年7月1日～令和4年2月28日	計
事業量	植・育樹祭等の開催：4地区（4町村） 講演会等の開催：3地区（3市） 環境緑化：1地区（2市町） 環境教育：2地区（7市町村、49箇所） 緑化木の頒布：3地区（13市村） 絵本制作の取材調査：1地区（5市町村） 少年団指導者研修会：1地区（1市）	77箇所
参加者数		2,092人
実施場所	松本市、上田市など 延35市町村	

緑化推進活動促進と活動資材提供事業（A-79）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

樹木を増やすことや守り育てることの理解の深まりと将来の緑化を担うみどりの少年団活動を支援するため、緑化用の苗木の提供やみどりの少年団活動に必要な教材の提供を行い、緑化推進に繋がる活動を行った。

(1) 植木祭り

道の駅で苗木を配布するとともに、公共施設や地域の植樹祭で苗木を植栽した。

また、Webを利用した苗木の配布を実施した。

(2) みどりの少年団活動支援

みどりの少年団の活動を支援するため、活動手帳「桜を観察しよう」を3,600部作成するほか、活動に必要なヘルメットなどを購入し、配布した。

2. 活動の成果

(1) 植木祭り

苗木の配布や植栽を契機に緑を大切にす地域住民の意識が高まったが、イベントの開催については、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらの対応が求められる。

また、苗木の無料配布により、「緑の募金」への協力が繋がった。

(2) みどりの少年団活動支援

少年団活動に必要な冊子や資材を配布し、子どもたちに身近な樹木に対する興味を喚起することが出来たので、今後もテーマに配慮して作成するとともに、安全な活動に配慮していきたい。

3. 参加者の声

(1) 植木祭り

夕森公園は、モミジの名所であるので、これからも植樹活動を続けていきたい。

公民館の周辺に植栽したので、美しくなることが期待される。

(2) みどりの少年団活動支援

桜にもいろいろな種類のあることがわかった。もっと木の種類を知りたくなった。

ヘルメットを配布してもらったので、安全な活動に使いたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年11月～令和3年5月	令和2年10月～令和3年6月	計	備考
事業量	植木祭り 苗木本数1,057本	冊子3,600部 ヘルメット大人用162個 子供用114個		
参加者数	1,040人	3,600人	4,640人	
実施場所	植木祭りは岐阜県大垣市・中津川市・下呂市 少年団は県内全域			

みどりの啓蒙推進事業（A-80）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

○「ぎふ木育WEEK2020」8月の「ぎふの山に親しむ月間」における木の国・山の国県民運動の行事を「ぎふ木育WEEK」と位置づけ、森林を守り育てていくことや木を使うことの大切さについて県民一人ひとりが考え、楽しむ「ぎふ木育WEEK2020」を関係団体と共催した。なお、今回は、新型コロナウイルス感染症対策のため、パネル展示、販売など、展示を中心にして開催するとともに、岐阜新聞にも広告を掲載した。

○「ぎふの木フェスタ2020」子どもから大人まで多くの県民が木に親しむことを目的に、木の良さや木を使うことの大切さを普及啓発するため、関係団体と共催する「ぎふの木フェスタ2020」を計画したが、新型コロナウイルスの影響により中止した。

2. 活動の成果

豊かな自然を背景に、森と木からの学びである「ぎふ木育」を通じて、森や木に親しむ機会を幅広く紹介し、木のおもちゃなどを展示したことにより、木の良さを実感し、木を使うことの大切さや森林づくりの大切さに対する県民の理解が深まった。

また、令和2年7月に開館した「ぎふ木遊館」や「森林総合教育センター（モリノス）」の利用を核に、木育並びに森林環境教育の促進に繋げていきたい。

3. 参加者の声

- ・木のおもちゃは、非常に工夫されおり、赤ちゃんや子どもの興味をひくものだ。
- ・木の手触りやぬくもりが感じられるとともに、安全にも配慮されていると思った。
- ・ぎふ木遊館の利用を楽しみにしている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月2日～10日		計	備考
事業量	ぎふ木育WEEK 2020の開催	ぎふの木フェスタ 2020の開催 (中止)		新型コロナウイルス感染症対策に配慮した。
参加者数	440人	0人	440人	
実施場所	岐阜市 JR岐阜駅 アクティブG			

恵みの森づくり事業（令和2年度分）（C-38）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

恵みの森づくり事業は、人々と森林や樹木とのふれあい機会を創出するとともに、森林や樹木の恵みを得られるよう、地域のシンボルとなる森林や樹木を整備することを目的としている。

白山長滝公園地域活性化協議会は、長滝白山神社や清流長良川あゆパークを核に訪れる人達に憩いの場を提供するべく施設整備等を進めている。

この度、山、里川の清流やあゆをテーマにした学習・体験施設である「清流長良川あゆパーク」にシンボルとなるケヤキを植栽し、利用者に樹木の恵みを体感するなど、利便を図ることとした。

山いささの会は、地域のシンボルである「せせらぎ街道」沿いの伐採跡地が景観を損ねているため、以前から地域住民が中心となって、広葉樹を植栽し、景観向上を図っている。

2. 活動の成果

地域の住民等が主導し、地域活性化の核となる「清流長良川あゆパーク」にシンボルとなるケヤキを植栽することにより、あゆパークを訪れる多くの人々に対して、夏の暑さを和らげるなど、おもてなしにも繋がっている。これからもあゆパークをはじめ、長滝白山神社などの観光資源を活かすとともに、森林が清流を守っていることなどを多くの人たちに示し、理解を深めていく活動を続けていきたい。

山いささの会についても同様に、郡上と飛騨を結び多くの観光客が利用する「せせらぎ街道」沿いの森林の景観を守るため、地域住民主導により活動を続けたい。

3. 参加者の声

- ・清流長良川は、森林が守り育てていることがわかった。
- ・あゆパークの中に樹木を植栽することは、夏の暑さを和らげる効果がある。
- ・自分たちが植えた木の成長を見ることができ、樹木に対して愛着がわいてきた。
- ・地域の人たちが力をあわせて行う活動であるので、連帯感や達成感が得られた。
- ・新型コロナウイルスの影響で、多くの人たちが参加できなかったのは残念であった。
- ・「せせらぎ街道」が美しくなっていくのが楽しみだ。

実績報告とりまとめ表

恵みの森づくり 実施時期	あゆパーク 2020年12月	せせらぎ街道 2021年4月	計	備考
事業量	ケヤキの植栽 成木2本	広葉樹の植栽 150本 面積：0.5haの内	成木2本 苗木150本	
参加者数	10人	15人	25人	
実施場所	岐阜県郡上市白鳥町長滝「清流長良川あゆパーク」、 郡上市八幡町初納地内			

森づくり県民大作戦支援事業（A-81）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ① 森づくりグループとの連携による参加拡大
「森づくり県民大作戦」の参加者を拡大するため、参加を呼び掛けるチラシを作成し、森づくりグループなどに送付するとともに、コンビニなどに配架した。
- ② 県との連携による参加拡大
県と連携し、県内各地で、森林・里山の大切さを知る「森づくり県民大作戦」を公募して5回開催した。
- ③ 森づくりへの参加層の拡大
自然ふれあい保育の機運を醸成するため、実践者による意見交換会を開催し、自然ふれあい保育の魅力を伝えるリーフレットとホームページを作成した。

2. 活動の成果

森づくり活動への参加拡大は、コロナ禍であったが、それぞれが感染症対策を実施した上で、多くの行事を開催することができ、参加した県民は森林に触れ、楽しみながら、森林の大切さを学べた。今後も、静岡県が目指す「県民総参加による持続的で魅力的な森づくり活動」に向け、森づくりグループ、県と連携し、県民参加の森づくり活動を推進する。

幼児期における森林体験の拡大として、県内で取り組まれている自然ふれあい保育の事例、メッセージを取りまとめた。引き続き、地域とのコラボや身近でできる自然ふれあい保育を促進する。

3. 参加者の声

- ・参加者からは、「日頃体験できないような豊かな自然をみて触れることができた」「とても楽しかった、またやってほしい」などの感想を聞くことができた。
- ・スタッフからは、「子どもだけでなく、大人も熱心に取り組む様子をみることもできた」などの感想を聞くことができた。
- ・自然ふれあい保育の意見交換会では、自然ふれあい保育は「自然を知らなくていい、知らないからいい」などのヒントが語られた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月1日～5月31日	9月15日～12月15日	その他	計	自然ふれあい 保育意見交換会
事業量	144行事	279行事 (5行事)	128行事	551行事 (5行事)	1回 1,000部
参加者数	1,711人	4,168人	1,671人	7,550人	6人
実施場所	静岡県内 各地				静岡市

緑の少年団交流集会開催事業（C-39）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団交流集会の開催は、コロナ禍における新たな開催方法を調査し、11月と2月の2回、日帰りで開催した。

「森林空間利用先進事例集（増補版）」の作成は、2年前に作成した「森林空間利用先進事例集」で取り上げた団体が、コロナ禍とどう向き合っているのかを追加調査し増補版を作成した。

森林ESDプログラムのプロトタイプの開発は、「森林ESDセミナー」で示された「各教科・単元等に合わせた地域の実情に合わせた『プログラム開発』」のため、開発チームを結成し検討を開始した。

2. 活動の成果

緑の少年団交流集会の開催は、新たな交流集会の開催方法を確立できた。今年度は、開催を1回増やし、夏、秋、冬の森林を体感するプログラムを実施する。

「森林空間利用先進事例集（増補版）」の作成により、多くの団体が工夫を凝らしながら、活動を継続させていることが分かった。こうした情報を、冊子配布、ネット発信により、他の団体などに啓発する。

森林ESDプログラムのプロトタイプの開発は、県内の各地域の実践者などによる開発チームの結成と検討により、第一歩を踏み出した。プログラム開発、実施体制づくりなどに引き続き取り組む。

3. 参加者の声

- ・交流集会では、仲間の働きぶりを称えあった感動的な場面もあり、交流の重要性を再認識した。
- ・引率者として保護者も参加したことから、団員が積極的に自然に触れ合う行動に接したことにより、少年団の活動に理解を示した。
- ・日帰りだったことにより小学校低学年も参加したことから、将来の団員増加につながる。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R2.4～7	R2.11	R3.2	R3.1～5	R3.1～5
事業量	交流集会開催方法 調査	交流集会（秋）	交流集会（冬）	森林空間先進 事例集 (500冊)	森林ESDプログラム 検討会 3回
参加者数	-	29人	63人	41団体	38人
実施場所	富士宮市	富士宮市	静岡市	全国	浜松市

普及啓発 みどりに親しむ集い事業（A-82）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域の住民各層が自然と触れ合い、みどりに親しむと同時に森林整備作業や間伐材の木工教室などを体験することを通し、森林や緑の大切さを理解し、緑化意識の高揚を図った。

2. 活動の成果

森林整備を進めることにより、荒れた森林に光と風が入り多様な生物が住みやすい環境に移り変わっていく様子が体感できた。また、木工教室など他のイベントを含め、700人を超える参加者があり、森林整備・緑化推進の意識が高まった。

3. 参加者の声

- ・毎回、来るのが楽しみです。
- ・疲れました。でも明日から頑張れる。
- ・自然素材から、こんなに色々なものができた。
- ・林道の整備、大変でした。
- ・手作りの遊び場ができ、感動した。
- ・竹製の鉢、パンジーがよく似合う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年8月～12月		計	備考
事業量	①里山ルネサンス	②みどりのまちづくりグループ		
		遊歩道整備体験 あそび場作り体験 木つかい体験 森林作り体験	リース作り イス作り 竹間伐 秋の里山フェアー他イベントに参加	
参加者数	200人	554人	754人	
実施場所	春日井市都市緑化植物園、他民有地			

みどりフェスティバル21春事業（A-83）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然や緑とふれあい親しみながら、森林・木材の大切さを理解するため「みどりフェスティバル21春」を開催した。身近な自然を感じる缶バッジの作成や、家庭の緑化を推進するためブルーベリーや果樹の苗木を200本配布し、一番身近な家庭の緑化を進めた。

今回は新型コロナウイルス感染症対策のため、対策を講じての実施でしたが、特に問題もなく実施できた。

講堂では、令和2年度の緑化ポスター原画コンクールの入賞作品の展示もおこなった。

2. 活動の成果

みどりフェスティバル21春のイベントに多くの方が参加したことにより、各々が緑化の大切さを理解ができ、地域緑化の推進にも繋がった。

自然や緑とのふれあい、家庭での緑化へと貴重な体験となっている。

今後とも、フェスティバルの継続が望まれる。このフェスティバルを、未来に繋げるイベントとしていきたい。

フェスティバル全体を通し、緑化意識の高揚、緑化の推進を図った。

3. 参加者の声

昨年、中止だったので心配していた。

果樹の苗木を楽しみにしていた。早速、植えたい。

缶バッジの作り方に驚いた。

世界に一つしかない缶バッジだ！

久しぶりに、家族が外で楽しめた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月3日～5日	計	備考
事業量	みどりフェスティバル21春事業		
参加者数	66,500人	66,500人	
実施場所	愛知県豊田市西中山町		

苗木の育成と配布事業（A-84）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑化に対する意識の高揚を図り、みどり豊かで快適な環境づくりを推進するため昭和23年から愛知県植樹祭を毎年開催している。植樹祭では参加記念として緑化木を配布している。その配布用緑化木を小学生が前年度に挿し木（アジサイ）をし、育てる。育った苗木を植樹祭開催時に記念樹として参加者に配布する。

2. 活動の成果

小学生児童が挿し木を体験することにより、緑の大切さを感じ、知ることができた。また、緑が将来に繋がる活動にもなった。植樹祭で多くの方が苗木を持ち帰り、身近（家庭）な緑化の推進に繋げることができた。

3. 参加者の声

初めて挿し木をした。

挿し木をしたアジサイが咲くのがたのしみです。

アジサイとアベリアと2本いただいた。早速植えたい。

私が挿し木をしたアジサイが配られる。感動します。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月（4回）	5月29日	計	備考
事業量	挿し木 （4校）	愛知県植樹祭		
参加者数	451人	400人	851人	
実施場所	挿し木（一宮市他2市）	愛知県植樹祭（一宮市）		

記念誌発行配布事業（A-841）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

愛知県緑化推進委員会が今年で70周年を迎えるにあたり、愛知県の緑化推進の歴史と緑化運動の取組を一冊にまとめ、次世代にその成果を継承する。

記念誌を作成し、関係機関に配布するため、300部を作成する。

2. 活動の成果

愛知県として緑化の推進、歴史について、まとめた資料もない現状から、今回一冊にまとめたことは今後の緑化行政に非常に参考になる。

後世に引き継ぐことが、各々の緑化意識の高揚になるとともに、緑化の推進を図った。

3. 参加者の声

非常に参考になる。

まとまった資料がほしかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月8日	計	備考
事業量	300部	300部	「あいちの緑化運動 70年のあゆみ」
参加者数	—	—	
実施場所	県内		

調査研究 ふるさと樹木診断事業（B-2）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

古くから地域の人達に愛され親しまれてきた巨樹・名木等（ふるさと樹木）を県民の財産として守り育て後世に引き継ぐために、その樹勢等を診断し、保護・保存のための基礎データを収集した。

樹勢診断は、市町村条例等で指定されている樹木、又は地域のシンボリックな樹木のうちから市町村の要望に基づいて47本の診断樹木を選定し、一般社団法人日本樹木医会愛知県支部に委託し実施した。

診断終了後、報告書を関係市町村、所有者に戻し、今後の樹木の手当に役立っている。

2. 活動の成果

ふるさと樹木を保護・保存する基礎データを収集することにより、後世まで、大切な「ふるさと樹木」を引き継ぐ方法を検討するのが容易になる。また、診断結果から手当に結びつくこともあり、貴重な事業として評価を受けている。

緑化意識の高揚、地域緑化の推進に大いにつながっている。また、地域からの要望も非常に高く、今後も続けて実施する予定でいる。

平成6年からのデータの蓄積（約1,300本）もあり、保護・保全に役立っている。過去のデータをまとめ、情報の共有を計画している。

3. 参加者の声

- ・事業を今後も続けてほしい。診断本数を増やしてほしい。
- ・名木（シンボル）が保存され、地域住民の緑化の高揚にも繋がった。
- ・過去のデータをとりまとめて、誰でも見えるようにしてほしい。
- ・名木の冊子を作ってはどうか。
- ・診断のおさえどころ（ツボ）を教えてください。

実績報告とりまとめ表

実施時期 (委託)	委託期間 令和2年7月20日～令和3年1月20日	委託完了 令和3年1月20日
事業量	樹木診断本数	47本
実施場所	愛知県内	19市町

活動基盤整備 森林ボランティア養成事業（C-40）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

所有している山林をどのように管理したらよいかのノウハウや、森林観察活動のリーダーの育成を図った。

また、小学生に対し森林環境学習や間伐材を利用した木工工作を行い、森林環境整備や森林活性化のリーダーとしての育成を図った。

2. 活動の成果

楽しい山づくり講座では、山の機能について学び、山の管理に関心をもたせることができた。森林観察リーダー入門講座では、参加者に次代のリーダー候補を育成することができている。間伐ボランティア初級事業では、人工林と天然林の違いや、森林の公益的機能等を現場観察を通し学び、間伐の必要性の理解に繋がった。

また、将来を担う子ども達に、木工工作や森林作業を通じ、木に親しみを抱き、森林環境や育林に興味を持つ子どもも現れ、将来に期待をもてた。また、森林の重要性を認識した子どもたちを多く見る事ができた。

3. 参加者の声

- ・覚えること、勉強することが一杯だ。
- ・山仕事の爽快感
- ・掃除（処理）後の爽快感
- ・安全教育の大切さをしることができた。
- ・自然の仕組みがおもしろい

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年7月～令和3年3月		計	備考
	①豊田市	②森林真剣隊		
事業量	森林観察リーダー入門講座 楽しい山づくり入門講座 間伐ボランティア初級講座	初級活動、環境整備 森林真剣隊活動 木工工作		
参加者数	12回 194人	9回 109人	21回 303人	
実施場所	豊田市有林、民有地他			

県民参加の森林づくり運動推進（巨樹・古木見学会、クマノザクラ観察会）（A-85）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

一般県民に森や木とのふれあいを通して森林や樹木への理解を深めてもらう目的で、令和2年11月21日（土）に、伊賀地域の巨樹・古木をバスで巡る見学会を実施した。

また、令和3年3月14日（日）には、新種の野生サクラとしては約百年ぶりに発見されたクマノザクラの観察会を熊野市紀和町で実施した。

いずれも、日本樹木医学会三重県支部の案内で、新型コロナウイルスの感染を防止する観点から参加人数を制限するなど対策を講じながら実施した。

2. 活動の成果

地域にある巨樹・古木や地域固有の樹木を知ってもらうことを通して、森林の良さや樹木保護の大切さを認識してもらうことができた。

募集人数を大きく上回る多数の応募があり、また参加者からも好評をいただき、引き続き実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・クマノザクラが鑑賞木として普及することの可能性を感じた。
- ・参加を楽しみにしていたので当選して良かった。勝木先生の講演もあり、期待したとおりであった。
- ・クマノザクラの苗木を家で育てるのが楽しみだ。（苗木購入者）
- ・古木の姿から元気をもらった。
- ・このようなイベントがあればこれからも参加したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月21日	3月14日	計	備考
事業量	巨樹・古木見学会 1回	クマノザクラ 観察会1回		
参加者数	19人	28人	47人	
実施場所	三重県伊賀地域他 三重県熊野市紀和町内			

森林イベント参加（A-86）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林や緑に対する県民の理解を深めるため、令和2年12月13日（日）に四日市市で開催された「じどうかんまつり」において、森林教室「シイタケ菌打ち体験」と併せて家庭で育ててもらうための苗木（ブルーベリー50本、オリーブ50本、クレマチス50本）の無償配布を行った。

2. 活動の成果

「じどうかんまつり」では、「森林教室」以外にもさまざまな体験イベントが催され多くの親子が参加しており、その参加者に苗木を配布することで、家庭での緑化活動を促し、樹木や森林への理解を深めることができた。

いろいろな組織や活動と連携しながら、県民の森林や緑の理解を深めるために取組を進めていきたい。

3. 参加者の声

- ・実がなるのが楽しみ。
- ・大切に育てたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月23日	計	備考
事業量	苗木配布150本		
参加者数	150人	150人	
実施場所	三重県四日市市三浜文化会館		

森林ボランティア活動促進（A-87）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

(1) 概ね20名以上の県民が参加する森林環境教育等のイベントを実施する森林ボランティア8団体に対して10万円を限度とする助成を行った。

- ①「グリーンボランティア「森林づくり三重」」は、緑の少年隊など子どもたちを対象とした木工工作体験を実施した。
- ②「認定NPO法人森の風」は、一般県民を対象に、団体が伐採した間伐材等を活用したイスづくりや薪割り体験を実施した。
- ③「鈴鹿市大久保町自治会」は、自治会管理の活動フィールドで地域住民の参加を得て下刈りなど森林整備を実施した。
- ④「竹林整備隊」は、「みえ子ども森の学びサミット」で実施する予定の体験教室の資材を準備した。(イベントは新型コロナウイルスの影響で急遽中止となった)
- ⑤「穂積製材所プロジェクト」は、子どもたちなどを対象に、森林学習や木工工作など年間を通じて実施した。
- ⑥「大山田大日つあんクラブ」は、県民に呼びかけ、地域の景観の向上を目的とした植樹祭を開催した。
- ⑦「新居地区住民自治協議会」は、県民に呼びかけ、登山道周辺の草刈やサクラの手入れを実施した。
- ⑧「森の風学舎」では、卒園、在園の子どもや家族が参加し、園庭の植樹活動を実施した。

(2) 森林ボランティア団体の活動の活性化を目指すため、令和2年10月31日(土)森林ボランティア交流研修会を開催した。

2. 活動の成果

森林ボランティア団体の活動に支援することで、県内各地で一般参加を得て森林関係イベントが開催され、森林活動の大切さ、森と触れ合うことの楽しさ等の普及啓発を図ることができた。

また、研修交流会を通じて情報交換や技術向上を図ることで、ボランティアの今後の活動の活性化につなげることができた。

3. 参加者の声

各団体が実施するイベントの参加者からは好評をいただいているとのことで、活動基盤の弱い団体にとっては、当助成によって活動が広がり子どもたちに森林環境教育の機会を提供することができるため、事業継続を求める声が寄せられている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～2月	10月31日	計	備考
事業量	助成団体8団体	交流研修会1回		
参加者数	493人	20人	513人	
実施場所	三重県内一円(活動助成) 三重県津市白山町、美杉町地内(研修交流会)			

緑の少年隊活動推進（A-88）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年隊の活動の活性化を図るため、県内の6隊にそれぞれ3万円の活動助成を行い、活動に必要な装備品の充実や動植物観察や木工等の体験学習や、野外学習の費用などを支援した。

なお、当初計画していた交流集会については、新型コロナウイルスの感染防止のため中止し、各隊にバードコールキットを配布し、各隊・隊員ごとに木工体験を楽しんでもらった。

2. 活動の成果

子どもたちが楽しみにしている交流集会は実施できなかったが、代わりに配布したバードコールキットの体験は、指導者や隊員から「満足そうな様子だった」とか「楽しかった」「木のいい匂いがした」という感想をいただいた。また、各隊の施設利用や装備品を支援することで、各隊の活動の幅を広げることができた。

交流集会の開催も含め、緑の少年隊の活性化に向けて活動を継続していきたい。

3. 参加者の声

- ・バードコールは、紙やすりでこすったり、くるみを割ったりするのが初めての子が多く楽しんで製作することができた。
- ・楽しく作れて音をいろいろならせるのが楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～2月	3月	計	備考
事業量	活動支援6隊	木工体験キット 配布(指導者含)		
参加者数	80人	100人	180人	延人数
実施場所	三重県内一円			

森林教室開催（A-89）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

令和2年12月13日（日）に開催された四日市市「じどうかんまつり」で「シイタケ菌打ち体験」を実施した。

令和3年2月20日（土）に、児童館関係者からの好評の声に応え、塩浜児童館で2回目の「シイタケ菌打ち体験」を実施した。

また、12月の「みえ子ども森の学びサミット」で実施を予定していた「カホンづくり体験」については、新型コロナウイルスの影響でイベントが中止となったため、計画を変更し令和3年1月5日（火）に津市高田短期大学で学生を対象に実施した。

2. 活動の成果

子どもたちや将来幼児教育に携わる学生が、森林教育指導者「森のせんせい」の指導により、体験と併せて森林や木材、きのこの話を聞くことを通して、森林や樹木に対する理解や関心を深めることができた。

3. 参加者の声

- ・シイタケができるまで時間がかかること、大変なことが分かった。
- ・原木の管理の仕方を教えてもらったので大切に育てたい。
- ・初めて釘を打ったけどうまくできた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月13日	2月20日	1月5日	合計
事業量	シイタケ原木菌打ち体験 1回	シイタケ原木菌打ち体験 1回	カホンづくり体験	
参加者数	140人	90人	20人	250人
実施場所	三重県四日市市三浜文化会館（シイタケ菌打ち体験第1回） 三重県四日市市塩浜児童館（シイタケ菌打ち体験第2回） 三重県津市高田短期大学（カホンづくり体験）			

海・山連携植樹活動実施（A-90）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山村地域と漁村地域の相互理解を深め、森林づくりについて自発的な協力関係が築くことを目的に三重県漁業協同組合連合会に対して漁業者が行う植樹活動の助成を行った。

新型コロナウイルスの影響もあり、今回は植樹を希望する三重外湾漁協に対し苗木を配布し、植樹活動は令和3年3月20日（土）に実施された。

2. 活動の成果

新型コロナウイルスの影響がある中で、小規模ではあるが漁業関係者による植樹活動が実施され、漁業関係者に森林が川や海にもさまざまな恩恵をもたらしていることの理解が深まっていることが感じられる。

主催団体からは、引き続き植樹活動を続けていきたいとの声を聴いている。

3. 参加者の声

- ・雨模様で大変だったけどこれからの成長が楽しみだ。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月23日	計	備考
事業量	植樹活動 ヒノキ苗木55本		
参加者数	6人	6人	
実施場所	三重県度会郡南伊勢町神原地区		

緑の少年団育成事業（C-41）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団51団、4,031人の日常の活動を支援するとともに指導者研修会や交流会等を実施し、緑の学習や実践的な活動等の促進を図ることが出来た。

2. 活動の成果

緑の少年団への育成強化活動支援により、緑を愛する心豊かな人間に育っていくことが期待出来る活動となった。

また、こども水源の森サミットの開催により、団員間の交流や団結・協力が図られ、互いに緑化意識を高めることが出来た。

とりわけ平成26年度より、滋賀森林インストラクター会の協力を得て緑の少年団サポーター制度を設け、当インストラクター会の指導のもと県内を4ブロックに分けて行っている指導者研修会を令和2年度は計8回開催し、またそのフォローアップとして7回にわたり個別指導を実施したことによって、各団指導者の緑化に対する意識の高揚と資質の向上を図ることができた。

今後は、さらに当制度の充実を図り、より一層指導者の育成と少年団活動を推進していきたい。

3. 参加者の声

森づくり・緑づくりの重要性を十分に理解することができ、それらを支える緑の募金の啓発活動をより一層積極的に進めていく必要があることを実感する声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	通 年	7月～9月	11月22日	計	備 考
事業量	個々の緑の少年団の一年間の様々な活動に対して支援	指導者研修会 8回	こども水源の森サミット		
参加者数	4,031人	65人	169人	4,265人	
実施場所	県下一円	びわこ地球市民の森(守山市)他7箇所	みなくち子どもの森ほか(甲賀市)		

自然環境保全団体ネットワーク事業（A-92）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

大阪府内の自然環境保全活動を実施している団体の、活動を維持・発展させることを目的に、大阪里山ネットワークを立上げ、府民へ森林保全に関する情報を提供した。

ホームページ公開

サイト名：大阪里山ネットワーク

URL：https://www.ogtrust.jp/satoyama/index.html

公開日：2021年5月18日（火）

登録団体数：22団体（2021年8月31日現在）

2. 活動の成果

インターネットサイトを公開したことにより、大阪府内で活動している里山保全団体の情報を集約し、情報発信力を高め、活動への理解者と参加者の拡大に繋げることができた。今後も未登録の団体に参加を呼びかけ、登録団体を増やしていく。

また、自然環境保全活動に興味のある府民に対しての情報発信を強化していく。

3. 参加者の声

- ・団体に新しい方が入ってきていないため、情報発信をしていただけるのは有難い。
- ・紹介ページを確認したが、わかりやすくて良い。

実績報告とりまとめ表

実施時期	通年	計	備考
事業量	ホームページ公開		
参加者数	395名 延べ649回	395名 延べ649回	2021年8月31日現在
実施場所	主に大阪府内、WEB上		

府民参加の森林づくりのための普及啓発（A-93）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの府民が森林・みどり・水、あるいは、そこに培われる多様な生き物を身近に感じ、森林と生物多様性の重要性について理解を深めるため、情報発信を行うとともにイベントを開催した。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、多くのイベント等は中止または規模を縮小して実施した。

- ①.和泉葛城山ブナ林シンポジウム・ハイキング（中止）
- ②.三草山ゼフィロスの森 エア観察会（6月21日 SNS視聴回数計588回）
- ③.タガメの田づくり 稲刈りイベント（9月20日 参加者29名）
- ④.地黄湿地サギソウ観察会（7月19日 参加者14名）
- ⑤.地黄湿地 湿地の水環境の改善（3月）

各イベントを開催するため、年間を通じてボランティア保険に加盟した。また草刈りなどの保全活動のほか動植物調査を行った。イベント告知には会報誌「みどりのトラスト」を活用した。

2. 活動の成果

大阪府内での貴重な自然環境、それを保全管理する必要性について、理解者が増えた。

今後も引き続き様々な手段を講じ、理解者を増やす。

3. 参加者の声

- ・今年は直接ゼフィロスを見ることができず、残念に思っていたが、動画で見られて良かった。
- ・毎年参加しているが、コロナでも稲刈りができて良かった。
- ・サギソウが見られずに残念だったが、ボランティア活動で湿地が維持できていることが分かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	通年	計	備考
事業量	普及啓発やイベント		
参加者数	のべ43人 視聴588回	のべ43人 視聴588回	
実施場所	大阪府内 大阪市、豊能郡能勢町ほか。及びWEB上		

森林整備・緑化活動支援事業（C-42）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

(1) 出前講座の実施

森林活動をサポートするため、緑の少年団に森林インストラクターを派遣し、講義（森の大切さ等）、自然観察会、森林整備体験、ネイチャーゲームを実施した。

(2) 緑の少年団地域活動の支援（各少年団活動の支援）

兵庫県内の地区連絡協議会に地区活動費及び少年団活動費を助成した。

(3) 冊子の配布

予定していた「緑の少年団指導者研修会」、「緑の少年団のつどい」が新型コロナウイルスの影響により1年延期となったため、冊子（みどりの手帳（国土緑化推進機構発行））を配布した。

2. 活動の成果

(1) 出前講座を実施することで、知識・経験不足等で森林体験がしづらかった少年団において、森林活動を行うことができた。少年団と派遣した森林インストラクターとの繋がりができ、来年度以降の活動に繋げることができている。

(2) 新型コロナウイルスの影響で、各地区で複数の少年団が集まる行事は実施できなかったが、各少年団での活動を支援し、コロナ禍においても安全対策を講じながら活動を続けることができた。

(3) 「みどりの手帳」を配布することで、子どもたちの森林に対する知識を深めることができた。

3. 参加者の声

森林に精通した森林インストラクターの指導を受けることで、森と人との関係性を知り、自分たちの活動の意義を理解することができた。

現代の山や森が抱える問題を知ることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月7日	7月～2月	計	備考
事業量	出前講座	各地区での活動		
参加者数	26人	11,715人	11,741人	
実施場所	兵庫県三田市	兵庫県内各地		

森の文化活動事業（A-96）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・「奈良県山の日・川の日」イベント出展（R2.10.18）
夏休み初旬に予定されていた「森林体験山もり・てんこ森」イベントは、新型コロナウイルス感染症対策を充分に行ったうえで10月18日に県森林技術センターで開催された。当協会は花苗等の配布を支援し、普及啓発を行った。
- ・「第13回大和路花と緑のフェスティバル」「第30回奈良技能フェスティバル」出展準備
奈良県内で行われるイベントに参加し、緑化啓発PR展や緑化啓発パネルを使ったクイズと球根を配布し、緑化普及啓発を行う予定であったが、主催者側の判断により中止となった。
- ・「緑化啓発PR展」
令和2年春期に行う予定であった緑化作品等の展示は、新型コロナウイルス拡散防止のため会場が閉鎖になるなど、予定していた活動はほぼ中止となった。新型コロナウイルス感染症が落ち着いた秋期より、展示場所を変えて緑化啓発PR展を順次行った。また、令和3年春期には、緑化啓発の一環として緑化作品コンクール入賞作品の展示やパネル展示、花苗や球根の配布などを行ったが、新型コロナウイルス感染症対策のため、従来のような広報は行わず、来場者数の制限に努めた。
その他、年間を通じて花苗のプランターの設置を推進し、街の景観保全につとめた。

2. 活動の成果

イベントを通して様々な地域や年齢層の県民に、緑化普及啓発を行うことができた。
新型コロナウイルス感染症対策のため、様々なイベントが縮小や中止を余儀なくされたが、対策を講じて取り組んだことへの評価は得られた。また反対に、対策を講じても同列のイベントが中止されればこちらも中止とせざるを得ない場合もあり、多様な対応が今後の課題である。

3. 参加者の声

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、夏休みもあまり遊びに行けなかったが、野外でのびのびしている子供たちを見られて嬉しいです。
- ・きれいな花をいただけで嬉しい。新型コロナウイルス感染症が心配で参加をためらっていたが、タイミングもよく、ほかのイベントが自粛や中止する中、やっていただけて感謝しています。
- ・森林の機能やあり方など、現在の環境について、もっと勉強したいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月 日	月 日	計	備 考
事業量	10/1～10/22			
	10/23～10/27	10月18日		
	12/11～12/25	12月19日		
	4/6～4/11	5/1～5/5		
	4/19～4/27			
参加者数	750人	1,350人	2,100人	
実施場所	奈良県奈良市、橿原市、宇陀市			

ボランティア緑化活動事業（C-43）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内各地で活動する森林ボランティアの連携と活動の充実を目的とし、技術向上と事故防止への意識向上を図った。各団体への助成事業等の情報提供など、ボランティア活動の推進につながるものを紹介し、助成事業や物品提供の案内を行った。また、事業の紹介やイベントへの案内、対応など事務的な支援を行った。新型コロナウイルス感染症対策として各団体へ情報提供し、事務運用の効率化を図るため当協会の物品を提供する等通信関係の改善を図った。

2. 活動の成果

各地で活動するボランティア団体が互いに連携して地域内での情報交換を行い、今後の活動につながる信頼関係を構築した。
新型コロナウイルス感染症対策のため、活動を自粛や縮小した団体が多くあり、活動再開や通常活動に戻す判断が難しかった。
また、安全を喚起するとともに技術の更なる向上に向け情報発信した。今後も情報発信や事務運用の効率化を図っていきたい。

3. 参加者の声

- ・いろいろな助成事業や苗木提供の情報等いただいて、活動に役立っています。新型コロナウイルス感染症対策にも対応できて良かったです。
- ・会員からイベントの開催要望もあったが、ボランティアとしてどうあるべきかを話し合ったりして苦慮した。他団体の情報や連絡をもらえてありがたかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月 日	月 日	計	備 考
事業量				
参加者数	750人	1,350人	2,100人	
実施場所	奈良県奈良市、橿原市、宇陀市			

青少年を対象とする森林ESDの推進など森林環境教育の促進事業（A-97）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林や緑の公益的機能の重要性や、再生可能な循環資源である木材の需要拡大が地球温暖化防止等に果たす役割等については、継続して広く県民に普及啓発して行くことが重要であり、本会としては特に青少年に対する普及啓発活動を重点的に実施するとともに、県民総参加の森林整備活動、緑化運動を促進する。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年実施している県内のみどりの少年団代表が集まっての交流集会在実施できなかったため、県内各地の少年団が「緑を愛し、緑を守り・育てる心を養う」ことを目的に行う学校及び周辺の緑化や自然学習活動に対し支援を行った。

2. 活動の成果

- ・みどりの少年団団員に森林・林業に関する普及啓発活動、緑化及び環境貢献活動の重要性を学んでもらうことができた。

3. 参加者の声

- ・樹木の特徴がわかり勉強になった。
- ・木工は難しかったけど、完成した時はとてもうれしかった。
- ・学校周辺や地域の保全活動に参加し、環境貢献活動の大切さがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年7月1日～令和3年5月31日	備考
事業量	〈主な取組〉 ・校内の緑化活動 ・木工体験 ・松林保全（清掃）活動 ・クマノザクラの保護・周知活動	
参加者数	34団	
実施場所	各みどりの少年団の活動エリア	

森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援事業（C-44）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

和歌山県は「紀州木の国」と呼ばれるように豊かな森林に覆われているが、近年は人と森林との接点が少なくなり、放置された森林が増加し、そのまま放置すれば森林の荒廃が広がる可能性があります。これらの問題に対処するためには、行政だけでなく森林ボランティア団体等の活動が重要であり、和歌山県森林インストラクター会と共催で、森林ボランティアリーダーの養成や既存の森林ボランティア団体の連携強化に取り組みました。

具体的には、「森づくり塾」を開催し、1年間を通じて座学と現地実習により、森林の現状と様々な問題点・里山の問題・獣害対策等に関する知識や、人工林間伐作業やチェーンソーの使い方・竹林整備方法・苗木の植栽・照葉樹林監察など、森づくり活動に必要な技術講習を行い、森林ボランティアの中核的担い手を育成し、健全な森林の再生を目指した。

2. 活動の成果

一年間を通じて座学・現地実習を毎月1回実施し、自然・森林・林業について見解を深めてもらう事が出来た。また、毎年新規募集を行い確実にボランティアに参加する人数が増えている。今後は、行政等からの支援による森林整備事業などを紹介し、森林ボランティア活動への誘導を促す。

3. 参加者の声

講習会では「森林、特用林産物、動植物、森に住む生物など、多方面の先生の話しが聞けてとても勉強になった。」、実習では「実際に山で活動して体験することで、山の知識や林業の現状など、身をもって学べた」等の意見があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和元年7月～令和2年6月（毎月、座学1回・現地実習1回）	備考
事業内容	1.座学 森林とはどんな空間か・木材の特徴と魅力・竹の種類と性質・竹林の整備・人のくらしと森林の関わり・森林の危険な生き物と怪我への対処・和歌山県の自然植生について・様々な樹木の生育特性と自然配植技術・和歌山県の特用林産物・日本の林業と和歌山県の林業 2.実習 竹林整備（ノコギリ・ナタの使い方）・人工林整備（チェーンソーの使い方と人工林間伐作業）・苗木の植栽・竹炭づくり・山菜料理・里山の観察・土壌動物・里山整備（竹炭窯出し）・照葉樹林の森林観察・ブナ林の観察・紀州備長炭生産と原木林観察	
参加者数	延べ410人	
実施場所	座学:和歌山市中央コミュニティセンター 実習:和歌山県紀美野町・岩出市・日高川町・田辺市・みなべ町・すさみ町	

活動基盤整備事業「樹名板設置事業」(A-98)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域住民や児童などが樹木に親しみ、樹木を大切にすることを養うことのできる環境を整備するため、公園や学校などの公的な場所の樹木に樹名板を設置する団体等に対し、県産材を活用して製作した樹名板を交付する。

2. 活動の成果

公園などの公的な場所の樹木に、県産材による樹名板を設置することで、地元住民や子どもたちに、県産木材の用途の普及や樹木の名前を覚えてもらうことで、樹木に親しみ自然を大切にすることを養うことができた。

3. 参加者の声

- ・学校等の校地内の樹木に樹名板を設置したことで、子ども達が樹木に興味を持ち始め、学習にも活用しています。
- ・公園や公的施設、登山ルートに設置したことで、利用者に高評価をいただきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	計	備考
事業量	18箇所 271枚	
参加者数		
実施場所	鳥取県内 7市町村	

活動基盤整備事業「木工工作キット配布事業」(A-99)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県産材を使用した木工工作キット、杉板を配布し、小・中学校の児童・生徒に木材に触れ親しむ機会を作り、木材の良さの普及と木材需要の拡大を図る。

2. 活動の成果

鳥取県産の杉板、木材キットを使用することで、木に触れることにより、木の持つ独特の柔らかさ、温かさ、加工のしやすさや組立ての難しさ等感じることができた。

3. 参加者の声

- ・本棚を作るときに木について、木の面が縦と横では切りにくさがあり、よく削れるところやあまり削れないところがありました。
- ・木の目にそって紙やすりでこすった後、さわってみるとつるつるでした。反対にそわないでこするとざらざらだったのでびっくりしました。
- ・かなづちでくぎを打つところが難しかったけど楽しかったです。本立てなど作ったことがなかったので、うまく本立てが作れてよかったです。
- ・友達と協力して釘打ちをすることができたので楽しかった。
- ・金づちなどあまり使ったことがなかったので、作ることが楽しかった。
- ・とても組立てやすく、くぎを打つだけで簡単に作ることができました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	計	備考
事業量	933組	
参加者数	人	
実施場所	鳥取県内 23小・中学校	

活動基盤整備事業「青少年・民間活動グループ育成事業」(C-45)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

木材の良さを多くの子ども達に知ってもらう活動を通じ、森林整備の重要性を認識してもらうことを目的とする。

2. 活動の成果

民間の任意団体等が自主的な緑化活動等を実施することにより、森林や環境への認識の度合いがより強くなり、また中核となる森林ボランティア育成にも繋がり、周りへの影響力も大きなものとなった。

木材の良さを子ども達に体験してもらい、木材需要・森林整備・緑化推進の意識が高まった。

3. 参加者の声

- ・設計図とパーツに記号も書いてあると、分かりやすいと思います。
- ・子どもは指を金づちでたたいてしまい、テンションが下がっていましたが、とてもいい経験だったと思います。
- ・道具の使い方まで丁寧に教えていただきました。ありがとうございました。
- ・また、参加したいです。
- ・机とイスを作りました。来年も同じものを作りたいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月2日	備考
事業内容	親子木工教室の開催 A. 机 B. イス C. マガジンラック D. 何でもBOX E. 道具箱	
参加者数	19人	
実施場所	鳥取県大山町	

緑の少年団育成強化事業（C-47）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団の育成や少年団相互の親善と交流活動を促進するため、指導者講習会・活動発表大会・交流集会・森林林業体験活動等を通じ森林環境教育を推進し、「森林づくり」の大切さを理解させる。

2. 活動の成果

●島根県緑の少年団連盟総会・指導者講習会

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から今年度は中止とし、資料配布のみ行った。

●県活動発表大会・交流集会

自然体験活動や宿泊を伴う交流集会は取り止め、活動発表大会のみ開催した。発表少年団には、各学校で活動発表の映像を撮影していただき、DVDを事務局へ提出。映像を見ていただきながら審査会を行い、今年度も各賞を決定した。

●全国緑の少年団大会

今年度も「志学小学校緑の少年団」の「みどりの奨励賞（国土緑化推進機構理事長賞）」受賞が決定したが、コロナ禍により全国育樹祭が1年延期となったため、当委員会理事会で表彰状伝達式を行い、その後、島根県知事へ受賞報告を行うとともに、来年開催予定の「全国植樹祭」成功への意気込みを宣言した。

また、「緑の少年団育成成功労賞」の受賞が決定した「三瓶桜の里づくり実行委員会」も、志学小学校緑の少年団と一緒に、受賞を島根県知事と教育庁副教育長へ報告した。

3. 参加者の声

●島根県活動発表大会

【審査員の感想】

・最優秀賞を受賞された「吉賀中緑の少年団」は、テーマを「ふるさとの自然を学ぶ」とし、1年生では吉賀町の町木であるコウヤマキを題材とした学習や3年生では木材生産の体験学習、また、生徒会活動を中心とした「結プロジェクト」での地域のためのボランティア活動など、地域をフィールドとして中学生としてできることは何かを学び具体的な活動に結びつける取組をされていました。今後も地域の重要な担い手として、地域の核となる活動を継続していただきたいと思います。

優秀賞に選ばれた「三刀屋小学校緑の少年団」は、縦割り班によるウォークラリーにより地域の自然や文化と仲良くなる活動や、10年以上継続しているお世話になっている地域の施設等に花の苗をプレゼントする「ふれあいフラワー活動」など、地域の自然の良さに気付いたり、地域の人々とのふれあいを大切にしたりする活動に取り組まれました。今後も地域の方の思いや願いを大切にしながら、地域と一体となった活動を展開していただきたいと思います。

みどりの奨励賞を受賞された各少年団も、地域の自然とふれあいながら地域をより深く知ったり、地域にある豊富な素材を生かしながらダイナミックな活動を展開したりと、それぞれの地域に根ざした様々な活動が展開されていることが発表からとてもよく伝わってきました。

大切なことは、皆さん一人一人がそれぞれの地域の特色を生かした活動をしっかりと継続していくことだと思います。できることを無理せず続けることが、地域やふるさと島根の豊かな自然を守ること、さらには日本やかけがえのない地域の環境を守ることに繋がっていくと思います。

●緑の少年団への出前講座

・県内122団中24団で実施した。森の専門家から森林・林業について学ぶとともに体験学習を実施することで、より深い学びにつながっている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	中止	9月25日	計	備考
事業量	島根県緑の少年団連盟 総会・指導者講習会	島根県緑の少年団 活動発表大会 映像審査会		(通年) 冊子・募金箱等配布
参加者数	0人	審査員4人	4人	少年団122団
実施場所		島根県松江市		県内

県産木材フェア開催事業（A-102）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

岡山県産木材等の利用の一層の推進及び販路の拡大を図るため、また、子供たちに木材や木製品とのふれあいを通じて木材への親しみや木の文化への理解を深めてもらうため、「日本一のひのきの国・岡山」をキャッチフレーズに、県内の集客力のある会場において、住宅、建材及び木製品等の展示会を開催し、ヒノキ素材生産量日本一を誇り、また、長年培った国産材の製材技術や乾燥技術により製造された高品質な製材品、特にJAS製材品、CLTなどの木製品のPRを行った。

さらに、木材利用を一層進めるため普及啓発用のTシャツを作成した。

2. 活動の成果

今年度のおかやまフェスティバルはコロナ禍の影響により3密を避けるため、集客に繋がるイベントや密ができるコーナーを中止のうえ、開催することとなった。

その結果、来場者数は1日目：2,500名、2日目：2,000名と、例年に比べると少人数となった。

主催者、出展者、運営スタッフは入館時に全員検温。来場者も来場時に検温を行った。また、ワークショップでは、「密」を避け、1回あたり4名を最大として、使用工具等は毎回アルコール消毒液で拭くなど安全安心を提供できた。

会場では、JAS製材品PRをはじめ、「木の何でも相談」や「木造住宅相談」コーナーを設けるとともに、組子細工や木製デッキのレプリカ等を展示紹介。木のおもちゃや多数展示販売した。

来年度も、県内の集客力のある会場と同様のイベントを開催する予定である。

また、普及啓発用のTシャツについては、170着作成し希望する会員へ配布した。

3. 参加者の声

来場者の対象に、229名のアンケート調査を行った。

木製品を使ってみてみたい箇所としては食器類、机・ベンチ、床板が4割を占め、今後建てる場合の住宅様式は木造住宅が6割、85%の人が木製品を使用したいと回答した。

その他の意見として、「色々な出品品があり良かった」「森林のことが勉強できた」など好意的なものが多かった。

普及啓発用のTシャツについては、「ひのき日本一」や「森林の適正な循環」がPRできると評判を呼んでいる。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2020年10月10日（土）	2020年10月11日（日）	備考
事業量	2日		
参加者数	2,500名	2,000名	
実施場所	岡山県岡山市北区下石井1-2-1 イオンモール岡山1階「未来スクエア」		

もりもりクラブ

もりもりクラブ普及活動事業（A-103）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林をフィールドに次世代を担う子ども達に五感を使って『もり』を体感してもらい、森林・林業・木材利用に対する興味や関心を持ってもらうことを目的としている。

今年度はコロナ禍の影響で森林を考える岡山県民のつどいが開催されず、体験型事業も実施ができなかった。そのため、キーホルダーづくりといった木工クラフトによる活動またリーフレットを使用し間伐の役割について説明した。

2. 活動の成果

ヒノキを利用したキーホルダーといった普段から身近に使用できるものを提供することで今まで以上に森や木などに対する興味・関心を高めることができた。

今年度も同様に木工クラフトを行い、今年度はコロナ禍の影響で実施できなかったが間伐、丸太切り体験などの体験型事業も行っていく。

3. 参加者の声

- ・二酸化炭素を吸収して地球温暖化防止の役割をしていることなど森林の大切さがわかった。(小6・男)
- ・木と木の間に空いていないと光が届かず大きくなれない。間伐がなぜ必要なのかわかった。(小6・男)
- ・間伐の重要性や自然の大切さが実際の体験を通して学ぶことができたと思う。(成人男性)

実績報告とりまとめ表

実施時期	2021年6月27日（日）	備考
事業量	1日	
参加者数	15名	
実施場所	岡山県津山市二宮	

第36回くらしき都市緑化フェア（A-104）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化による環境の破壊を止めるためには、今ある森林を保全し、美しい森づくりを推進する必要がある。そのためには、都市に住む人々にも、森林の機能や緑の重要性について、知ってもらう必要があり、森づくりの推進等のPR活動、各種木工教室、身近な木を使った小物づくり等を行い、広く人々に森林の保全や緑の重要性に対する認識を深めてもらう場を提供した。

2. 活動の成果

新たな体験教室として、樹木医による樹木観察会を実施したところ、幅広い世代に参加していただき、樹木についての関心や知識を深めることができた。例年、実施している森づくりと緑の募金の紹介では、二酸化炭素の吸収や保水性などの森林の機能や木の魅力について、多くの人にPRすることができた。また、次世代を担う子どもに木への関心を高めるために、岡山県産のヒノキを使って、ちびっこ木工教室を開催したり、様々な体験教室で積極的に木材を使用することで、木材の良さを体感してもらった。さらに、庭木の剪定教室を開催し、民地の緑化推進を図るとともに、樹木に関する展示を行い、緑化の普及啓発をすることができた。

今後は、参加する人々によりいっそう身近な緑の重要性を説明し、県産木材をより身近に感じてもらえるような取組みを行っていききたい。

3. 参加者の声

- ・樹木医による観察会に参加させていただいた。葉脈を手掛かりに樹種を特定する話をお聞きし、今まで葉っぱを注意深く観察することが無かったので、非常に勉強になった。
- ・ちびっこ木工教室で子どもが間伐材、ドングリやマツボックリを使って素敵な家を作らせてもらった。コロナの影響でなかなかイベントが無い中、このような場を提供していただき、有り難かった。
- ・競り市に参加し、ハナミズキの苗木を落札した。手にするとずっしりと重く、しっかりした苗木なので、なんとか来年の春には花を咲かせたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月25日	備考
事業量	1日	
参加者数	2,978人	
実施場所	岡山県倉敷市寿町 倉敷みらい公園	

岡山県緑化推進協会

緑化普及推進事業（C-48）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「みどりの少年隊交流集会」は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う夏休み期間の短縮により中止したが、「みどりの少年隊指導者研修会」は、指導力の向上を目的に真庭市蒜山下和の津黒高原荘及び津黒いきものふれあいの里で森林インストラクター会による研修プログラム、県保健所による感染症対策、施設等現地調査、意見交換会を実施した。

「みどりの大会」は、広く県民に森林や水に対する認識を深めてもらうことを目的に、毎年開催場所を変更し、今年度は県北部の久米郡美咲町北のまきばの館で開催した。緑化ポスターコンクールの表彰や記念植樹、参加者による植樹活動、木の葉や枝を使った工作などの野外体験活動を行った。

書籍「新岡山の巨樹老樹名木」は4年に及ぶ調査・編集を経て1,000部作製し、県内市町村、図書館等に配布した。うち500部は出版社により販売されている。

また、緑化月間には山陽新聞社の協力を得て、緑化募金や緑化事業、各種緑化イベントのPRを紙面に大きく掲載した。更に今年度新たに岡山駅東西連絡通路に設置されているデジタルサイネージによる広告を行った。

2. 活動の成果

みどりの少年隊交流集会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて中止したが、みどりの大会は、感染症防止対策に十分留意して県との共催により開催した。

県下各地からみどりの少年隊等多くの参加者があり、広く県民に緑化運動をPRできた。

書籍「新岡山の巨樹老樹名木」を1,000部出版し、県内市町村、図書館に配布し、広く県民に向けて樹木への親しみを育む契機となった。

少年隊の研修等については、これからも内容等を充実させて、多くの子供たちや指導者が参加できる企画に取り組みたい。

3. 参加者の声

みどりの大会での植樹活動に参加した子供たちからは、「山の斜面に木を植えるのは大変だった。」「木を植えるのは初めてで面白かった。」などの意見が多かった。

書籍「新岡山の巨樹老樹名木」は約40年ぶりの改定でもあり、県内の樹木を紹介する希少な本で購入者からは喜ばれている。

実績報告とりまとめ表

行事名	みどりの少年隊交流集会	みどりの少年隊指導者研修会	みどりの大会	「岡山の巨樹老樹名木」出版・配布
実施時期		R2.9.4	R2.10.4	R2.7 ~ R2.12
事業量	中止	1日	1日	1,000部
参加者数		27人	約160人	
実施場所		真庭市蒜山下和	久米郡美咲町	県内各地

「ひろもくデザインアワード」開催事業（A-106）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

広島工業大学の「建築分野における木材利用研究センター」と協働し、産学官連携の下で地域材の需要拡大や人材育成のための効果的な手法の実証を目的に「ひろもくデザインアワード」を開催。木製ベンチのデザイン募集やベンチの試作、公共施設等への展示活用とともに、都市の木質化講演会を行い、地域材利用に関する人材育成や、県民への木材利用促進キャンペーンを総合的に展開した。

2. 活動の成果

デザイン募集では、小学生の部に過去最多の217点、一般の部に111点の応募があり、安全性や機能性などに配慮した作品も多く、試作ベンチ18点を展示活用した施設から感謝の声、感想が多く寄せられ、「木」への関心の高さが示された。また、コロナ禍で講演会は会場での対面形式からオンラインに変更したが、ホームページで公開し閲覧可能にすることにより、「木」の魅力と可能性の啓発に繋がった。

今後の取組としては、イメージが固定化されつつある「木製ベンチ」の募集の仕方を見直すなど、新たなデザイン発想の下で、木の良さに対する理解を一層深め、木材利用の促進、人材育成とともに、「国民参加の森林づくり」運動の展開に取り組む。

3. 参加者の声

《デザイン応募者》

- 自分がデザインしたベンチの絵から、こんなに素晴らしいベンチを作って貰って、とても嬉しいです。
- 初めて木製ベンチの設計デザインと制作を行い、木の特徴や安全性、耐久性、実用性などを検討しながら試行錯誤の取組みでしたが、木に関わる大変良い経験になりました。

《展示活用施設関係者》

- 素晴らしい木製ベンチを展示して頂き感謝しています。児童や保護者の皆さんが立ち止まって見学され、柔らかい肌触りや温もりが感じられる木のベンチの良さに驚かれています。
- 見学者が工夫されたデザインのベンチに驚くとともに、大学1年生がデザインし制作した椅子であることを伝えると、想像以上に丈夫に出来ていることに感心していました。

《オンライン講演視聴者》

- 木造建築の魅力と可能性について、色んなことを知る良い機会となりました。
- ラーメン構造を用いると、空間を広く使うことが可能になり、デザインの自由度も高くなるのが分かり大変参考になりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月3日～10月2日	2月22日～	2月～	備考
事業量	木製ベンチデザイン募集	オンライン講演会30分	ベンチ展示活用18点	
参加者数	328人	約110人 (3月末時点)	約1,200人 (3月末時点)	
実施場所	デザイン募集範囲 県内23市町			

広島県みどり推進機構

緑の少年団交流集会開催事業（C-49）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

新型コロナウイルス感染症の影響により、集団での活動が困難となっている緑の少年団の活動を支援するため、活動の参考となる図書を配布して、少年団員各自が自主的な活動を行うことの助けとする。この取組みを通じて、少年団員の自律・友愛・協同・奉仕の心を養う。

2. 活動の成果

活動を通じて、自然を愛し、仲間を愛するなど、心豊かな人間を培うことに寄与する。

3. 参加者の声

新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が制約されている中、活動の助けとなるとの感謝の声を頂いている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月	計	備考
事業量	図書の配布		
参加者数	1,750人	1,750人	少年団員 1,720人 指導者等 30人
実施場所	広島県内		

森林体験学習支援事業（A-107）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山口県県土緑化推進委員会が林業研究グループと連携して実施する森林体験学習に参加した県内小中学校の児童生徒及び指導者に学習教材を配布し、森林環境教育・森林E S Dの促進を図る。

2. 活動の成果

山口県県土緑化推進委員会が林業研究グループと連携して実施する森林体験学習会に参加した県内小中学校38校の児童生徒及び指導者等1,038人に「緑の手帳」を配布し森林体験学習会を行った。

自然環境の保全や緑化推進の重要性について理解を深まり森林環境教育・森林E S Dの促進を図ることができた。

3. 参加者の声

- ・児童達は緑の手帳を手にして熱心に体験学習に取り組んでいた。
- ・森林や自然に関する新しい発見もあり、興味深く学習する児童生徒の姿が見られた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月29日 ～3月4日		計	備考
作業内容	38小中学校で森林体験学習を実施 学習教材を配布			
参加者数	県内	1,038人	1,038人	
	県外	人	人	
	計	1,038人	1,038人	
実施場所	山口県 岩国市、柳井市、下松市、光市、周南市、山口市 美祢市、宇部市、山陽小野田市、下関市、長門市 萩市、和木町、周防大島町			

都市と山村ふれあい交流促進事業（C-50）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

林業研究グループ会員が都市住民を対象に森林をフィールドとした自然体験等の交流活動を実施することにより、都市住民に対する森林の重要性や森林整備の重要性の理解促進を図る。

2. 活動の成果

森林林業体験、木工体験、椎茸駒打ち体験、学習会等を通じて、都市と山村の住民が交流を図り、森林の持つ役割や林業の重要性について理解が図られた。今後も事業の継続を望む。

3. 参加者の声

- ・身近な場所で貴重な体験ができて楽しかった。また参加したいので、今後も続けて欲しい。
- ・地域の皆さんと一緒に交流ができ、森林や林業についても理解が深まった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月10日 ～2月27日		計	備考
作業内容	6林業研究グループが6箇所 で森林林業体験等を実施			
参加者数	県内	317人	317人	
	県外	人	人	
	計	317人	317人	
実施場所	山口県 柳井市、下松市、山口市、美祢市、長門市、阿武町			

記念の森造成事業（C-51）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

植樹、保育等の森林整備、地域住民や児童生徒を含めた植樹祭等、記念の森の緑化活動を通じて、緑化思想の高揚と緑化運動の推進を図る。

2. 活動の成果

県内の5箇所において、子どもを含めた地域住民約300名が参加し、記念植樹や植樹イベント等を開催し、緑化思想の高揚に成果があった。この事業は地域住民のコミュニケーション、連携を深める機会ともなっている。事業要望も多く継続していきたい。

3. 参加者の声

- ・貴重な体験ができた。今後も続けて欲しい。
- ・夏の草刈り作業が大変ですが、記念植栽した苗木の生長が楽しみです
- ・自分が植樹した森が、将来どのようなようになるか楽しみです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日～ 3月20日	計	備考
作業内容	県内5箇所 で記念の森を 造成、植樹、 森林整備等 実施		
参加者数	県内 296人	296人	
	県外 計 296人	人 296人	
実施場所	山口県 柳井市、山口市、宇部市、萩市		

企業の森づくり普及啓発イベント事業（C-52）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化防止やSDGsに取り組む企業・団体の皆様から「緑の募金（使途限定募金）」をご寄附いただき森林整備等を実施している。協力企業の皆さんと例年森づくり活動を行っていたが、新型コロナ対策として今年度は密にならないよう、家族単位で活動できるメニューを考案しどんぐりの採取・植え込みなどを行い、手順や育てることの楽しみを知ってもらうことを目的とし実施した。

又、小学生を対象に森林教室を実施にあたっては、森林整備の重要性を理解し山に興味や関心を持ってもらえるよう、ドローン映像を交え行った。

今年度はコロナ禍にあり大人数での実施ができず、募金のPR活動や県産材を利用した木製品の設置など今後、木育など活動の拡大につながるようメニューを追加した。

2. 活動の成果

豊かな森林を次世代に引き継ぐことを目的として実施しているが、今年度は新型コロナの影響で人数制限や活動制限があり、家族・学校単位での活動を中心に実施した。特に森林の役割を学んでもらうこと、山の資源を活用した木製品に触れることで、森林整備の重要性を知ってもらい、活動の意義が伝わっていることを確かめられた。

また、啓発活動により幅広い年齢層にPRを行うことで緑の募金を認識してもらい、今後の活動に繋がる事が期待できる。

3. 参加者の声

- ・どんぐりをいっぱい拾えて楽しかった。芽が出てくるのが楽しみ。(小学生)
- ・どんぐりを水につけて水選をすることや、植える向きがあることなど、知ることができた。子供と一緒に大切に育てていきたいです。(30代女性)
- ・どんぐりが大きくなって、山に植えに行きたい(園児)
- ・山が近い場所に住んでいるので、土砂災害の映像は怖かったけど、多くの木が災害を防いで僕たちを守ってくれていることを知った。(小学生)
- ・ドローンで自分が撮っている映像を確認しながら操縦できるので、楽しかった。(小学生)
- ・これからも、頂いた本で山の事を勉強したいと思います。(小学生)

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月24日	11月25日	12月18日	3月13日	計	備考
事業量	どんぐりの採取・植込木工クラフト	どんぐりの植込	森林教室 ドローン操縦体験	「緑の募金」 啓発活動		
参加者数	51人	40人	30人	J1サッカー観戦者 者に対し実施	121人	
実施場所	徳島県 美馬市・徳島市・神山町・鳴門市					

緑化普及活動事業（A-108）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

(目的)

森林・緑・水に対する県民の認識を深めるための普及啓発活動を行うとともに、森林ボランティアや緑の少年団の活動を支援した。

(内容)

- ①どんぐり銀行活動を通して県民の森づくりへの関心を深めるために、「どんぐり預金」を実施し、預金高に応じて苗木やグッズ等を預金者に払い戻した。
- ②県主催で開催した「森とみどりの祭典」において、森林ボランティアや緑の少年団活動を支援した。
- ③香川の森林や森づくり活動の魅力を伝える「森photo」キャンペーンを実施した。

2. 活動の成果

コロナ禍の中、熱心な県民に参加していただき、森づくりへの理解と関心を深めてもらうことができた。
今後とも、県民参加の森づくりを推進するため、森林ボランティアの育成を図るほか、森に親しむ体験の場を提供して行きたい。

3. 参加者の声

①（どんぐり銀行）

「森林の大切さを認識したので、苗木が早く大きくなるように大切に育てたい。」
「どんぐり銀行は、コロナ禍の中、森林・里山へいざなういい機会になった。」

②（森とみどりの祭典）

「香川県の特徴であるこんもりした里山の大切さがよく分かった。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月11日	11月1日～ 1月31日	計（年間）	備考
事業量 （内容）	森とみどりの 祭典	「森photo キャンペーン」	どんぐり銀行 活動	
参加者数	48人	74人	2,761人	
実施場所	香川県内一円			

木工作品製作キット配布事業（A-109）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【目的】

木材の利活用を促進するため、次代を担う小中学生を対象に、県産材を使用した木工作品製作キットを提供し、実際に木に触れ加工することで木の良さを知ってもらい、県産木材の利用拡大を図る。

【内容】

県内の木材加工業者が県産スギ材で作製した本立てのキットを、総合的学習の時間やクラブ活動、図工の時間等で、製作希望のある県内小中学校へ配布した。

2. 活動の成果

県産材ということで、木が身近に感じられ、木材になるまでの過程や林業に携わっている人々の思いや苦労を想像し、実感してもらうことができた。

森林を受け継ぎ、後世に残すことができるように、今、自分たちができることをしていきたいという気持ちを高めることができた。

今後も、子供の頃から木に触れ合うことによって森林や林業に興味を持ち、関わりを持ってもらえるよう、継続して事業を実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・木と触れ合う機会を持つことで、木の良さを実感することができた。
- ・自分で製作することで自分だけのものができたのでうれしかった。
- ・作って組み立てているときの木の香りがとてもいいにおいだと感じた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～10月配布 7月～製作	計	備考
事業量	3,960セット	3,960セット	
参加者数	3,960人	3,960人	
実施場所	愛媛県内の小中学校		

土佐の名所の樹木活性化事業 (A-111)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの人が大切にしてきた名所の桜等の再生を図るため、治療等の手入れをボランティア団体と地元住民等で行い、憩いの場としての地域の活性化を図るとともに、樹木を大切にすること等の普及啓発を行った。

2. 活動の成果

桜の名所の中には長年手入れがされていなかった場所もあり、樹木がかなり痛んでいたが、テングス病の治療や剪定等の手入れにより樹木の保護・育成や景観整備ができた。ボランティアには、当会が長年実施している「樹木医セミナー」の修了者も参加しており、セミナーで得た知識や技術の実践の場となった。地域住民と協力して活動したことで、手入れの必要性を伝えることができた。間伐材を使った遊具の改修や子どもたちとの間伐体験では、樹木を大切に守り育て活用していくことを普及啓発できた。

3. 参加者の声

- ・ツリーハウスや使用頻度の高いブランコの修繕ができ、子どもたちが安心して遊べるようになった。
- ・JRの駅の近くで国の天然記念物のヒロハチシャノキ周辺の桜の手入れができ、多くの人に病気や枯れ枝のない健全な桜の木や花を見てもらえる。定期的にこのような作業をしてほしいと地元から懇願された。
- ・間伐体験では、子どもたちに協力しながら作業をすすめることや楽しみを感じてもらえた。
- ・桜坂と呼ばれた昔の景観を取り戻すことができるかと思うと大変うれしい。今後も少しずつ手入れを継続していきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月8日 7月9日	7月27日 2月10日	1月17日	11月15日	1月～2月	計
事業量	四万十町米奥 小学校の遊具の 修繕	JR影野駅周辺の 桜の手入れ	間伐体験	筆山公園周辺の 桜の手入れ	四万十市川登地 区の桜の手入れ	
参加者数	のべ17人	のべ21人	44人	30人	のべ39人	のべ151人
実施場所	高知市、高岡郡四万十町、四万十市					

森のようちえん推進事業 (A-112)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内で森のようちえん等の自然体験活動が広まり、子どもたちが質の高い自然体験の機会を得られるために、高知市「アジロ自然の森」でイベント型の森のようちえんを開催した。実施に当たっては、子どもたちの自然体験のみならず親への普及啓発や指導者育成を視野に入れて行った。また、安全に子どもたちが遊べるように、定期的なフィールド整備を行った。土佐町「ふるさと再生の森」ではコロナウイルス感染拡大防止のためイベントを開催することはできなかったが、ブランコやロープ渡りの遊具の修繕等、今後のためにフィールド整備を行った。

2. 活動の成果

自然の中で子どもが伸び伸びと遊ぶことで豊かな感性や好奇心が芽生えるように、過保護にならない見守りを行っている。自然に囲まれた高知県でも安心して遊べる森は少なく、自然を活かしつつ少し手を加えることで安心して遊べるフィールドを確保し、継続的な自然体験活動を行うことができている。今年はコロナウイルスの影響が長引き外出が制限されるなか、気軽に遊べる「森」には、イベントがない時でも地元の子どもたちや少人数の家族連れなどが来ており、気軽に自然体験できる場を提供することができた。

3. 参加者の声

- ・毎回楽しみにしています。季節により森の様子が違っているので、いつ来ても楽しいです。
- ・アジロ自然の森は開放された森なので、イベントがない週末に家族で遊びに来ています。
- ・イベントができなかったのは残念だったが、倒木により壊れたロープ渡り等を修繕できて良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～3月	7月19日	11月15日	3月21日	2月～3月
事業量	アジロ自然の森の フィールド整備・ 遊具の修繕	アジロ山を綺麗に して森で遊ぼう	遊ぼうアジロ山自 然体験	春の息吹を探そう	ふるさと再生の森 フィールド整備・ 遊具の修繕
参加者数	のべ90人	36人	76人	30人	のべ21人
実施時期					計
参加者数					のべ253人
実施場所	高知市・土佐郡土佐町				

高知県森林インストラクター養成講座（A-114）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林に関する幅広い知識や技術を持った森林インストラクターの養成を図ることで、体験活動や自然観察、森林づくり等を通して、森林・林業に関する正しい知識を一般県民等に広く普及啓発する人材を育成する。

今年度も県内で活動する団体「高知県森林インストラクター会」が実施主体となり、森林に対する幅広い知識、技術を習得するため、「森林」「林業」「森林内の活動」「安全及び教育」の4分野の講習及び実習を全7回で実施した。講座内容は、全国森林レクリエーション協会の実施する「森林インストラクター」の受験に対応できるものとし、講座修了者には養成講座修了証を発行した。修了証書（写）提出により、森林インストラクター資格試験の二次試験「実技」が免除される。

2. 活動の成果

過去の受講生がスタッフとして参加し、知識と技術の向上を図っている。昨年度の受講生のうち1人が森林インストラクター資格試験に合格した。森林・林業分野における指導者の育成となっており、今後の普及啓発の広がり期待できる。

3. 参加者の声

- ・感染症予防対策がしっかりとできており安心して受講することができた。
- ・多くの知識と経験が役立つということを身を持って感じる事ができた。
- ・森林・林業の奥深さを実感することができた。
- ・講座で学んだことをベースに、今後技術力を向上していきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月～2月
事業量	森林インストラクター養成講座 (全7回)
参加者数	20人
実施場所	高知県 高知市、香美市、長岡郡大豊町

活動基盤整備推進事業（C-54）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

高知県内で森や緑と水に関わって活動する団体について、地域ごとに組織化を図る。これまでも支援してきた県内4つの緑と水の会（幡多、須崎、高知、嶺北）の活動を持続できる基盤整備として事務費の助成を行った。

2. 活動の成果

地域の森林整備や緑化推進に関する啓発活動を行っている団体を支援することで、ボランティア活動を継続することができる。また、これにより一般県民に森林にふれる機会を提供でき、森林の持つ機能や大切さについての普及啓発ができる。

3. 参加者の声

- ・事務費を支援していただいたので会報の発行等に活用することができた。
- ・総会開催のための通信費や印刷費、会場費にあてることできた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～4月	計	備考
事業量			
参加者数	4団体	4団体	
実施場所	高知市、須崎市、四万十市、土佐郡土佐町		

森林ふれあい交流 (A-116)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 四王寺山森林浴ウォーキング 森林とふれあいながら歴史のロマンを感じ、特別史跡「大野城跡」や森林の大切さへの理解をふくめ、リフレッシュする。
- 親子木工教室 木材製品を使用することで、間接的に自然とのふれあいを親子間で感じながら、物を組み立てていく共同作業を通じて親子の絆を深めていきます。
- 写真展 福岡の自然と四王寺山にかかわるものと題して、一般の方々から募集することにより、その題目に対しての認識を深められ、また、それらの作品を展示公開することで、見学される方々にも同様な認識を広げていきます。
- 子供たちへの森林・林業パンフレット配布 「広葉樹の植樹体験」を行う予定だったが、緊急事態宣言延長のため中止とし「森林教室」などのパンフレットを子供たちに配布した。

2. 活動の成果

- 四王寺山森林浴ウォーキング 規模を縮小して行いました。天気にも恵まれ、歴史散策や自然観察を楽しみながら森林浴に皆さんの笑顔がはじけていました。
- 親子木工教室 コロナ感染症対策のため規模を縮小して10時と11時開始の2回で予約受付にしました。ブルーシートを張りその上で、多くの親子がいっしょに笑顔で作業を楽しみ、自然の木材の香りや温もりに触れながら、森林の大切さも感じてもらえたと思います。
- 写真展 鳥、昆虫、植物など森林の生息する生き物たちや、朝焼けなど自然の織り成す様々な風景に感動して、森林や自然環境を守り育てる心が醸成できたと思います。森林のひみつ等のパンフレットも喜んで持って帰っていました。
- 子供たちへの森林・林業パンフレット配布 「森林教室」「森林とわたしたち」などの青少年向けパンフレットを通じて森林の身近さを感じてもらえました。

3. 参加者の声

- 四王寺山森林浴ウォーキング 山登りと歴史散歩を同時に楽しめる素晴らしいところだと思います。植物はガイドさんに行かないとわからなかった。
- 親子木工教室 親子で、普段使わない金槌やプラスドライバーを使って木工キットを組み立てたり、電熱ペンを使って出来上がった作品にイラストを描いたりして楽しかったです。
- 写真展 四王寺の野鳥や歴史、珍しい植物や楽しそうな様子など見てしげんに親しみができました。
- 子供たちへの森林・林業パンフレット配布 「森林とわたしたち」などのパンフレットで森林を身近に感じました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月24日	11月3日	11月15日～ 12月13日	2月～	計	備考
事業量	四王寺山森林浴 ウォーキング	親子木工教室	写真展	子供たちへの森林・ 林業パンフレット 配布		
参加者数	80人	57人	延べ1,000人	500人	1,637人	
実施場所	福岡県 糟屋郡 宇美 市・(町)					

第30回世界子ども愛樹祭コンクール（A-118）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森との共生により心豊かな人間性を育み緑豊かな自然環境作りを啓発するため、「世界子ども愛樹祭コンクール」を企画開催している。

国内外で絵画、作文等の作品を募集し、「世界子ども愛樹祭コンクール」を開催するとともに受賞者による記念植樹を行っている。

今回は、コロナウイルス感染拡大防止のため授賞式は中止となったが、後日、矢部清流学園の生徒による記念植樹を行った。

2. 活動の成果

平成3年より「世界子ども愛樹祭コンクール」を企画・実施しており、環境的・教育的見地から応募が相次ぎ、30回までに世界24ヶ国・国内46都道府県より絵画53,136点（海外7,725点）、詩・作文19,257点、木はがき9,229点、作品累計81,622点、30回までの受賞者記念植樹は320本を越えるなど大きな成果を得ている。

31回コンクールは更なる環境保全・緑化推進を目指して子ども達への啓発を進め、悪化する地球環境への警鐘となるよう自信を持って挑みたい。

3. 参加者の声

今回も昨年同様コロナウイルス感染拡大防止のため授賞式が中止となったが、作品の観覧に近辺の入賞者のみならず遠方からの訪問者があった。

授賞式での出演に向けて、地元の小中学生が合唱の練習に連日励んでいたが、披露する機会が失われたことについて申し訳なく思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月13日	1月21日	3月28日	3月29日	計
事業量	一次選考会	最終選考会	授賞式（中止）	記念植樹	
参加者数	24人	7人	0人	16人	47人
実施場所	福岡県八女市	福岡県八女市	福岡県八女市	福岡県八女市	

第9回もりもり広がる森林づくり（A-120）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

計画当初としては、糸島市民・環境ボランティア団体の協力を得て、雑木の混合林を広葉樹の苗を植え自然林に戻し、水源涵養機能を多く有する広葉樹林とし又、一般市民が森林浴ができ自然観察会等が開催され利用できる場とすることであった。内容として、敷地約1,000㎡約800本以上集客予定人数200名を目指す植樹会を実施する予定であった。しかし、今回の植樹イベントは、国・県・市の新型コロナ対策の外出自主規制、2度にわたる緊急事態宣言発出により、植樹場所・規模・内容が変更せざるを得なくなった。最終的には、植樹場所は糸島市雷山、面積：500㎡、本数：400本、植樹者：会員プラス一部の協力者、計25名で実施した。

2. 活動の成果

植栽地は豪雨災害で出来た荒地であり、植樹した広葉樹が根を張ることで将来の豪雨災害の軽減に資することが期待される。また、専門家講師による森林の重要性等に関する講話は、参加者の活動意欲の向上に繋がった。今後も継続してさらに幅広く伝えていく取り組みが求められる。

3. 参加者の声

今回の植樹は前日来の大雪が残る中での作業であったが、参加者より記憶に残る植樹活動であった、又講師の『人が吐き出す二酸化炭素を吸収させるためには、約32本の杉の木が必要になる』との話は、興味深く聞かせていただいた、との言葉がいただけた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2月17・19日	2月20日	計	備考
事業量	イベント準備作業 一部補植（50本）	第9回もりもり広がる森 林づくり本番（350本植樹）	400本の植樹	補植分は2度目の候補地 へ補植、糸島市二丈福井 （第7回イベント開催地）
参加者数	12+15人	25人 （内一般5名）	52人 （内一般5名）	
実施場所	福岡県 糸島市 雷山			

「緑豊かな郷土づくりのための植栽整備」(A-120-1)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

朝倉市が管理する立石コミュニティ前広場（広場面積：約8,300㎡）は市の9行政地域（約1万人）により構成され、「住んで良かった立石、だれもが住みたい立石を合言葉に地域づくりが進められている。

広場は、夏祭り（3,000人参加）や各種スポーツなど多くの地域住民に利活用されているが、緑花木がほとんどないため殺伐としており、緑に触れ、緑の大切さを認識できる景観・環境づくりが求められていた。

そこで、落葉樹及び常緑樹、高木及び低木などを組み合わせ、四季の季節感が体感できる緑花木の植栽を、園児を含む地域住民も行いながら、多数の住民参加型の植樹式典を開催することにより、子ども達を含めた地域住民が将来に渡って緑を大切に、慈しむことができる良好な景観緑地を目指した。

2. 活動の成果

- ・高木としてオリーブ、ヤマボウシ、陽光桜及びロドリイア等を、高木を取り巻く低木としてシャリンバイ等合計約400本を植栽し、季節とともに開花を楽しめ、四季の移ろいを感じられるよう植栽した。
- ・住民参加による植栽・式典はコロナの影響により参加人員を絞らざるを得なかったが、園児30名を含め住民・関係者の総数73名で式典と記念植樹を挙行でき、園児及び地域住民に対し緑の大切さについて普及啓発できた。

3. 参加者の声

- ・殺風景な広場がすばらしい景観緑地となり、四季の移ろいを楽しめることに期待。
- ・式典の前から、多くの地域住民が散策に訪れるなど、地域づくりのモデルとなる。
- ・国土緑化推進機構には九州北部豪雨災害の支援も含めて感謝しています。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月7,13,14日	11月26日	計	備考
事業量は事業内容	現地調査及び植栽	植樹式典		
参加者数	延25人 人 計 25人	73人 人 73人	98人 人 98人	
実施場所	福岡県 朝倉市			

「里まちプロジェクト」森林資源の整備と森林環境教育をもっと身近なものに！！(C-55)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

里まちサイクルプロジェクト

「森林資源の整備と森林環境教育をもっと身近なものに！！」

未来の子供たちに豊かな自然環境を引き継ぐために森林資源の整備を行う。また、青少年や成人が森林の現状を理解し身近なものを感じるためには、参加して楽しく学習できる体験型の環境教育を行い、次世代の育成と森林資源の必要性を理解するためにも普及啓発事業を行う必要があると考えます。

2. 活動の成果

里山の状況について、竹が乱立し倒れ掛かっている状況等、参加者が自分で現状を見ることにより、森林を守り、整備の必要性を理解してもらえた。また、竹の再利用で「ミニ門松づくり」や「カズラを使ってリース作り」等、多くの住民に循環型社会の理解を得ることができました。

3. 参加者の声

- ・遠くから竹が倒れ掛かった様子を目にしましたが、整備された竹林は気持ちが良いものです。
- ・福岡県や国が森林に力を入れていることは知りませんでしたが、今回参加してよく理解できました。参加してよかったです。
- ・コロナウイルスで一年間、家に閉じこもることが多い日々でしたが、「ミニ門松づくり」に参加して整備した竹を使って再利用したことはとてもよかったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月30日～3月18日まで	8月29日～令和3年3月27日まで	計	備考
事業量	竹林、里山の保全整備 8回	環境教育「森で遊ぼう」 「カズラでリース」「ミニ門松づく」作り 9回	17回	「コロナウイルス」の為ボランティアの方々に感染しないように注意しながらの活動でした。
参加者数	44人	245人	289人	
実施場所	福岡県 糸島市・福岡市・早良区。西区			

よかウッドフェスタ (A-121)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林・緑を県民みんなの財産として社会全体で守り育て、次の世代に引き継いでいくという意識の醸成を図るため、国土緑化運動・育樹運動標語等の表彰、木工工作コンクール及び高校生建築設計競技の表彰並びに作品の展示を行うとともに、ふれあい広場において併催イベントや木材関係団体等のPRコーナーを設けて緑化や木材普及の推進を図った。

〔事業の実施内容〕

- ① プレイベント：イベント開催に先立ち、9時30分から和太鼓・葉隠による和太鼓演奏を開始
- ② 式典：国土緑化運動・育樹運動標語及びポスターコンクールの知事表彰、県内児童・生徒木工工作コンクール、県下工業高校建築設計競技及びさがが優良丸太展示品評会の表彰式を行うとともに、木工工作コンクールと建築設計競技入賞者の作品展示を行った。
- ③ 併催イベント：木工工作、木の実工作、かんなくず工作などの体験イベント及びさがの樹プレゼント、県産木材PR・林業就業相談コーナー、住宅・耐震相談コーナー、棟上実演・もち配布、親子で学ぶゲーム、シシ肉パンの無料配布、チェンソーアートや大迫淳英トーク&ミニライブなど多彩な催しを行った。

2. 活動の成果

緑化や木材に関する表彰を実施することにより緑化の大切さを認識してもらうとともに、木や木の実を使った工作などにより木のぬくもり、すばらしさ、楽しさを実感してもらった。

3. 参加者の声

アンケートの結果では、「森林を大切にしたい」、「木の良さが分かった」、「SDGsが話題の中で、自然について考えられるとても良い機会であった」、「いろんなイベントがあって良かった」などたくさんの感想を頂きました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月6日(土)	備考
事業量	・標語、ポスターコンクール、木工工作コンクール等の表彰 ・木工工作体験など各種イベント実施	
参加者数	約1,600人	
実施場所	佐賀市天神 どん ³ の森広場	

緑の探検学習会 (C-56)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団員と指導者を対象に、野外の体験学習を通じて自然や緑の大切さを実感してもらい、少年団活動発表会や団員の交流会を盛り込むなどして、緑化活動や環境美化に積極的に参加する心を育てることを目的として、探検学習会を開催した。

〔活動の実施内容〕

午 前

- ① 葉っぱ探偵団
会場の公園に植樹されている木の樹皮と葉っぱを見比べながら、各木についているQRコードを使って木の名前を当てた。
- ② 森のクラフト体験
よかウッドフェスタ内のブースを活用し、木の枝などを使って、各自、自由に工作体験を行った。

午 後

- ① 5団による活動発表(うち4団は、ビデオ発表)
- ② 活動発表大会の表彰式及び閉会式

2. 活動の成果

地区代表による活動発表を通じて、緑の少年団の活動の活性化が図られた。
また、樹木の特徴や違いを学習するとともに、木を使った工作体験を行うことにより樹木が身近に感じる事が出来た。また、活動を通じ少年団相互の交流が図られた。

3. 参加者の声

コロナ対策を十分に取った上での開催であったため、一部制約があったが、子供たちは、大変元気よく、最後まで熱心に学習会に取り組んだ。「体験等を通じて、多くのことを学べた。」「友達と協力して楽しむことができた。」などの前向きな感想が多かった。

また、大人からは、感染症対策への感謝や少年団活動への理解が深まったことなどの声があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月6日	備考
事業量	・葉っぱ探偵団 ・森のクラフト体験 ・5団による少年団活動発表大会	
参加者数	70人(少年団員34人、指導者11人、スタッフ25人)	
実施場所	佐賀市どんどんどの森及びアバンセ	

森林のつどい事業（A-122）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・県民が森林とふれあい、森林を守り育てていくことの大切さを広く理解してもらうため、長崎県民の森で「ふるさとの森フェスタ」を新型コロナウイルス感染症対策を講じて、3コースに分けたウォークラリーを開催した。小グループでの森林ウォーキングやコースの途中で「竹細工」、「まい箸作り」、「松ぼっくりツリー作成」、「森の鉛筆づくり」等の体験ブースを一定の距離を確保して実施した。
- ・小学校高学年を対象に募集を募り、木育キャンプ（森のつどい）を開催し、森林探索を行い森のはたらきを学び間伐体験を行った。また、製材工場の見学や木製キットの時計作りと飾り付けを行った。

2. 活動の成果

- ・「ふるさとの森フェスタ」では、家族での参加が多く森林と触れ合う機会が少ない中で森林を再認識する機会が出来た。
- ・木育キャンプ（森のつどい）では、次代を担う子供たちが森林のはたらきや、丸太から製材になる過程を見学出来て貴重な体験が出来た。児童や生徒の森林に対する関心を高めるためにも、今後も継続して実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・「ふるさとの森フェスタ」の参加者からは、家族で色々な体験が出来て楽しかったという声が聞かれた。
- ・森林ウォーキングの参加者からは、不要不急の外出を控えていたためリフレッシュ出来て、自然の中で楽しい1日を過ごすことが出来たという声が聞かれた。
- ・木育キャンプ（森のつどい）では、丸太から製材になる過程を見学出来て良かった。木に関する知識が増えた。木を大切にしようと思った。という意見があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月25日	10月31日～11月1日	計
事業量	ふるさとの森フェスタ	木育キャンプ ～木に触れ、木から創り、木を理 解しよう～	
参加者数	約300人	17人	約320人
実施場所	長崎市	諫早市	

緑の少年団活動活性化事業（C-57）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑や自然と接することにより、緑を守り・育てる心を養い、協調性と豊かな心を養うために「緑の少年団」活動の一層の活性化を図るために、6月の環境月間、秋期における地域の公共施設等への花苗植栽活動を実施した。また、緑の少年団交流集会在中止となったため、学校や家庭で出来る木製工作キット（移動式本立て）を配布した。

2. 活動の成果

- ・地域での花苗の植栽活動を集団で体験することにより、自然の大切さや地域の環境を守ることの大切さを学ぶことができた。
- ・少年団の活動が従来どおり出来ない中で、学校や家庭で木製の本立てを作成することにより、木材の大切さや利用についての木工体験学習に役立った。

3. 参加者の声

- ・花壇等に植栽する花の配置や植え方について勉強になった。
- ・緑の少年団からプランターの花を郵便局等に贈呈し、とても喜んで頂いて良かった。
- ・本立て作成では、金づちなど使ったことがなかったが、先生や親子で協力してうまく作れて良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月～11月	2月下旬 ～3月初旬	6月1日 ～6月30日	計
事業量	秋期花苗植栽活動 2,682本	木製工作キット（移動式 本立て）の配布 248個	6月環境月間花苗植栽 8,018本	
参加者数	12団 362人	23団 248人	18団 681人	1,291人
実施場所	県下一円	県下一円	県下一円	

くまもと森づくり普及・啓発事業（A-123）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施主体：（公社）熊本市緑化推進委員会

共催：（株）熊本放送

目的：くまもとの豊かな緑を守り育てる「緑の財産づくり」を推進するため企業とともに緑化推進キャンペーンを展開している。募金期間に森林とのふれあいイベントを開催し、県民参加の森づくりの一層の推進を図る。

内容：公募による参加者（家族等）が熊本市立立田山の自然とふれあう「立田山グリーンウォーク」を開催し、熊本市インストラクター協会会員の指導のもと、秋になりつつある森林の様子を観察したり、森林の話聞きながら森を散策した。また、散策後竹トンボ協会の協力で竹クラフト教室を開催し、家族で楽しく木竹とふれあう時間を過ごした。（当日の状況は別添写真のとおり）

2. 活動の成果

森林にふれあうことで森林の大切さに対する理解者が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図れた。

3. 参加者の声

自然観察会では森林インストラクターの方々から秋の時期に特徴的な木や草花の話が聞けて勉強になった。

また、竹トンボ協会の方々の指導により作った竹トンボが非常に良く飛んで楽しかった。

今年は特にコロナ禍で家族でのイベント等への参加がなかったので久しぶりに家族で楽しめてとても良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月26日	計	備考
事業量			
参加数	138人	138人	
実施場所	熊本市黒髪 立田山いこいの森（多目的広場）		

緑の少年団活動助成事業（C-59）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施主体：（公社）熊本市緑化推進委員会

目的：県下に67団ある「緑の少年団」の育成並びに活動の活性化、更に、新規団の創設に向けて、古くなった団旗や帽子、スカーフなどの補充及びTシャツの配布を行い、緑の少年団活動の一層の充実を図る。

内容：緑の少年団装備品整備

帽子の配布 12団 301個

スカーフの配布 2団 61枚

Tシャツの配布 8団 228着

2. 活動の成果

装備品が新しくなることで、少年団活動が活発になる。今後は、Tシャツの配布等も含め、少年団活動を後押しする取組みを進める。

3. 参加者の声

団旗などの章備品は、発足当時のもので古くなっていた。新しい装備品を購入いただいたことで団員や指導者のモチベーションも上がり今後の活発な緑の少年団活動の取組みが期待される。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～3月	計	備考
事業量	1 帽子の配布 301個 2 スカーフの配布 61枚 3 Tシャツの配布 228着	1 帽子の配布 301個 2 スカーフの配布 61枚 3 Tシャツの配布 228着	
参加者数			
実施場所	熊本市熊本市、宇土市、宇城市、美里町、荒尾市、和水町、南関町、菊陽町、山都町、津奈木町、あさぎり町、水上村、山江村、天草市、苓北町の緑の少年団		

シンボル森林の活用促進事業（C-60）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施主体：(公社) 熊本市緑化推進委員会

目的：県指定の「熊本ふるさとの森林」森林や市町村が設定したふれあいの森林等地域を代表する森林の利用促進を図るため、森林の内容や散策路等施設の情報を記した総合案内板の設置や補修を行う。

内容：案内板の設置

熊本ふるさとの森林「立田山」の森林は、熊本市の市街地の周りに広がる照葉樹林の中に散策路が整備され、毎日多くの市民が訪れる憩いの森となっている。令和4年春には全国都市緑化くまもとフェアのメイン会場の一つにもなり、広く県民に親しまれていることから、より散策が楽しめるよう散策ルートを表示した案内板を設置した。

- ・森林総合案内板 1基
- ・表示板W=1,800mm H=900mm

2. 活動の成果

森林にふれあうことで、森林の大切さに対する理解者が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図られる。

3. 参加者の声

熊本市の立田山の管理者からは、写真での案内や森林散策ルート等の案内により、令和4年春に開催される都市緑化フェアくまもとがより良いものとなり、立田山がさらに分かりやすく、利用者が増加するのではというような意見をいただいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～12月	計	備考
事業量	案内板1基設置	案内板1基	
参加者数			
実施場所	熊本市熊本ふるさとの森林「立田山」管理用道路沿い		

ふれあい森林教室（A-124）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林の啓発及び森林のもつ多様な機能にふれあう機会の提供を目的に、キャンプ、自然観察等を行う。
 内容 7月18日（土）・森林教室（竹工作づくり）・飯ごう炊飯・キャンプファイヤー
 7月19日（日）・森の自然観察会・ネイチャーゲーム・竹工作でつくった竹水鉄砲と河川プール体験

2. 活動の成果

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、「新しい生活様式」を取り入れた森林キャンプ、森林教室、自然観察会を行いました。森林教室の竹工作づくりでは、小さい子どもでも作業が出来る様に1年生のマダケを使用しました。そのため子どもでもナイフ、ノコを使って作業が出来ました。飯ごう炊飯では火の着け方を親子間、家族間で試行錯誤しながら行いました。キャンプファイヤー、レクリエーションでは、指導者のもとグループ間の距離を確保しながら出来るレクリエーションを行い楽しさを共有することが出来ました。

自然観察会・ネイチャーゲームでは、人と自然の関わりを交えながら指導員が指導・説明を行い、河川プール体験では、自分で作成した竹水鉄砲を使い、河川プールを体験しました。全体を通して、森林や自然に対する理解・関心が高まりました。

3. 参加者の声

- ・竹細工では、竹を入手する機会が減り、親子ともども刃物の使い方を学び勉強になった。
- ・飯盒炊飯では日常で火を扱う機会がないので楽しかった。
- ・自然観察で、植物の仕組み、季節の花や木々、名前を知っているが、実際の樹木や昆虫を見ることが出来勉強になった。
- ・自然を守る事の大切さを学びました。 など

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月18日～19日	計	備考
事業量	森林教室 自然観察会 野外炊飯		
参加者数 県内	58人	58人	
実施場所	大分市大字高原 平成森林公園キャンプ場		

名木保全事業（B-3）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

目的：県内の名木について現地調査を行ったデータに基づき、診断結果が不良な樹木について保育、保全を行いさらに文化的な活用を図るものとする。

内容：①実施主体 公益財団法人森林ネットおおいた
 ②実施時期 令和3年1月～令和3年3月
 ③実施場所 大分県一円（今回は別府市、臼杵市）
 ④事業内容 樹勢等の健康度等を基に治療をおこなった。

2. 活動の成果

- ①調査木
- ②診断結果別紙にまとめた。

3. 参加者の声

過去の剪定・折損箇所及び傷等を処置せず放置していた所より腐朽が進み、幹の空洞化、樹皮の欠落など生育に大きな影響を及ぼし、樹勢が衰弱している。腐朽に対する樹体抵抗度又は腐朽進行度は、樹種、樹勢等により異なるが、土壌・根系障害などがこれに併発している場合が多いので、腐朽部の治療と土壌改良を一緒に実施することが望ましい。

森林ボランティアリーダー養成研修（C-61）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

大学の森林ボランティアサークルを対象とした森林整備の研修を行い高度な知識、技能を有する森林ボランティアリーダーを養成する。

山林所有者と協定を交わしたフィールドを使い現況調査から森林整備の事業計画を作成し、実際に施業しながら、林業従事者の専門知識を活用し研修を行う。

2. 活動の成果

山村所有者と協定を交わしたフィールドを使い、本年度は、昨年に引き続き竹の除伐作業・支障木の伐採・水生植物の植栽、歩道の整備等を行った。また学生たちが先輩から継承した知識と今年度習得した事柄について、ホームページや広報誌等にて掲載し、幅広い人々に林業・森林の役割について啓発出来た。

3. 参加者の声

・年々整備していくことで、きれいになっていくのがわかり、森林に対する意識がより高くなった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～3月	計	備考
事業量	研修5回		
参加者数	80名	80人	
実施場所	大分市久土（NBUの森）ほか		

緑と花のふれあい推進事業（A-127）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民に身近な緑とふれあう機会を提供し、緑の大切さを認識させるとともに、緑を愛する心を育むため、県民から公募した受講生を対象に、専門講師の指導の下、年間スケジュールに基づく「緑と花のふれあい教室」を開催し、土づくり・播種・挿し木・取り木・接ぎ木・病虫害防除等の技術・知識を習得させるとともに、受講生が実習で生産した緑化木等を広く県民に配布して、県民緑化運動推進の一助に資する。

2. 活動の成果

受講者は、①緑化用苗木や花の養成技術の習得を通じて、緑への関心や理解をさらに深めることができた。②生産された緑化木を街頭やイベント等で配布することによって、緑に関する普及啓発活動や県民緑化運動の推進に寄与することができた。③「緑と花のふれあい教室」を継続的に開催することが「緑の募金」の推進につながっている。

3. 参加者の声

受講者の多くが御夫婦での参加のため、出席率が高い。参加の動機は、樹木や草花への興味、緑化木養成技術の習得、ボランティア活動への興味等が主である。参加して良かったという方の意見は次のとおりである。①緑化木の種類を覚えるとともに苗木づくりの知識や技術が深まり、最新情報の交換ができる。②多くの方々と交流ができて楽しい。③家庭において緑化木管理をしている受講者からは、講義の中での質疑応答等、実践的な内容であり役立っている。④自分たちの育てた緑化木がいろいろな場所の緑化に役立っていることが嬉しい。⑤月々のボランティア活動が生き甲斐になっている等、多くの意見が寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年6月～令和3年3月	計	備考
事業量	年間を通じて12回計画のうち8回実施（令和2年4,5,8月、令和3年1月は、コロナウイルス感染拡大防止のため中止）	8回	
参加者数	受講生 79名	延べ 514名	
実施場所	宮崎県小林市野尻町（宮崎県緑化木養成圃場）		

森林浴癒しの集い事業（A-128）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

広く県民から参加者を募集し、日南市北郷町猪八重溪谷森林セラピー基地において、森林セラピーに関する学習や散策を行うことにより、森林の持つ癒し効果と森林やみどりへの理解と認識を深めさせ、県民参加による森林・みどりづくりを推進する「森林浴癒しの集い」を開催した。

2. 活動の成果

宮崎県内にある森林セラピー基地を散策することにより、参加者が自然に親しみ、森林の持つ「癒しの効果」を五感で満喫することによって、自然の大切さや環境、森林づくりなどの理解を深めることができた。

この集いは、参加者からの評判も良く、また、日常生活では味わうことの少ない自然体験を通じて、森林の素晴らしさを広く県民に再認識していただくことのできる重要な活動であると考えられる。

3. 参加者の声

- ・森林浴で森の中でねころがってのセラピーにはとても癒やされました。
- ・猪八重溪谷を歩き、山野草を教してもらいマットを敷いて瞑想タイム。とても心が落ち着きました。
- ・森林セラピーやテラリウム体験が思いの外良くて楽しかったです。
- ・森に寝転ぶ発想がなかったので感激！気持ちよかったです！
- ・テラリウム作りがとても楽しくて自宅でもしてみようと思いました。
- ・猪八重学習の森で寝ころがったこと。五感が動き出すのを感じられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月25日（水）	計	備考
事業量	森林セラピーの講義 遊歩道の散策 樹木や苔等の植物観察 苔テラリウムの作成		
参加者数	31名 (参加者24名+講師3名+スタッフ4名)	31名	
実施場所	宮崎県日南市北郷町 (森林セラピー基地 猪八重溪谷ほか)		

かごしまの緑・元気な森林体験事業（A-129）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け、秋期のイベント（九州森林の日植樹祭・かごしま木材まつり）は、規模を縮小しての開催となり、春期イベント（みどりの感謝祭）については、大雨の影響も重なり中止となった。
- ・県内の地区植樹祭や木材まつりについても、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大半が中止となった。唯一、鹿児島地域のみが地区植樹祭を開催し、森林の重要性と森林を守り育てる大切さの普及に努めた。

2. 活動の成果

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、県や各市町村、森林管理署、林業関係団体、森林ボランティア団体との連携があまり出来ず、普及啓発イベントもほとんどが中止となった。
- ・次年度こそは、各方面との連携を強化し、積極的な普及啓発や情報発信に努めることとしたい。

3. 参加者の声

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、あらゆるイベントが中止となり、残念だったが、唯一「九州森林の日植樹祭」に何とか参加することができた。
- ・秋晴れのなか、汗ばみながら、ボランティアの皆で、抵抗性松を懸命に植えた。
- ・限られた参加人数で、全部で1,000本ものマツを植える作業は、なかなか大変だったが、完了したあとは、達成感を感じ、充実した気持ちになった。この地に立派な松林が成林し、自らの活動が白砂青松の森づくりの一助になれたと実感できる日が来ることを切に願っている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R2.10月～R3.2月	R3年4月	計	備考
事業量	・かごしま木材まつり木構造展(900人) ・九州森林の日植樹祭(177人) ・支部植樹祭(1地区)(100人)	みどりの感謝祭 ※大雨のため、中止。		
参加者数	1,177人	0人	1,177人	
実施場所	鹿児島市、南さつま市他			

かごしまの名木古木樹勢診断事業（B-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・県や市町村、教育委員会を通じて事業要望を募ったところ、離島を含め3市町から、6ヶ所8本の樹勢診断要望があった。（内訳：学校3ヶ所、神社他3ヶ所）
- ・11月5日付で日本樹木医会鹿児島県支部に調査業務を委託し診断を行い、全ての調査が終了したあと、その診断結果については各申請者に通知した。
- ・今後の診断向上のため、同樹木医会と共催で、被害状況の把握及び保全処置の手法等について研修を4月に計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむなく中止とした。

2. 活動の成果

- ・保全作業については、現場担当の樹木医と地元関係者が調整を図りながら、円滑に進めることができた。
 - 【鹿児島市】（県立図書館/エドヒガンザクラ）
土壌の固結や隣接樹木の影響により、根茎の発達や伸張が阻害されていたため、土壌改良と隣接木の除去・勢定により、樹勢の回復を図った。
 - 【南九州市①】（勝目小学校/タブノキ）
コウフキタケによる樹幹の腐朽及び土壌の固結による成長不良がみられるため、土壌改良、枯枝の除去、車輛の進入防止のための柵の設置を実施。
 - 【南九州市②】（霜出小学校/ケヤキ）
土壌が固結し、成長不良を起こしているとともに、樹幹の腐朽が進み着生植物も多いため、土壌改良による樹勢回復、腐朽部位の処理、着生植物の除去を実施。
 - 【西之表市①】（椿城小学校/アコウ）
土壌の固結に加え、台風による落ち葉、害虫による食害により、樹勢が衰退しているため、土壌改良を行い、通気性、保水性等の改善を図った。
 - 【西之表市②】（古田字広掛地/ヤクタネゴヨウ）
根元がシロアリにより腐朽し、空洞化しているため、腐朽部の除去処理、シロアリ駆除、併せてマツクイムシ予防のため樹幹注入を実施。
 - 【錦江町】（旗山神社/イチヨウ）
樹幹の腐朽及び着生植物により、樹勢が衰えていたため、腐朽部の処置、着生植物の除去、不要枝の剪定、腐朽防止処理を実施。
- ・当初5本程度の申請があるものと想定していたが6ヶ所（8本）の要望があった。
今後も更なるPRに努め、事業の掘り起こしに努めたい。

3. 参加者の声

- ・施設内の大切な木の樹勢が弱ってきていたので心配していましたが、保全措置をしていただき、安心した。また樹勢が復活し元気に育っていくと思うと嬉しい。
- ・学校で昔から受け継がれてきた貴重な木なので、次の世代にも引き継いでいけるように今後も大切に管理していきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R2.11月～R3.1月	R3.4月	計	備考
事業量	・樹勢診断6ヶ所8本 ・樹勢診断書作成6件	・樹勢診断にかかる現地研修会 （新型コロナのため中止）		
参加者数	1団体 （日本樹木医会鹿児島県支部）	0人	1団体・0人	
実施場所	樹勢診断：南九州市、鹿児島市、錦江町、西之表市 / 研修会：中止			

活力のある緑の少年団活動促進事業（C-62）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 緑を守り育てる活動を通じて、豊かな心を育成するため、県内で50団の緑の少年団が育成会や森林ボランティアの方々の指導のもと活動している。
- 活動の活性化を図るため、例年緑の少年団活動発表大会を開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各発表団の撮影動画による発表となった。
- 各地域単位で開催されていた4地区の交流集會も、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、1地区だけの開催となった。なお、4月に縮小開催予定であった全体の交流集會は、大雨による荒天のため、中止となった。
- そのほか、団の要望により、団旗や団服の整備に係る経費を支援した。

2. 活動の成果

- 例年開催している活動発表大会や緑化イベントを通じて、団相互の親睦が図られるとともに、情報が共有され、活動内容も多岐にわたってきていたが、新型コロナウイルス感染拡大により諸活動が制限され、影響が出ている。
- 近年は、児童数の減少により小・中学校の統廃合が進み、緑の少年団数も減少傾向であるが、緑化活動を通じた情操教育は、郷土や自然を慈しむ心を育てるとともに自然界における人間の役割を理解させる大切な環境教育である。
- 新型コロナウイルスの感染状況が収束するまでは、何かと制限も多くあるが、関係団体と連携を図りながら、側面から支援を継続していきたい。

3. 参加者の声

- 夏休み期間中に開催される地域の交流集會は、様々な森林体験プログラムや他の団との交流ができ、思い出づくりにもなる貴重な体験となっている。
- 新型コロナウイルス感染拡大による中止はやむを得ないが、今後も続けていただきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R2.8月	R2.11月	中止（R3.4月）	計	備考
事業量	地区交流集會 （1地区）	九州森林の日 植樹体験	全県交流集會 ※雨のため中止		
参加者数	34人	177人	0人	211人	
実施場所	和泊町	南さつま市			

森林ボランティア活動促進事業（C-63）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 一般公募による森林インストラクター養成講座（かごしま森林の学校）を開催し、新規育成に努めたほか、森林ボランティア活動の定着を図るため、実践活動や研修会を実施し、相互交流とスキルアップを図った。
- また、県森林ボランティア連絡会加盟団体24団体の自主活動を促進するため、年間活動費を助成し、組織の活性化を支援するなど、県民総参加による森林づくりの気運を醸成した。

2. 活動の成果

- 森林インストラクター養成講座（かごしま森林の学校）は、地元鹿児島大学等から外部講師を招き、計8回の講座を実施、10人に修了証を交付した。
- 森林ボランティア団体のリーダーを対象とした研修会（現地研修・救急救命法研修）への参加も定着してきており、四半期毎に開催する森林ボランティア連絡会議と相まって（※今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年3回実施）、情報共有および相互交流が促進され、資質の向上が図られた。
- また、団体運営の年間活動費の助成により、森林ボランティア団体の自主活動が促進され、公募事業などに積極的に取り組む団体も増加した。

3. 参加者の声

- 自然体験活動には、知識先行型、体験先行型があり、双方のバランスが重要であることを学んだ。森林環境教育の意義を理解して後世に繋げる役割は大きい。
- 野外活動の実施において、安全管理や蜂や落雷などに対する事故対策、様々な危険に対する注意義務など沢山のことを学んだ。今後指導者となって活躍できるように、幅広い知識を習得し、技術の向上に努めたい。
- 今回の学びのなかで、人の生活に欠かせない森林の重要性や木材の素晴らしさを再認識した。伐ったら植えて、育ててまた使うというサイクルが大事であることもよく分かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R2.8月～R3.3月	R2.10月2日、 R2.11月14日	R2.11月26日	計	備考
事業量	森林インストラクター 養成講座8回 修了者10人	ボランティアリーダー研修 （森林づくり研修、 救急・救命法研修）	志布志海辺の森 づくり実践活動		
参加者数	81人	40人	33人	154人	
実施場所	県内各地	鹿児島市・始良市	志布志市		

記念の森育樹活動事業（A-131）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施日 令和2年11月28日（土）

主 催 公益社団法人沖縄県緑化推進委員会、（株）沖縄海邦銀行

目 的 森林が地球温暖化防止に重要な役割を果たしている事について理解を深め、企業との協働の森づくりを進めるため「かいぎん平和の森」を造成し施肥等の育樹活動を実施した。

2. 活動の成果

潤いと安らぎのある緑豊かな美ら島に育てるには多くの人手と時間が必要であることに理解を深め、保育の重要性を認識し実践した。

沖縄県南部には見られない「ドングリの森」を造成することにより、県民に楽しんでもらうとともに企業との協働の森づくりの重要性をPRすることができた。

3. 参加者の声

これから適切に保育作業をすることによりさらに樹木が順調に生長して、将来、この場所でドングリの実を採取するのが楽しみ。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年11月28日	計	備考
事業量	記念の森育樹活動		
参加者数	60人	60人	
実施場所	沖縄県平和創造の森公園内（沖縄県糸満市）		

樹名板の作成、普及事業（A-132）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

身近な樹木に親しみを持ち、学ぶ機会とするため、学校や公共施設、公園等の樹木への樹名板の設置を促進する普及啓発を実施。科名、和名、方言名等を記載できる欄を設けた樹名板を作成し、学校や公共施設、公園等の樹木に設置するよう無償提供した。

2. 活動の成果

学校や公園等でよくみる樹木について、樹名板を設置することにより身近な樹木の名前を知り広く樹木、緑への関心を高めることができた。特に学校では、校内の樹木の学習の一環として児童生徒自ら樹木の名前を調べ樹名板の設置に取り組んだ。

3. 参加者の声

児童が自ら樹木の名前を調べ樹名板を設置することにより、身近にある樹木へ関心を持ち校内緑化の重要性を学習することができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年11月	計	備考
事業量	樹名板の作成普及事業		
参加者数	人	人	
実施場所	沖縄県内		

令和元年度・
事業期間延長分

「北海道木育フェスタ」春期推進事業（A-32）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「北海道木育フェスタ」は、広く道民や企業・団体に、森づくりや木づかいへの参加・協力を呼びかけ、道民全体の力で未来につなげる豊かな北海道を築きあげていく取組で、関係市町村と連携しながら、植樹祭や森づくりの集いなどを開催している。

令和元年10月には、約700名の参加を得て第70回北海道植樹祭・育樹祭を開催したが、令和2年春期に開催予定の「開会式&募金出発式」や「植樹祭&森づくりの集い」は、コロナ禍により中止となったことから、事業期間を延長いただき、北海道の木育を周知する取組を実施した。

2. 活動の成果

令和元年10月19日（土）には、第44回全国育樹祭のお手入れ会場となる苫東・和みの森（苫小牧市）において、約700名の参加を得て「北海道植樹祭・育樹祭」を開催し、催事等を通じて参加者へ広く普及・啓発を行った。

令和2年春期に開催予定の行事は、コロナ禍により中止を余儀なくされたが、10月3日（土）に開催された「農業農村フェスタ」において「木育」ブースを出展し啓発を行った。

また、道内の緑化活動団体等を紹介した広報誌「Gift」を作成し、関係機関・団体等へ配布して普及啓発を行った。

3. 参加者の声

令和元年10月に開催した「北海道植樹祭・育樹祭」では、雨天ではあったが一般参加者もいて、植樹や育樹だけでなくアトラクションや催事等の行事を楽しんでおり、参加した小学生は「寒いけど植樹体験で体を動かすと暖かくなり、テント村での木工が楽しい」などの声が聞かれた。

令和2年10月に開催した農業農村フェスタの「木育」ブースにおいては、コロナの感染予防のため木工体験は行わず、パネル展のクイズを行って正解者へ自宅でできる体験キットを配布したことから、開始から1時間ほどで景品がなくなり終了せざるを得なかった。参加者からは「自宅で制作できる木工体験キットが楽しみ」との声が聞かれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R1.10.19	R2.4.26	R2.5.9	R2.10.3	R3.6.2	計
事業量	木育フェスタ2019 北海道植樹祭	木育フェスタ2020 開会式&緑の募金 出発式	木育フェスタ2020 植樹祭&森づくり の集い	農業農村フェスタ 木育パネル展	木育フェスタ 駒岡小入学記念 植樹会	
参加者数	700名	中止	中止	95名	17名	812名
実施場所	苫小牧市 苫東・和みの森	札幌市 道庁赤れんが庁 舎前庭	札幌市・江別市 野幌森林公園	札幌市 道庁赤れんが庁 舎前庭	札幌市 南区真駒内	

福島県森林・林業・緑化協会

第32回ふくしま緑の百景歩こう会（C-23）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑あふれるコースを歩き、自然と緑の大切さを再認識し、環境保全に対する意識の高揚を目的にあわせて、参加者の健康増進と開催自治体の活性化を図るために毎年開催している。今年は白河市で実施。

白河藩主、松平定信により身分を越えて誰もが楽しめる「士民共楽」の理念のもと、1801年に築造された、緑あふれる南湖公園や近代日本の経済の父と言われる渋沢栄一が建立した南湖神社や日本庭園の翠楽園、南湖の周辺の松並木や緑など「ふくしま緑の百景」の選定地、「南湖公園のアカマツ」の並木道を中心に、福島県の玄関口、白河市の城下町の街並みや白河市内にある緑豊かな中に建つ「名城・小峰城」や「小南湖」と呼ばれる緑あふれる湖水周辺、歴史ある建造物などを巡り、健康づくりと、ふくしま緑の百景の景勝地を歩くことで自然と緑の大切さを学んでいただいた。

2. 活動の成果

今回は新型コロナウイルスの感染防止のため、参加者を福島県在住の方のみに限定しての開催とした。

コースは福島県白河市の緑豊かな城下町を歩く特設コースで開催。豊かな自然と県内でも有数の歴史と景勝地でもある松平定信翁が築城した小峰城と南湖公園を中心に緑豊かな城下町を歩きながら、自然と共にウォーキングコースを楽しんだ。

特にスタート地点の南湖森林公園は、森林とのふれあいを通じ緑や自然の大切さを学べるよう、白河市民が中心となってつくった緑豊かな公園で、遊歩道では森林浴が楽しめる、大切な緑を守り育てる公園として市民に親しまれている。

公園内の特設ブースでは、様々なおもてなしや名産品、銘菓を振舞った。緑の募金も行い、県内参加者から緑化の募金を募り参加者や市民の皆さんにもアナウンスなどで緑化推進啓蒙活動を行った。

3. 参加者の声

福島県の玄関口白河市にある南湖公園を中心とした城下町の美しい自然と緑、奥深い歴史の地で開催。

多くの参加者が訪れ豊かな自然を城下町ならではの風景、景観を楽しんでいただき、緑の大切さを学んでいただいた。

南湖森林公園の小高い山の一部未舗装の上り坂を歩き、濃密な森の空気と森のパワーを感じていただきました。

南湖森林公園の未舗装の丘や緑あふれる上り下りの起伏のある特設コースを設定、参加者は緑の景色に感動していた。

参加者からは、「来年も是非、ふくしま緑の百景歩こう会に参加したい」、との声を多数お寄せいただきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月17日（土）	備考
事業量	第32回緑の百景歩こう会開催	
参加者数	380人	
実施場所	福島県白河市	

群馬県植樹祭開催（A-52）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの県民の参加のもと、緑化思想の普及・啓蒙を図るため、令和2年5月23日、群馬県、関東森林管理局、渋川市及び林業関係団体等と8者共催で、「第74回群馬県植樹祭」を渋川市で開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大のため一年延期することとした。

令和3年5月22日に、コロナ対策を行い、規模も縮小して実施に向け準備していたところ、直前に群馬県が新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づくまん延防止等重点処置の対象となり、再度、今秋に延期することとなった。

延期に伴い、植樹祭式典で表彰する予定であった、群馬県緑化運動原画コンクール、標語入賞者及び県緑化功労者に対して、小学校及び市役所で伝達式を実施した。

2. 活動の成果

伝達式は、県内マスコミ各社から取材を受け、地元新聞、テレビ、FMラジオなどで紹介され、緑化活動の重要性を広報することができた。

植樹予定地の植樹を、これ以上延期できないため、低木を中心に実施した。秋季には高木類や隣接地に低木類を参加者全員で植え、緑化思想の普及啓蒙を図ることとしたい。

3. 参加者の声

- ・自分の書いた絵がポスターになって嬉しかった。
- ・功労者として表彰されありがたい。今後も活動を継続したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和2年7月8・9日	(参考)	令和2年5月23日	(参考)	令和3年5月22日	備考
事業量	緑化功労者等表彰状伝達		第74回群馬県植樹祭(延期)		第74回群馬県植樹祭(延期)	令和3年5月末までに植樹祭植樹予定地に植栽の一部を実施
参加者数	20人		1,000人		400人	
実施場所	各学校、市役所		群馬県渋川市赤城町「赤城運動自然公園」			

巨樹・古木巡りツアー事業（A-54）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・県内各地に点在する巨樹・古木の現状と治療状況を樹木医の解説を交えながら観察し、保全の必要性や重要性等の認識と理解を深め、緑化思想の高揚と啓蒙を図る事を目的として、春、秋に県内4コースにわかれて巡る日帰りバスツアー春のツアーは新型コロナウイルスの感染拡大防止のため募集まで行ったが中止した。
- ・併せて県内の巨樹・古木を紹介する冊子を作成し市町村等関係各所に配布し広く県民に普及啓蒙を図る。

2. 活動の成果

- ・県内各地の代表的な巨樹・古木を樹木医の解説を交えながら観察するツアーと紹介冊子の作成により、人と森林との関連の歴史を学び山村地域の隠れた財産を知る事で、関連の歴史を学び、森林の重要性や緑化思想と啓蒙を図ることが出来た。

3. 参加者の声

- ・長い年月を生きてきた木々にふれその生命力にやされ力もらった。
- ・県内に巨樹・古木がこんなにあったのは驚いた。
- ・100箇所近くを掲載された群馬の巨樹・古木めぐりの冊子、県内にこんなに数多くの財産があることを改めて知る事が出来た。これをもとに四季の巨樹・古木を見にいきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月20日	備考
事業量	巨樹・古木巡りツアー	冊子作成
参加者数・配布数	156人	700部
実施場所	群馬県一円	市町村等関係各所

緑・森林の感謝祭等事業及び児童啓発事業（A-75）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑豊かな住み良い郷土づくりを進めるため、森林の重要性等について県民の一層の理解と関心を深めるべく、県内各地区での植・育樹祭、講演会、緑化の推進事業等を実施した。また、郷土の森林と川を題材にした絵本を作成したほか、緑の募金活動のPRを行った。

2. 活動の成果

新型コロナウイルス感染症の広がりでの集まりが制限される中、地域の実情に応じて行われた植樹祭や育樹祭においては、地域住民に対して森林環境の大切さや森の恵み・木材利用について理解を深めてもらい、さらなる健全な森林づくりの機運を盛り上げるとともに、緑豊かな住みよい県土づくりの推進が図られた。

絵本作家藤岡牧夫氏とともに調査・取材を行った成果を基に制作した絵本「森のくまさん南信州へゆく」が完成し発刊することができた。今後は県内の保育園に寄贈する活動を通じて子供たちに森の不思議さ楽しさ大切さを伝えていきたい。

3. 参加者の声

植樹祭や育樹祭など山での作業に参加した方々からは、緑づくりに参加した満足感や自然の中で体を動かし汗をかくことの心地よさが体感できて良かったとの声が聞かれた。また、木や木材利用の講演を聴いた方々からは、木材の利用価値や利用することで森林整備に通じ持続可能な社会の実現に通じることを知ることができて良かったとの声をいただいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和元年7月1日～令和3年3月15日	計	備考
事業量	植育樹祭等の開催：2地区（参加10市町村）	2箇所	
	講演会等の開催：2地区（参加21市町村）	2回	
	環境教育・啓発：6地区（参加41市町村）	35箇所	
	緑化木の頒布：2地区（参加14市町村）	88箇所	
	絵本の作成・刊行	2,000部	
参加者数		1,982人	
実施場所	長野県 長野市、松本市ほか33市町村		

高知県森と緑の会

森の魅力普及啓発事業（A-109）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林の持つ機能等を伝え、森林を守り育てることの必要性を啓発する学習として、小学校を対象に水源涵養の学習と広葉樹の植樹を行った。また、一般を対象に剪定講習を行い、樹木の保護・育成について学習した。今後の普及啓発のツールとして、ホームページを作成した。今後は情報発信を行っていく。

2. 活動の成果

小学生を対象とした植樹体験では、農林漁業分野と教育分野が連携した事業を行うことができ、一次産業の生産現場となる林地、農地、海をまたがる水流域の水源涵養の学習や植樹体験を通じて、次世代に森林の持つ多面的機能を伝え、森林が生活に欠かせないものであることを伝えることができた。一般を対象とした剪定講習では、身近な樹木の手入れを通じて、森林保全の必要性やボランティア活動により森林保全に参加できることを伝えることができた。

3. 参加者の声

- ・植樹という貴重な体験をさせていただきました。植樹をすることにより、土砂の流出を防ぎ、雨をろ過しきれいな水になり、川から海へ流れ、魚などの生物が住んでいけることを学べた。また、植樹をしてみたい。
- ・自然の中で身体を動かすことができ、気持ち良かった。自宅や身近な公園などで学んだことを実践したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2月3日	6月14日	計
事業量	農林漁業の学習と植樹体験	剪定講習	
参加者数	104人	28人	132人
実施場所	宿毛市	南国市	

緑の少年団活動助成事業（C-57）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施主体：(公社) 熊本県緑化推進委員会

目的：県下に67団ある「緑の少年団」の育成並びに活動の活性化、更に、新規団の創設に向けて、古くなった団旗や帽子、スカーフなどの補充及びTシャツの配布を行い、緑の少年団活動の一層の充実を図る。

内容：緑の少年団装備品整備

団旗の更新	6 団	6 本
スカーフ配布	11 団	279 枚

2. 活動の成果

装備品が新しくなることで、少年団活動が活発になる。今後は、Tシャツの配布等も含め、少年団活動を後押しする取組みを進める。

3. 参加者の声

団旗などの章備品は、発足当時のもので古くなっていた。新しい装備品を購入いただいたことで団員や指導者のモチベーションも上がり今後の活発な緑の少年団活動の取組みが期待される。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～1月	計	備考
事業量	団旗の更新 6 団 6 本 スカーフ配布 11 団 279 枚	団旗の更新 6 団 6 本 スカーフ配布 11 団 279 枚	
参加者数			
実施場所	熊本県熊本市、宇城市、美里町、荒尾市、和水町、南関町、菊池市、菊陽町、津奈木町、あさぎり町、水上村、天草市、苓北町の緑の少年団		

令和2年度 緑と水の森林ファンド都道府県事業一覧

(単位：千円)

都道府県	区分	番号	事業名	助成額	実行額	備考
北海道	普	A1	青少年育成事業	160	160	
	普	A2	「美遊の森」体験学習事業	100	100	
	普	A3	森林・みどり環境教育推進事業	150	0	減額
	普	A4	緑の少年団野幌森林公園道有林育樹事業	19	19	
	普	A5	森林ボランティア活動推進事業	400	400	
	普	A6	野幌自然休養林再生事業を中心とした普及啓発事業	80	80	
	普	A7	次世代に引き継ぐ森林づくり事業	200	200	
	普	A8	北海道指導林家社会貢献緑化推進事業	100	100	
	普	A9	お魚を増やす植樹運動促進事業	300	300	
	普	A10	森林公園観察会	150	75	概算・期間延長1年
	普	A11	林間学校	80	80	
	普	A12	旭山希少種調査・保護、生物多様性保全事業	160	160	
	普	A13	☆持続発展教育（ESD）に向けた木育の取組	145	0	期間延長1年
	普	A14	家族きのこ観察会&野生きのこ展示活動事業	100	100	
	普	A15	町有林・げんきの森育樹事業	130	130	
	普	A16	身近な森林再発見事業	200	0	期間延長1年
	普	A17	☆里山保全の担い手づくり普及促進事業	200	0	期間延長1年
	普	A18	五稜郭保安林清掃事業	64	64	
	普	A19	☆木育講座	300	300	
	普	A20	ひやま木育フェスタ～全国育樹祭開催記念～	130	130	
	普	A21	木になるフェスティバル	170	0	減額
	普	A22	市民参加による協働の森づくり事業	120	0	期間延長1年
	普	A23	普及啓発事業	350	0	減額
	普	A24	「望みの森」森林浴の集い	100	100	
	普	A25	☆枝幸町民植樹祭	200	0	減額
	普	A26	森林を活用した青少年育成対策事業	100	0	期間延長1年
	普	A27	森林及び木製遊具体験事業	130	130	期間延長1年
	普	A28	生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業	110	110	
	普	A29	津別「げんきの森」活用推進事業	130	130	
	普	A30	緑化団体ネットワーク推進事業	50	25	概算・期間延長1年
	普	A31	緑の少年団なかしべつ冒険クラブ事業	50	50	
	普	A32	木育ひろば in チ・カ・ホ	500	500	
	普	A33	北海道木育フェスタ推進事業	1,186	593	概算・期間延長1年
	普	A34	道民森づくりの集い in 赤れんが	0	1,280	増額
基	C1	馬追自然の森整備事業	80	80		
	C2	清流と魚を守る森林（もり）づくり造成事業	64	0	期間延長1年	
	C3	台風被災森林の植栽後の保育活動	80	80		
	C4	「遊々の森」での森林体験事業	160	0	減額	
	C5	コンサ百年の森づくり事業	170	0	減額	
	C6	サミットの森プロジェクト	64	64		
	C7	地球を守る森林の整備事業	80	80		
	C8	「ラブアースの森づくり」事業	100	100		
	C9	☆里見緑地内植樹・環境整備事業	60	60		
	C10	天売島における水源林整備と間伐材の有効利用	200	200		
	C11	風倒被害を軽減し野幌の自然豊かな森づくり	80	80		
	C12	未来に向かって日高の森林づくり事業	50	0	期間延長1年	
	C13	日高の森づくり事業	160	160		
	C14	新ひだか町営林友の会森林づくり事業	60	60		
	C15	「おさかなの森づくり運動」事業	120	120		
	C16	市街地緑化事業	100	100		
	C17	サケの上る森づくり植樹祭	80	0	減額	
	C18	お魚を殖やす森づくり	64	64		
	C19	ユネスコの森づくり	50	50		
基	C20	赤岩青巖峡環境整備事業	120	120		
	C21	森と市民をつなぐプロジェクト	144	144		
基	C22	「帯広の森」づくり事業	100	100		
	C23	☆緑いっぱい事業	300	300		
普	A34	青森県森林づくり推進体験学習活動事業	1,000	1,000		
	A35	木と人とのふれあい事業	960	960		
岩手	普	A36	令和3年度遠野市緑化祭『里山フェスタ2021』	200	200	
	普	A37	「2020森林とのふれあい外山森林公園（第13回盛岡市民育樹祭）」	200	0	減額
	普	A38	☆木工・クラフト体験	300	0	期間延長1年
	普	A39	ふるさとの巨樹・名木観察会	200	200	
	普	A40	「どんぐり・花を育てよう事業」	1,750	1,950	増額
宮城	基	C24	宮城県みどりの少年団大会開催事業	2,040	2,040	
秋田	普	A41	緑と水のキャンペーン事業	1,250	1,250	
	普	A42	市民グループ森林づくり事業	700	700	
	基	C25	緑の少年団育成事業	450	450	
	基	C26	森林活動指導者支援事業	250	250	

(単位：千円)

山形	普	A 43	山形県緑の少年団支援事業	980	0	減額
	普	A 431	緑の少年団活動のための機材等整備支援事業	0	980	増額
	普	A 44	山形県林業まつり開催事業	720	0	減額
	普	A 441	緑化木贈呈事業	0	720	増額
	普	A 45	庄内森とみどりのフェスティバル開催事業	260	0	減額
福島	普	A 451	緑の募金普及啓発事業	0	260	増額
	普	A 46	緑化普及啓発事業（第29回緑の提言・作文コンクール）	900	900	
	普	A 47	森林・林業とのふれあい事業（第45回福島県林業祭）	700	700	
	普	A 48	ファミリー緑の教室開催事業	400	0	減額
	普	A 49	☆次世代を担う子どもたちによる森林づくり会議開催事業	200	0	減額
茨城	普	A 49	ふくしま緑の醸成事業	0	600	増額
	基	C 27	都市と農村の交流事業	900	0	期間延長1年
	普	A 50	青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業	150	150	
	普	A 51	緑の体験教室開催事業	350	350	
	普	A 52	グリーンフェスティバル開催事業	600	600	
栃木	基	C 28	森林ボランティア育成事業	300	300	
	基	C 29	山村地域づくり活動助成事業	550	550	
	基	C 30	緑化樹木等苗木無償配布事業	410	410	
	普	A 53	森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業	1,840	1,840	
	基	C 31	青少年の教育の場としての森林の活用促進事業	200	200	
群馬	普	A 54	群馬県植樹祭開催事業	850	0	期間延長1年
	普	A 55	森と木のまつり事業	500	0	期間延長1年
	普	A 56	巨樹・古木巡りツアー事業	700	700	
	普	A 57	緑の少年団活動活性化事業	480	480	
埼玉	普	A 58	さいたま森林フォトコンテスト事業	1,550	1,550	
	普	A 59	緑の少年団活動支援事業	170	170	
	普	A 60	緑化普及啓発事業	690	690	
千葉	普	A 61	木づかい推進・普及啓発事業	850	700	減額
	普	A 62	森林・林業技術講習会	160	160	
	普	A 621	九十九里海岸防災林再生植樹事業	0	900	増額
	基	C 32	千葉県みどりの少年団交流会事業	750	0	減額
東京	調	B 1	ふるさとの杜活力調査事業	2,250	2,250	
神奈川			該当無し		0	
新潟	普	A 63	普及啓発情報誌「林業にいがた」発刊事業	683	683	
	普	A 64	「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業（秋期）	1,386	1,363	
	普	A 65	「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業（春期）	1,668	1,668	
	普	A 66	緑化団体活動周知・地理情報活用事業	423	423	
富山	普	A 67	森林・木材等普及啓発事業	1,373	1,373	
	基	C 33	花とみどりの少年団活動支援事業	307	307	
	基	C 34	森づくりグループ活動支援事業	50	50	
石川	普	A 68	緑化思想の普及啓発事業	120	120	
	基	C 35	県内産緑化苗木無償配布事業	190	190	
	基	C 36	森づくりボランティア・キャンペーン事業	1,450	1,450	
福井	普	A 69	もりとふれあい推進事業（普及啓発事業）	1,370	1,370	
	基	C 37	ふくい森林づくり推進事業（活動基盤の整備）	500	500	
山梨	普	A 70	普及啓発事業 緑の少年隊森林学習会	390	75	減額
	普	A 71	普及啓発事業 教職員森林・林業研修	140	140	
	普	A 72	普及啓発事業 子ども樹木博士認定事業	190	190	
	普	A 73	普及啓発事業 森の教材「くらしと森林」発刊事業	308	308	
	普	A 74	普及啓発事業 親子緑の集い	370	370	
	普	A 75	普及啓発事業 緑化ポスター・標語コンクール開催	320	247	減額
	普	A 76	普及啓発事業 緑の活動発表会	130	130	
長野	普	A 77	普及啓発事業（公財）山梨県緑化推進機構設立30周年記念誌（仮称）作成費	482	870	増額
	普	A 78	緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業	4,160	2,080	期間延長1年
岐阜	普	A 79	緑化推進活動促進と活動資材提供事業	1,940	2,006	増額
	普	A 80	みどりの啓蒙推進事業	600	60	減額
	基	C 38	恵みの森づくり事業（令和2年度分）	640	873	増額
静岡	普	A 81	森づくり県民大作戦支援事業	840	840	
	基	C 39	緑の少年団交流集会開催事業	2,500	2,500	
愛知	普	A 82	普及啓発 みどりに親しむ集い事業	900	300	減額
	普	A 83	みどりフェスティバル21春事業	500	600	増額
	普	A 84	苗木の育成と配布事業	500	500	
	普	A 841	記念誌発行配布事業	0	500	増額
	調	B 2	調査研究 ふるさと樹木診断事業	1,080	1,080	
	基	C 40	活動基盤整備 森林ボランティア養成事業	850	750	減額
三重	普	A 85	県民参加の森林づくり運動推進（巨樹・古木見学会、クマノザクラ観察会）	490	577	増額
	普	A 86	森林イベント参加	200	126	減額
	普	A 87	森林ボランティア活動促進	870	926	増額
	普	A 88	緑の少年隊活動推進	500	317	減額
	普	A 89	森林教室開催	110	296	増額
	普	A 90	海・山連携植樹活動実施	240	168	減額

(単位：千円)

滋賀	基	C 41	緑の少年団育成事業	2,250	2,250	
京都	普	A 91	京都モデルフォレスト運動連携強化事業	2,000	1,000	概算・期間延長1年
大阪	普	A 92	自然環境保全団体ネットワーク事業	1,500	642	減額
	普	A 93	府民参加の森林づくりのための普及啓発	750	2,207	増額
	普	A 94	森林ESDの推進	600	0	減額
兵庫	普	A 95	地域緑化イベント開催事業	400	200	概算・期間延長1年
	基	C 42	森林整備・緑化活動支援事業	2,540	2,256	
奈良	普	A 96	森の文化活動事業	1,510	1,510	
	基	C 43	ボランティア緑化活動事業	200	200	
和歌山	普	A 97	青少年を対象とする森林ESDの推進など森林環境教育の促進事業	1,690	1,362	
	基	C 44	森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援事業	640	640	
鳥取	普	A 98	活動基盤整備事業「樹名板設置事業」	700	518	減額
	普	A 99	活動基盤整備事業「木工工作キット配布事業」	740	1,222	増額
	基	C 45	活動基盤整備事業「青少年・民間活動グループ育成事業」	200	100	減額
	基	C 46	森林空間活用推進事業	200	0	減額
島根	普	A 100	「森の誕生日」2021事業	400	0	期間延長1年
	基	C 47	緑の少年団育成強化事業	1,400	1,400	
岡山	普	A 101	森林を考える岡山県民のつどい	300	0	減額
	普	A 102	県産木材フェア開催事業	400	500	増額
	普	A 103	もりもりクラブ普及活動事業	124	30	減額
	普	A 104	第36回くらしき都市緑化フェア	450	550	増額
	基	C 48	緑化普及推進事業	1,216	1,410	増額
広島	普	A 105	「みどりの集い」開催事業	1,520	0	期間延長1年
	普	A 106	「ひろもくデザインアワード」開催事業	500	500	
	基	C 49	緑の少年団交流集会開催事業	1,000	770	減額
山口	普	A 107	森林体験学習支援事業	640	640	
	基	C 50	都市と山村ふれあい交流促進事業	360	360	
	基	C 51	記念の森造成事業	1,000	1,000	
徳島	基	C 52	企業の森づくり普及啓発イベント事業	1,960	1,960	
香川	普	A 108	緑化普及活動事業	1,410	1,410	
愛媛	普	A 109	木工作品製作キット配布事業	1,880	2,080	増額
	普	A 110	愛媛の森林友の会の育成及び研修活動	200	0	減額
高知	普	A 111	土佐の名所の樹木活性化事業	680	727	増額
	普	A 112	森のようちえん推進事業	450	450	
	普	A 113	森の魅力普及啓発事業	471	0	期間延長1年
	普	A 114	高知県森林インストラクター養成講座	400	400	
	基	C 53	地域の森林整備事業	249	0	
	基	C 54	活動基盤整備推進事業	80	80	
	基	C 55	「里まちプロジェクト」森林資源の整備と森林環境教育をもっと身近なものに！！	400	400	
福岡	普	A 115	ウッドフェスタ2020福岡	520	0	減額
	普	A 116	森林ふれあい交流	300	300	
	普	A 117	グリーンフェスティバル2021	570	0	期間延長1年
	普	A 118	第30回世界子ども愛樹祭コンクール	300	300	
	普	A 119	那珂川市植樹祭	300	0	減額
	普	A 120	第9回もりもり広がる森林づくり	300	300	
	普	A 120-1	「緑豊かな郷土づくりのための植栽整備」	0	820	増額
	基	C 55	「里まちプロジェクト」森林資源の整備と森林環境教育をもっと身近なものに！！	400	400	
佐賀	普	A 121	よかウッドフェスタ	1,400	1,325	
	基	C 56	緑の探検学習会	390	390	
長崎	普	A 122	森林のつどい事業	1,120	1,280	
	基	C 57	緑の少年団活動活性化事業	1,150	1,490	
	基	C 58	森のめぐみいきいき活用促進事業	500	0	減額
熊本	普	A 123	くまもと森づくり普及・啓発事業	1,000	1,000	
	基	C 59	緑の少年団活動助成事業	1,090	1,202	増額
	基	C 60	シンボル森林の活用促進事業	600	487	減額
大分	普	A 124	ふれあい森林教室	700	660	減額
	普	A 125	木と暮らしのフェア	80	0	減額
	普	A 126	☆大分県みどりの少年団のつどい	240	0	減額
	調	B 3	名木保全事業	850	1,210	増額
	基	C 61	森林ボランティアリーダー養成研修	170	170	
宮崎	普	A 127	緑と花のふれあい推進事業	2,370	2,370	
	普	A 128	森林浴癒しの集い事業	280	280	
鹿児島	普	A 129	かごしまの緑・元気な森林体験事業	1,630	1,630	
	調	B 4	かごしまの名木古木樹勢診断事業	250	250	
	基	C 62	活力のある緑の少年団活動促進事業	900	900	
	基	C 63	森林ボランティア活動促進事業	850	850	
沖縄	普	A 130	令和2年度緑の育樹祭開催事業	1,470	0	減額
	普	A 131	記念の森育樹活動事業	0	180	増額
	普	A 132	樹名板の作成、普及事業	0	1,289	増額
			合 計	118,070	104,757	

令和元年度 緑と水の森林ファンド都道府県事業一覧

(単位：千円)

都道府県	区分	番号	事業名	助成額	実行額	変更申請
						金額
北海道	普	A 32	「北海道木育フェスタ」春期推進事業 (A - 32)	1,842	1,842	期間変更
福島	基	C 23	第32回ふくしま緑の百景歩こう会 (C - 23)	900	900	期間変更
群馬	普	A 52	群馬県植樹祭開催 (A - 52)	850	700	金額変更
	普	A 54	巨樹・古木巡りツアー事業 (A - 54)	700	850	金額変更
長野	普	A 75	緑・森林の感謝祭等事業及び児童啓発事業 (A - 75)	4,160	4,160	期間変更
高知	普	A 109	森の魅力普及啓発事業 (A - 109)	400	637	金額変更
熊本	基	C 57	緑の少年団活動助成事業 (C - 57)	500	500	期間変更
			合 計	9,352	9,589	

国 緑 2 第 2 号
令和2年 2月1日

都道府県緑化推進委員会 様

公益社団法人 国土緑化推進機構
理事長 佐々木 毅

令和2年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業の助成申請について

令和2年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業の要望につきましては、別添「令和2年度緑と水の森林ファンド都道府県事業実施要領」（以下、「要領」という。）を踏まえ、〔様式1〕により令和2年4月10日（金）までに提出してください。

なお、最近の厳しい経済情勢から森林ファンド運用収入が減少傾向で推移しております。事業の助成申請に当たっては、必要性・効率性等に十分留意されますようお願いいたします。

また、具体的事業内容につきましては、地域の実態・特性を十分考慮するとともに重点課題（別添「要領」のⅡ）の趣旨を踏まえて申請するよう併せてお願いいたします。

担当：基金業務 井上
03（3262）8457
E-mail: inoue@green.or.jp

令和2年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業実施要領

I 基本方針

社会環境の変化に伴い、国民の森林・みどりに対する関心はますます高まっており、具体的な「国民参加の森林づくり運動」を一層推進することが課題となっています。

平成24年12月「国際森林デー」の制定、平成25年11月「国連持続可能な開発のための教育10年（ESD）」世界会議等の意義、平成27年9月の国連サミットで採択された17の国際目標（SDGs：持続可能な開発目標）、人生100年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林利用の促進を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中、公益社団法人国土緑化推進機構では、「緑と水の森林ファンド」の基本課題である森林資源の整備及びこれらを通じた水資源のかん養や森林の利用等に関する総合的な調査研究、普及啓発、基盤整備等の推進を図るため、民間団体の主体的・多様な参加による「国民参加の森林づくり」運動を展開することとし、以下により「緑と水の森林ファンド」都道府県事業を実施します。

II 重点課題の設定

令和2年度においては、以下の重点課題を設け、これらのテーマに沿った事業を重点的に実施することとします。

- ① 「森林環境教育（森のようちえんを含む）」、「震災復興支援」、「地域材の利用」、「地球温暖化防止と森林」、「森林と水」、「森林の利用」等の課題にポイントを置いた総合的・効率的な普及・啓発
- ② 地域材の利用推進等山村資源の有効活用等による山村地域の活性化
- ③ リーダーの養成等の森林ボランティア活動支援
- ④ 学校林活動の推進など森林環境教育（森のようちえんを含む）等による次世代の育成
- ⑤ 森林の公益的機能、木質バイオマス、森林環境教育等に関する調査研究

Ⅲ 具体的な事業の展開

普及啓発、調査研究、活動基盤の整備、国際交流の四分野において、以下の事業を重点的に実施する。

1 普及啓発事業

- (1) 森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発活動
- (2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育の促進
- (3) 森林づくり活動や森林の総合的利用を通じた山村地域の活性化・地域づくり運動の推進
- (4) 地域材の利用・木材需要の拡大、古紙利用等の推進

2 調査研究

- (1) 森林の保全・公益的機能の増進等に関する調査研究
- (2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育に関する調査研究
- (3) 学校林や学校周辺林の教育的活用のための調査研究
- (4) 山村資源の有効活用・地場産業の振興等山村地域活性化に関する調査研究

3 活動基盤の整備

- (1) 森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援
- (2) 森林づくり活動を通じた農山村と都市住民等との交流促進
- (3) 青少年の教育の場としての森林の活用促進
- (4) 地域のシンボリック森林の利用促進

4 国際交流

- (1) 国内で開催される森林・環境に関する国際会議への支援
- (2) 森林・林業に関する海外との情報交換

Ⅳ 事業の適切な実施

令和 2 年度も厳しい予算事情にあることから、事業の必要性、緊急性、効率性、独自性や地域の特性等を十分考慮し、適切な実施に努めるものとする。

緑と水の森林ファンド都道府県事業 報告集 Vol.10

令和4年3月発行

発行 公益社団法人 国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館

TEL.03-6362-8457 FAX.03-3264-3974

電子メールアドレス : info@green.or.jp

URL : <http://www.green.or.jp>



緑と水の森林ファンド



高知県森林インストラクター養成講座（高知県立森林研修センター）
高知県森と緑の会